履修の手引

平成28年度

Kindai Univ.

FACULTY OF HUMANITY-ORIENTED SCIENCE AND ENGINEERING　KINDAI UNIVERSITY

近畿大学 産業理工学部

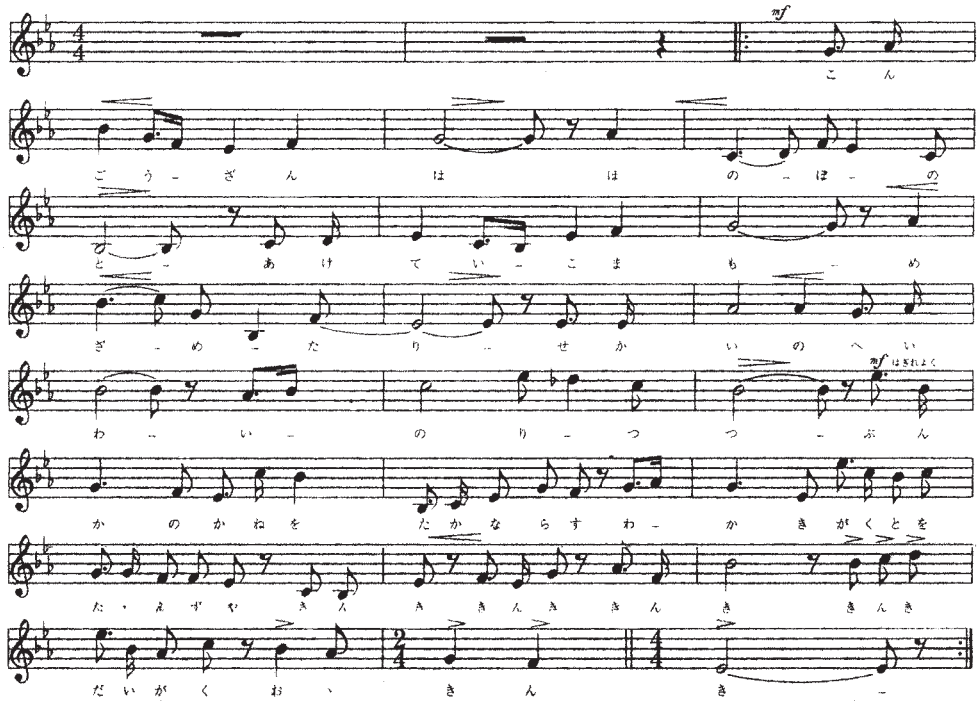
URL; http://www.fuk.kindai.ac.jp/

16

校　　歌

近 畿 大 学 校 歌

世耕　弘一　作詞
今中　楓溪　補作
樋口　昌道　作曲



(1)　金剛山はほのぼのと　　明けて生駒も目ざめたり
　　世界の平和祈りつつ　　文化の鐘を高鳴らす
　　若き学徒を讃えずや　　近畿　近畿　近畿
　　近畿大学　おお近畿

(2)　開けゆく代のさきがけと　　進む行く手に栄えあれ
　　理想の光相追いて　　真実一路あこがれの
　　若き学徒に誇りあり　　近畿　近畿　近畿
　　近畿大学　おお近畿

(3)　外国までも響けよと　　高き文化の足音を
　　互いに誓い競い立ち　　真理に愛に魂結ぶ
　　若き学徒にほまれあれ　　近畿　近畿　近畿
　　近畿大学　おお近畿

校章・学園章について

校　章

難波津に咲くやこの花冬ごもり
　　今は春べと咲くやこの花（古今集序）

この古歌にあるように、梅花は本学発祥の地難波にゆかりの深い名花です。この和歌は、昔子供の手習いの初めに学んだ歌で、教育とも深いつながりがあります。厳寒をおかし春にさきがけて、馥郁たる花を開く梅花は百花の兄、その気高い気品と、霜雪にたえる強き操守を愛でて「花も実もある」梅花を、純真な若き学徒の心の象徴として、校章としたものです。

(注)「難波津」は大阪の古名であり「この花」は梅花の雅称です。

学園章

平成２年６月、創立65周年を記念して近畿大学学園のシンボルマークとして学園章が制定されました。

本学の学園花は梅であり「梅花霜雪を経て開く」と云われるとおり～自然の厳しさを経て、春いちばん、品格高き花が咲きひらく～このことを象徴しています。

学園章は、この梅の花弁を、少しほぐしてシンボル化したものです。五つの花弁は大学の「大」の字をかたどり、人間づくりの「人」そのものを表しています。また、五つの花弁の真ん中は大阪を中心に、まわりを九州、広島、兵庫の但馬・豊岡、奈良、紀州と近畿大学所在地の大別五地域を「大」がつなぎ固めている、という象徴的意味を持っています。

さらに上方中央の輪がやや離れている部分は、学園が未来志向の大学であり、内面的に未完なるがゆえに、今後さらに充実・完成を目指し、努力を傾けていく姿勢を示したものであります。

極めて簡潔に、一本のつよい曲線の連続によって描かれています。

教育の目的は

人に愛される人
信頼される人
尊敬される人

を育成することにある

学　長　塩﨑　均

学部長　荒川　剛

新入生の皆さんへ

産業理工学部　学部長　荒川　剛

大学では皆さんが主体的に自ら学ぶということを基本にしています。私たち教職員は皆さんが大学生活を有意義に過ごせるように努力していますが、皆さんには一人一人が主役となり、自ら意義ある大学生活にしていくことが求められているのです。皆さんの自主性が尊重されるとともに、責任をもつことも要求されます。

「履修の手引」には各学科の教育目標、進級ならびに卒業の要件、開講科目の一覧などがあり、「シラバス」には講義内容などが書かれています。いつも手元に置き、読んでみて疑問に思う点があれば担当教員に相談して下さい。履修方法を誤ったために進級できなくなるといった事態を招くことがないように、卒業後の進路を考えながら履修計画を立てて下さい。

教職員一同、本学部での学生生活が楽しく、実り多いものとなることを願っております。

沿　　革

●大正 14 年 大阪専門学校設立
●昭和 18 年 大阪理工科大学設立
●昭和 24 年 近畿大学設立（新学制により上記 2 学を合併）
●昭和 40 年 第二工学部校舎本館 1 号館竣工
●昭和 41 年 第二工学部一部（工業化学科、建築学科、電気工学科）、二部（工業化学科、建築学科）設置
●昭和 42 年 2 号館竣工
●昭和 43 年 高電圧実験室竣工
●昭和 45 年 体育館竣工
●昭和 46 年 クラブハウス竣工
●昭和 50 年 学生食堂竣工
●昭和 52 年 建築構造実験室竣工
●昭和 59 年 木材加工工作室竣工
●昭和 60 年 第二工学部を九州工学部に学部名変更
●昭和 61 年 学生駐輪場竣工
●昭和 62 年 産業デザイン学科、経営工学科設置
●昭和 62 年 3 号館竣工、第 2 クラブハウス竣工、有害物質処理室、図書館・電算機棟竣工
●昭和 63 年 建築材料実験計測室竣工
●平成 2 年 第二学生食堂、学生駐車場竣工
●平成 4 年 大学院産業技術研究科修士課程（物質工学専攻、電子情報工学専攻）設置
●平成 6 年 大学院産業技術研究科博士課程（物質工学専攻、電子情報工学専攻）、大学院産業技術研究科・修士課程（造形学専攻、経営工学専攻）設置
●平成 6 年 バウヒュッテ、建築学科環境実験室竣工
●平成 8 年 大学院産業技術研究科（造形学、経営工学）博士課程設置、第 2 学生駐車場増設
●平成 10 年 5 号館竣工
●平成 11 年 電気工学科を電気情報工学科に名称変更
●平成 12 年 工業化学科を生物環境化学科に、経営工学科を経営情報学科に名称変更
●平成 13 年 分子工学研究所（ヘンケル先端技術リサーチセンター）竣工
●平成 13 年 附属福岡高校、九州工学部キャンパスへ移転
●平成 16 年 九州工学部を産業理工学部（生物環境化学科、電気通信工学科、建築・デザイン学科、情報学科、経営コミュニケーション学科）に改組
●平成 19 年 分子工学研究所（JSR機能材料リサーチセンター）竣工
●平成 20 年 経営コミュニケーション学科を経営ビジネス学科に名称変更
●平成 20 年 学生食堂竣工
●平成 21 年 硬式野球部創部
●平成 21 年 硬式野球部トレーニングセンター竣工
●平成 25 年 産業理工学研究科修士課程（産業理工学専攻）設置
●平成 27 年 産業理工学研究科博士課程（産業理工学専攻）設置
●平成 28 年 電気通信工学科を電気電子工学科に名称変更

産業理工学部卒業生の総数（平成28年 3 月末現在）15,938名

◇　目　　次　◇

事務部学生関係業務
近畿大学・産業理工学部教育方針
［Ⅰ］履修の手引
学園・学部・学科の目標…… 1
1．履修規定
1.1　はじめに …… 6
1.2　学年次 …… 6
1.3　JABEE教育プログラム…… 6
1.4　卒業要件 …… 6
1.5　進級の条件 …… 7
1.5.1　3年次進級の条件…… 7
1.5.2　4年次進級の条件…… 7
1.6　講義について …… 7
1.6.1　授業科目の構成…… 7
1.6.2　授業形態…… 7
1.6.3　受講制限…… 7
1.6.4　クラス編成…… 7
1.6.5　授業時間と単位数…… 8
1.6.6　休講と補講…… 8
1.6.7　出席の重要性について…… 8
1.6.8　欠席について…… 8
1.7　履修から単位修得までの手順 …… 8
1.7.1　履修の種類…… 8
1.7.2　履修手続き（Web履修登録）　…… 9
1.7.3　履修に関する注意事項…… 9
1.7.4　履修届の変更・修正…… 9
1.7.5　履修相談…… 9
1.7.6　受講者心得…… 9
1.8　試験 ……11
1.8.1　試験の種類……11
1.8.2　定期試験……11
1.8.3　試験期間……11
1.8.4　受験者心得……11
1.8.5　追試験制度について……11
1.8.6　追試験の申請……11
1.8.7　再試験制度について……12
1.8.8　再試験の受験資格と受験上の注意……12
1.9　成績の評価と通知 ……13
1.9.1　成績の評価……13
1.9.2　成績通知の手順と「成績通知書」の見方……13
1.9.3　進級判定……13

1.9.4　卒業判定……13
1.10　表彰および懲罰……13
1.10.1　表彰 ……13
1.10.2　懲罰 ……13
1.11　連絡窓口……14
1.11.1　休学など ……14
1.11.2　学生への連絡 ……14
1.11.3　大学への連絡 ……14
1.11.4　事務窓口・取扱時間 ……14
1.12　GPA（Grade Point Average）制度について ……15
2．授業科目一覧……17
2.1　教養・基礎教育部門総括表 ……18
2.2　生物環境化学科総括表 ……22
2.3　電気電子工学科総括表 ……30
2.4　建築・デザイン学科総括表 ……38
2.5　情報学科総括表 ……44
2.6　経営ビジネス学科総括表 ……52
2.7　インターンシップ ……59

3．教職課程
3.1　教職課程の目的 ……63
3.2　教員免許状の種類 ……63
3.3　受講手続き ……63
3.4　授業科目 ……63
3.5　所要資格と修得単位数 ……64
3.6　教職課程で履修しなければならない必修科目 ……64
3.7　教科に関する科目とその履修方法 ……64
3.8　教職に関する科目とその履修方法 ……71
3.9　教育実習について ……71
3.10　その他、教職課程に関する履修上の注意事項……74

4．転学部および転学科、大学院進学……75

5．進路対策講座等および卒業後の進路……77
5.1　進路対策および資格取得対策講座 ……77
5.2　就職 ……77

［II］附属施設利用の手引
［II-1］　図書館……81
［II-2］　電算機センター……82

［III］配置図……87

事務部学生関係業務

学 生 支 援 課

教　務　係

教務係は、皆さんの科目履修、講義、試験、成績など主として正課教育面の調査、企画、立案、推進をはかることを業務としています。

教務係の学生に関する主な業務は次のとおりです。

- ○　在学、成績、卒業など各種証明書発行に関すること
- ○　講義の履修登録および履修指導に関すること
- ○　学生の成績記録および管理に関すること
- ○　講義の休講・補講・時間割変更・教室変更等に関すること
- ○　教室の使用管理に関すること
- ○　定期試験（前期および後期試験）の実施に関すること
- ○　入学・進級・留年・卒業に関すること
- ○　転学部・転学科・転コースに関すること
- ○　教職課程に関すること
- ○　大学院産業理工学研究科に関すること

就　職　係

就職係は、就職・進路全般についての窓口です。ここでは、就職の指導・紹介・求人の受付・就職の資料収集統計・就職希望者の登録等就職に関するすべての業務を行っています。また学生の就職支援について、教員との連携を図るために就職対策委員会を設置しています。

就職係の学生に関する主な業務は、次のとおりです。

- ○　学生の就職指導及び紹介に関すること
- ○　就職希望者の登録及び調査に関すること
- ○　就職資料収集及び統計に関すること
- ○　インターンシップに関すること
- ○　卒業生の就職後の情報収集に関すること
- ○　就職先の新規開拓に関すること
- ○　その他学生の就職に関すること
- ○　就職対策委員会に関すること

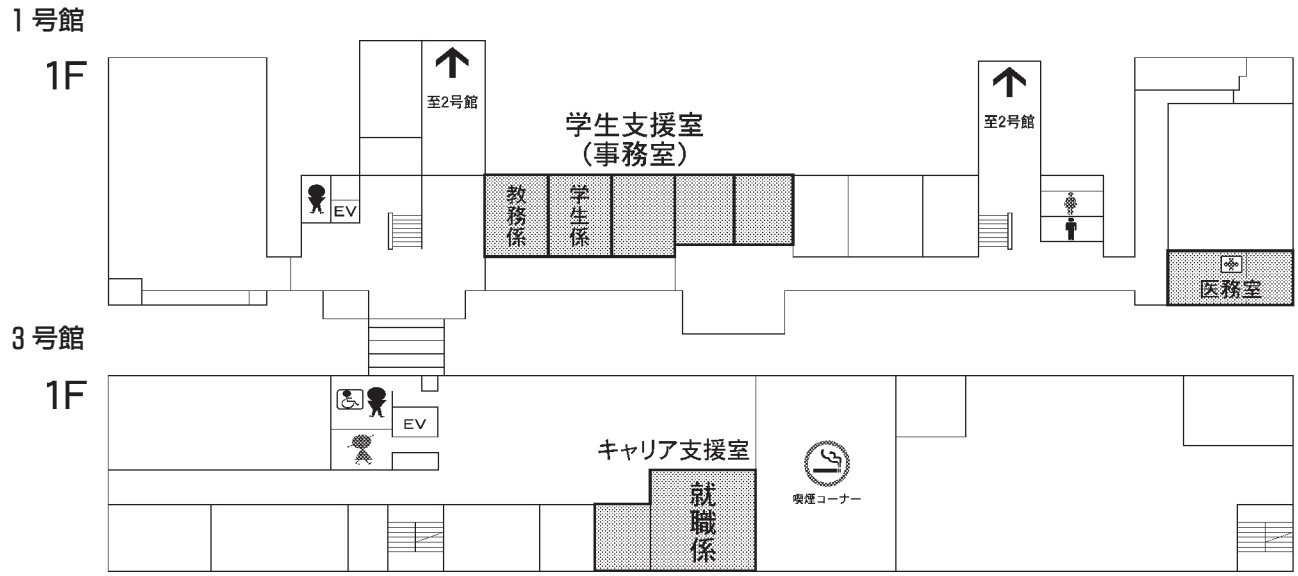
学　生　係

学生係は、学生生活全般についての窓口です。

ここでは学生の課外活動、健康管理、奨学金、福利厚生、その他学生生活に関する相談に応じています。また学生生活の充実をはかるために、学生厚生補導に関する重要事項の審議機関として学生支援委員会が設置されています。

学生係の学生に関する主な業務は次のとおりです。

- ○　休学、復学、退学、除籍等学生の身分に関すること
- ○　学友会活動に関すること
- ○　課外活動（各種団体結成、集会、対外試合、合宿、施設備品使用、印刷物の発行･配布、掲示）に関すること
- ○　学費（延納・分納）に関すること
- ○　学生補導、家庭との連絡に関すること
- ○　学生の個人相談に関すること
- ○　学生実態調査に関すること
- ○　学生証の発行に関すること
- ○　通学定期、学割の証明に関すること
- ○　健康管理に関すること
- ○　奨学金に関すること
- ○　寮等の紹介に関すること
- ○　学生健保共済会に関すること
- ○　学生厚生委員会に関すること
- ○　学生の賞罰に関すること
- ○　学生の郵便物、遺失物、拾得物に関すること
- ○　学生のアルバイト指導及び紹介に関すること
- ○　その他学生一般に関すること



近畿大学教育方針

【カリキュラムポリシー】（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」を実現するために、「共通教育科目」と「専門教育科目」を２本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。

さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。

1　入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供します。

2　専門教育に携わっている教員が教養教育（共通教育科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。

3　「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進めます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性の育成に努めます。

4　さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するために、国際スタンダード教育への参加を進めます。

5　産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。

6　社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。

7　学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。

8　ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。

【ディプロマポリシー】（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

1　大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。

2　問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。

3　専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。

4　異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

産業理工学部教育方針

【カリキュラムポリシー】（教育課程の編成方針）

産業理工学部の教育理念である「技術に偏らず、人間と社会を常に意識して活躍できる職業人を育成する」ことを実現するため、以下のようなカリキュラムを設置しています。

〈教養・基礎教育〉

各学科で学ぶ専門的な知識と両輪をなす基礎的な知識と社会生活における幅広い教養を修得するため、次の五つの科目群を設置しています。

人間性・社会性科目群
国際性、地域性科目群
課題設定・問題解決科目群
スポーツ、表現活動科目群
外国語科目群

これらの科目群における各科目では、生きること、学ぶこと、働くことなど、これから迎える社会生活の最も基本的な事柄を体験していきます。すなわち、社会における倫理の問題、国際化とそれにともなう異なる文化の理解、自らを表現するための論理的な思考法や母国語としての日本語、さらにコミュニケーションツールとしての語学、こうした科目群を学ぶことによりそれぞれのゆたかな人格を形成します。

〈専門科目〉

初年度に少人数の基礎ゼミを設けて自律的な学習態度への転換を図り、専門教育にスムーズに移行できるように配慮しています。各学科で設定された人材育成目標に沿って科目群を編成しています。講義だけではなく豊富な実験・実習、演習科目を通して専門に関する知識や技能を修得し、実践力を養成します。

【ディプロマポリシー】（卒業認定・学位授与に関する方針）

産業理工学部では「自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想をもった教養ある社会人を育成すること」を教育目標としており、厳格な成績評価により教育カリキュラムを運営しています。これらの趣旨のもとに開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（工学）あるいは学士（経営ビジネス）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

1　近畿大学の教育理念にかなう「人に愛され、信頼され、尊敬される」人であるべきことを常に心掛け、自己の向上に努める態度を身につけること。
2　技術に偏らず、人間と社会を常に意識し、自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想を身につけること。
3　21世紀社会の課題に応えられる教養ある社会人としての能力を身につけること。

I

履修の手引

学園・学部・学科の目標

近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」

近畿大学学園の建学の精神は、「実学教育と人格の陶冶」です。この建学の精神を具体的に実践するために「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念に掲げています。

この建学精神と教育理念に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標に沿って、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しています。

学生の皆さんには、上記の建学精神と教育理念を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに心打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最もふさわしい将来設計をされることを願っています。

近畿大学教育方針

【産業理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

近畿大学学園の建学の精神に基づいた産業理工学部の教育研究の理念と目的は、従来の大学における文科と理科に区別された教育に対する反省から

人間主義の工学

“ＨＯＴ（Humanity-Oriented Technology)”

をキーワードに、理工系・芸術系・文系がクロスして創るテクノロジーとコミュニケーションに基づくHOTな教育と研究によって、21世紀が求める文理シナジー的発想を持った専門職業人を育成することを目的にしています。産業理工学部では技術偏重でない21世紀社会で活躍できる自立した専門職業人を育てることを目指して、専門知識を教える充実したカリキュラムはもちろん、人間、社会、環境を重視した実学教育を進めています。

実社会で活躍できる人材となるためには、専門知識ばかりではなく、社会人としての基礎能力もしっかりと身につけておくことも大切です。そのために産業理工学部では人間性・社会性科目群、国際性、地域性科目群、課題設定・問題解決科目群、スポーツ、表現活動科目群という四つの科目群と外国語科目群を開講しています。四つの科目群では幅広い教養科目の他に社会奉仕実習やインターンシップといった体験型の授業があります。外国語科目群では英語、中国語、フランス語、スペイン語などのスキルアップのために習熟度別にクラス分けを行い、実践的な教育を行います。

産業理工学部は、21世紀にふさわしい新たな学びの場として人間力を高めるためのきめ細かな教育を提供し、本当に楽しく、充実した学生生活になるような体制を整えています。

【生物環境化学科の学習・教育目標】

人類と地球環境をより良い未来へ導いていくために、自然現象を分子レベルで理解し、問題解決していく能力が強く求められます。生物環境化学科では、社会の幅広い分野で活躍できるプロの技術者を育てるため、「生物」、「環境」、「化学」をバランスよく学べるカリキュラムを用意し、講義科目だけでなく実験科目と演習科目を充実させています。生物環境化学科には次の３コースがあります。

バイオサイエンスコース：バイオテクノロジーを専門に学びます。遺伝情報の流れや、それをもとにした遺伝子医薬などの応用まで幅広く学びます。微生物を用いた実験やタンパク質を用いたバイオセンサーの実験など、種々のバイオテクノロジー全般の技能を修得します。

食品生物資源コース：食の安全と品質を守り、食料その他生物資源の有効利用に携わるエキスパートを育てます。バイオテクノロジーを基盤に、新しい食品機能の発見と健康への利用、微生物の産業利用、食品と栄養の科学について学びます。また、排水浄化と有害物質の分解、バイオマスの資源化など生物を利用した自然環境の保全修復技術も身につけます。

エネルギー・環境コース：環境にやさしい化学の観点から、地球温暖化対策、新エネルギーの研究開発、人と環境に優しい材料の開発、リサイクル技術、環境計測、環境教育を身につけます。また、導電性や磁性を持った先端材料の開発、選択的高性能化学センサーの開発、微量で特殊な化合物の検出ツールなど、21世紀を支える先端技術も身につけます。

【生物環境化学科のカリキュラム編成上の特色】

1　21世紀の最重要課題「バイオ」、「環境」、「材料」の分野で、実社会の問題を解決し新たな技術やアイデアを生み出すことのできる人材の育成を目指したバランスのとれたカリキュラムを用意しています。
2　１、２年次ではおもに生物学・有機化学・無機化学を中心とするコア科目を配し、３年次以降の展開科目で幅広い専門知識を学びます。４年次では卒業研究を中心とした本格的な研究者・技術者養成のための教育を行います。
3　１年次よりすべての学期で実験科目が開講され、充実した研究設備のもと実践的な教育を行います。

【その他の特色】

1　産学官連携による企業や公的機関との共同研究を積極的に推進しており、研究業務の実際や大学での勉強がどう生かされているのかを実感しながら勉強できます。
2　国家資格である「食品衛生管理者及び食品衛生監視員」の養成施設として当学科は認定されているほか、専門性を生かした公害防止管理者などの資格取得をサポートしています。
3　地域社会との交流による環境ボランティアや理科教育支援を積極的に行います。
4　近畿大学はもちろん、国公立大学の大学院への進学率も高く、そのためのきめ細かな指導も行います。

【電気電子工学科の学習・教育目標】

電気電子・情報通信技術は、身近な携帯電話からインターネット・自動車・航空機・ロボットなどありとあらゆるところで利用され、広く産業社会活動の基盤技術となっています。電気電子工学科では、いつまでも最前線で輝ける技術者として活躍できるよう、電気工学の基礎に始まり、応用エレクトロニクス、情報通信、クリーンエネルギーにまで広がる個別技術をハードとソフトの両面から理解し、自然や地球環境と調和した基盤技術が開拓できる技術者を育てます。電気電子工学科には次の３コースがあります。

応用エレクトロニクスコース：専門基礎技術を理解し、独力で知識を吸収しながら時代をリードできる、より高いレベルの「自立した技術者」を目指して、アナログ技術とディジタル技術、ハードウェア技術とソフトウェア技術、さらにこれらの組み合わせ技術に精通し、とくにコンピュータによって制御されるエレクトロニクス機器を開発する技術を修得します。さらにコミュニケーション能力と多角的視野に基づいた教養も身につけ、世界に通用する技術者を育成します。

エネルギー・環境コース：環境保全に配慮した電気エネルギーの生成や安定供給、電気設備の設置や保全、電気電子デバイスの回路設計など、つねに社会で求めつづけられる専門知識と実践力を身につけ、社会や環境を創る・支える・守ることができる技術者を育成します。

情報通信コース：携帯電話やリモコンに組み込まれたコンピュータのソフト・ハード技術、ロボット制御技術など、情報通信社会を支える多種多様な技術を学びます。おもにコンピュータを利用した装置と装置間の通信技術を中心に、情報通信に関する理論と技術を身につけたICT基盤を支える技術者を育成します。

【電気電子工学科のカリキュラム編成上の特色】

1　数学や物理の学習において高校からスムーズなつながりができるよう、補習的な講義などを通したリメディアル教育を行っています。また、専門分野へのつながりに配慮した専門基礎科目を設けています。
2　１、２年次では、電気電子分野の専門基礎科目を配置し、３年次以降に各コースに所属して、コースに応じた専門知識を教育します。
3　「電子情報設計プロジェクト」では、15週にわたり一つのテーマに関して、グループ討論による問題抽出、解決法の探索・実現を通してエンジニアリングデザイン能力を養います。
4　「電子情報工学セミナー」では、パネル発表と自己分析により、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養います。

【その他の特色】

1　各学年複数教員の担任制で、一人一人の顔が見える学生指導体制をとっています。個人面談や授業の補習を兼ねた個別学習指導の時間として「ホームルーム」があります。
2　「知能ロボットプロジェクト」や「電気電子工学科

ものづくり工房」により実践的なモノづくり教育を進めています。

3　電気電子･情報通信分野からの多くの求人があり、毎年､一部上場企業をはじめとして就職率が高く、質の高さが社会や産業界から認められています。

【建築・デザイン学科の学習・教育目標】

建築の工学とデザインの感性を磨き、高い使命感と倫理観を身につけた建築技術者と美しい建築空間あるいはデザインコミュニケーション情報を創造するデザイナーの育成をめざします。建築や都市など規模の大きなものから、住宅や店舗の設計、ポスターデザインやウェブデザインなどの身近なものまで、幅広い「モノづくり」の技術・技能の習得を目標としてカリキュラムを編成しています。また、設計意図や完成作品の特徴を多くの人に伝え、深く印象付ける能力の習得も大切だと考えて開講科目を定めています。

建築･デザイン学科は次の２コースを設けています。

建築工学コース：国際的に通用する建築技術者に育つようより高いレベルの専門知識を授けます。建築に関する包括的な専門知識に加えて、さらに建築物や地域の安全性（建築構造)、快適性（建築環境・設備)、材料・構法（建築生産）に関する建築工学の高度な専門技術を習得するカリキュラムとしています。本コースを修了することで一級建築士受験資格と共に、二級施工管理技士受験資格を取得できます。

建築・デザインコース：自分の将来設計に合わせ、建築およびデザインの両方のプログラムを発展的に学習することができるコースです。幅広い素養と建築に関する包括的な専門知識・能力を身につけて、建設関連業界で活躍できる技術者や、企画から制作までの全過程を行える技能を持ち、デザイン関連業界で活躍できる人材の育成を目標としながら、その両方の資質を有したこれからの社会で必要とされる新たな建築士・デザイナーの育成を目指します。

建築設計・施工に欠かせない建築計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産の４分野にわたる内容と、ユニバーサルデザインを軸に情報・プロダクト・環境デザインの３分野を総合的に学習できる多彩な科目が用意されています。そのため、各学生の将来目的に応じて履修科目を選定することができます。本コースを修了することで二級建築士の受験資格を取得できます。さらに修得科目によっては一級建築士の受験が可能となります。

【建築・デザイン学科のカリキュラム編成上の特色】

1　建築とデザインのいずれをも学ぶことができるように設定された多様な科目から、自分の将来設計にあった科目の選択が可能となっております。

2　幅広い視野を持ち人間力のある実践的な建築技術者と総合的なデザイン力のあるデザイナーを育成するため、建築教育とデザイン教育を高度に織り込んだ斬新なカリキュラムを編成しています。

3　一級建築士、二級建築士、技術士などの建築業務に関わる資格の取得をめざすカリキュラムとしています。また、インテリアコーディネーター、CG検定などのプロフェッショナル資格をめざした指導にも力を注いでいます。建築やデザインの分野で就職し活躍していくためには、専門資格の取得は必須です。

【その他の特色】

1　設計事務所やデザイン事務所等の会社組織や実務者と連携した実践的な教育を行います。

2　演習を中心とした専門教育の多くは、少人数クラスの授業で個別指導を徹底しています。

3　学生にとって魅力があり、なおかつ社会的にも話題となっている課題を取り上げ、作品などその成果は、学外発表・展示などにより外部の評価を受け、授業改善に結びつけています。

【情報学科の学習・教育目標】

情報が社会のあらゆるレベルに浸透し、私たちの身近な生活と切っても切れない存在であることが認められる中、情報自身は、常にその可能性を広げ、存在様式を進化・発展させ続けています。巨大化し、多様化していく情報と与し、手なずけ、役立てて行くためには、情報を扱うためのソフトウェアやネットワークの技術と知識を学ぶとともに、日々進化・発展していく情報の様々な形式に触れ、そのサイエンスとしての扱い方に慣れ親しみ、新たな情報メディアの可能性を常々考えるような習慣を身につけることが必要となります。このような技術と知識と体験を身につけた人を育成するため、情報学科では次の３つのコースを設けています。

情報エンジニアリングコース：情報システムの構築

とその分析・設計・開発に関わる知識と技術を身につけ、インターネット社会の情報基盤を開発する最前線において活躍できる人材を育成します。このため、情報技術に関する基礎知識（ハードウェア、ネットワーク、データベース、アルゴリズム）、情報システムに関わる分析・設計・運用技術、プログラミング、セキュリティ、先端技術（クラウド、組み込みなど）の教育を提供します。

メディア情報コース：情報メディアに関する知識と、コンテンツを制作するための手続き的知識と技能を身につけ、創造産業を含む文化産業に従事できる人材を育成します。このため、社会生活における情報メディアの役割・知的財産権・インターネットサービスやビジネス等に関する基礎知識、コンピュータ音楽・コンピュータグラフィックス・ディジタル映像といったコンテンツ制作技能、Webデザインの手法・Webプログラミング・Web解析技術といったWebサイトの企画・制作・運用に関する技能を修得するための教育を提供します。

データサイエンスコース：膨大なデータから有益な情報を抽出し、分析・予測に役立てるための手続き的知識と技能を身につけ、企業のマーケティングやデータ分析に携わる部門において活躍できる人材を育成します。このため、データ分析のための基礎知識（統計解析、データの可視化、データベース）、知識発見のための手法（データマイニング、機械学習、最適化）、そして、発展技術（シミュレーション、モデル同定）に関する教育を提供します。

【情報学科カリキュラム編成上の特色】

1　カリキュラムは、各コース共通の知識となる科目群と、それぞれのコース毎に特徴的な科目群から構成されています。
2　演習科目を多数用意して徹底した実践力の修得を行います。
3　「情報学プロジェクトⅠ・Ⅱ」として、実際に社会の中で役立つシステムを構築することを目的として、ゼミ単位少人数のチームで企画、計画から設計、コスト試算、構築、実証評価までを行い、その結果をプレゼンテーションとして発表するという講義を行います。座学や演習だけでは身につけることができない社会に役立つ実践力を育てます。力を育てます。

【その他の特色】

1　就職率が高いだけでなく、特に上場企業への就職者が多いのが特長です。
2　各コースの特性に沿った資格取得を積極的に指導します。男女の差なく、それぞれの分野のプロフェッショナルとして幅広く活躍できますので、女子学生のキャリアづくりにも最適です。

【経営ビジネス学科の学習・教育目標】

経営ビジネス学科では、実践的な経営センスを持ち、地域や社会に貢献する人材を育成します。知識中心の組織社会化がますます進行する中で知的資源や人的資源をいかに活用していくかが重要となってきています。また近年、社会全体の価値観や利害の多様化が進み、複雑化し、それらの間の調和をいかに図っていくかが重要になってきています。このような変化のために、マネジメントに対するニーズと期待が高まってきています。また、学生の関心と活躍の場のグローバル化も起こってきています。

マネジメントについて最も必要なことは、社会における組織の使命や役割を明らかにすることです。その使命を果たし、役割を遂行するためには、二つの条件が不可欠です。一つは、組織の置かれている現状をつねにチェックし、改善を加えていくことで、革新性・創造性をもつということです。もう一つは、組織に対する社会の期待がどこにあり、社会が必要とするものは何か考えることで、それは社会性をもつということです。マネジメントのあり方は、この２つの条件、革新性・創造性と社会性によって左右されます。

このような基本的認識に立って、経営ビジネス学科では組織経営に関する理論的、実践的教育を進めています。なお、組織は、企業だけでなく、非営利組織・自治体・地域コミュニティも含みます。これらの幅広い組織の経営（マネジメント）方法について、段階的に学んでいきます。

また、社会性を養うために、マネジメントの理論や技術だけでなく、そのよって立つ文化的背景をも学んでいきます。

【経営ビジネス学科のカリキュラム編成上の特色】

1　経営マネジメント・グローバル経営の２コースを設け、学生が興味や関心に応じて履修できるような編成です。経営マネジメントコースでは、経営

や会計について幅広く学び、理論と実践の融合を目指していきます。企業・非営利組織・自治体などの組織に着目して、それらの運営に関する科目を幅広く学びます。グローバル経営コースでは、国際的な視野に立ち、グローバル社会における組織経営に関わる能力を養成します。国際化に対応するために、外国の文化の理解や語学の習得もめざします。

2　専門基礎科目を重視し、主要分野に関する必修科目を配置しています。それをベースに、段階的、系統的履修を促します。

3　ゼミナールを中心にした少人数教育を徹底し、「全人教育」を目指し、各学年で少人数によるゼミナール教育を行います。

4　「会計処理演習」「フィールドワーク」「データ分析」を開講し、具体的事例や実践的テーマに対して、学生が直接参加する講義を行います。アクティブラーニングは各科目でも取り入れて、学習内容のより深い理解をめざします。

【その他の特色】

1　簿記関連、販売士、ファイナンシャルプランナー、語学関連などの資格取得に関して、課外講義を行います。

1．履修規定

1.1　はじめに

大学は、それぞれの専門分野で定められた科目について所定の単位数を修得して“学士”（英語名：Bachelor）の学位を得る所です。近畿大学産業理工学部を卒業すると“学士（工学）”または“学士（経営ビジネス学）”の学位を得ることができますが、卒業するには所定の単位を修得しなければなりません。単位を順調に修得するための履修計画や履修のための諸手続き、修得単位数の確認などは、基本的に学生諸君が自分自身で行わなくてはいけません。実社会では書類提出や諸手続きがわずか１日、場合によってはたった１時間遅れただけで大きな損失を被ることもありますが、それは全て“自己責任”として処理されます。大学でも同様であり、いい加減な履修計画を立てたり、必要な手続きを怠っていると、４年間で卒業できなかったり、本来取得可能な資格を取り損ねたりすることがあります。

したがって、新入生の皆さんは、当学部の“履修規定”をよく理解し、順調に卒業できるよう努めてください。

また、種々の事務手続きや休講・補講の通知、試験時間割など重要な連絡事項は、産業理工学部内専用サイトUNIVERSAL PASSPORT（以後「ユニパ」）の電子掲示物または紙の掲示物によって学生の皆さんに伝えられます。ユニパの電子掲示物はインターネットでアクセスすることでいつでも確認することができ、紙の掲示物については１号館１階の掲示板もしくは各学科の掲示板に貼り出されます。したがって、毎日１回は必ず両掲示板の連絡事項を確認するよう心掛けて下さい。「掲示を見ていなかったので知らなかった」という言い訳は、当学部に限らずいかなる大学でも通用しません。

1.2　学年次

中学校や高等学校では、１年生、２年生と言ってきましたが、当学部では入学後の在学年数を表すのに「年次」あるいは「学年次」と表現します。入学後１年間は１年次と呼ばれ、在学期間が１年増すごとに２年次、３年次と呼ばれます。しかしながら、３年次、４年次に進級するためには、「1.5　進級の条件」を満たしていることが必要です。そうでない場合は留年し、卒業研究に着手できないということになります。卒業研究に着手できない学生に対しては当然、卒業見込証明書が発行されませんので就職活動もできませんし、在学期間を問わず進級条件を満たさない限り、卒業できません。そのようなことがないように、各学科では単位の修得状況が心配な学生の成績通知書に警告を記載しています。単位の修得状況には日頃から十分注意してください。

また、編入学、転学部、転学科あるいは再入学して本学部の学生となった場合には、修得済みの科目や単位数に応じて移動先の学科が指定した学年次に籍をおくことになります。

1.3　JABEE教育プログラム

日本技術者教育認定機構（JABEE）は、日本における適正な技術者教育プログラムに対して認定を行う組織です。当学部では平成17年度以降に入学した学生を対象として、電気電子工学科の応用エレクトロニクスコースにおいて技術者教育プログラムを実施しています。

JABEEによって認定された教育プログラムのコースを卒業した学生は、技術者として必要な基礎教育を完了したものと見なされ、卒業時にその学力を保証する証明書が交付され、また技術士第一次試験が免除されます。

詳細は各学科の「シラバス」に書いてありますので、十分に理解してください。

1.4　卒業要件

当学部で卒業資格を得るための要件は４年間以上在学し、教養教育科目、専門科目のなかから学科・コースで指定された必修科目、定められた単位数以上の選択必修科目をすべて修得したうえで、卒業所要単位数124単位以上修得しなければなりません。また、教職課程のみで開講されている単位は卒業所要単位に含まれませんので注意してください。

なお、修得しなければならない科目などは学科・コースにより大きく異なります。**詳細は各学科の「シラバス」を参照してください。**

1.5　進級の条件

1.5.1　3年次進級の条件

3年次に進級するためには2年次終了時に2年以上在学し、教養教育科目、専門科目のなかから学科•コースで指定された科目をすべて修得したうえで、卒業所要単位のうち61単位以上修得しなければなりません。そうでない場合は留級し、再度2年次となり卒業が延期となります。詳細は各学科の「シラバス」に書いてありますので、十分に理解して下さい。

1.5.2　4年次進級の条件

4年次で取り組む卒業研究（経営ビジネス学科は卒業研究ゼミナール）は特に重要な必修科目です。4年次に進級して卒業研究に着手するためには3年次終了時に3年間以上在学し、教養教育科目、専門科目のなかから学科・コースで指定された科目をすべて修得したうえで、卒業所要単位のうち110単位以上修得しなければなりません。そうでない場合は留級し、卒業研究を始めることができず、1年後の卒業が不可能となります。詳細は各学科の「シラバス」に書いてありますので、十分に理解してください。

1.6　講義について

1.6.1　授業科目の構成

当学部で開講される授業科目は、その目的や内容から表1.1のように分類されます(各科目の構成については、各学科の科目一覧表を参照のこと)。教養教育科目、専門科目には、それぞれ必修科目、選択必修科目および選択科目があります。

表1.1　授業科目の構成

授業科目	授　業　内　容
教養教育科目	各学科で学ぶ専門的な知識と両輪をなす基礎的な知識と社会生活における幅広い教養を修得することを目的として、人間性・社会性科目群、国際性、地域性科目群、課題設定・問題解決科目群、スポーツ、表現活動科目群、外国語科目群、という五つの科目群で構成されます。これらは主として1、2年次に学修するように開講されています。また、各科目群をバランスよく学修することが求められます。
専門科目	専門分野に必要な知識と技術の習得を目的としており、講義、実験、実習、演習などの科目で構成されます。1年次から開講されますが、高年次になるにつれてそのウェートは大きくなります。
教職課程科目	高等学校の教員免許の取得を希望する学生に対して開講される科目です（詳細は「3．教職課程」を参照のこと）。

1.6.2　授業形態

ほとんどの科目は毎週同一の曜日・時間帯に講義が実施されますが、一部の科目はある数日間にわたって集中的に講義が実施されることがあります。これを“集中講義”といいます。

1.6.3　受講制限

適正な授業運営および教育効果の向上のために受講制限を実施する場合があります。Web履修登録において、適正な受講者数を超過した科目には、当該の講義担当教員の判断または選考および抽選により受講制限を実施し、受講する学生の人数を調整します。

なお、受講制限により受講が認められなかった場合は、並行開講されている授業科目への振替受講となることがあります。

1.6.4　クラス編成

教育効果の向上のため受講制限とあわせてクラス編成を実施する場合があります。習熟度別クラスや再履修生専用クラスなどあらかじめクラスが指定されている場合がありますので注意してください。

1.6.5　授業時間と単位数

当学部での授業時間は１コマ（１時限）当たり90分間で表1.2の時間割に従って講義が開講されます。ただし、同じ授業時間でも科目によって単位数が異なります。履修手続き（「**1.7.2　履修手続き**」を参照のこと）をする際に各学科のシラバスに記載されている単位数をよく確認してください。

所定の単位数は、15回の講義と定期試験（定期試験を実施しない科目もあります）により構成されています。その単位数を修得するには、まず、授業に全て出席して、真剣に講義内容に取り組むことが必要です。

表1.2　授業時間

（授業時間については変更となる場合があります。）

	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
時　間	9:20～10:50	11:00～12:30	13:20～14:50	15:00～16:30	16:40～18:10

1.6.6　休講と補講

やむを得ない事情で講義が行われないことを休講といい、休講された講義を、日時を改めて行うことを補講と言います。休講と補講は掲示ならびにユニパにより通知されます。

1.6.7　出席の重要性について

講義はすべて出席することが前提であり、何回まで休んでもいいというものではありません。講義には出席点というものは存在しません。したがって、各科目で設定されている成績評価方法および基準によっては、毎回出席（課題提出や小テストなどが実施されるため少なくとも12回以上の出席がなければ講義についていけなくなります）しなければ早い段階で単位の修得が不可能になり、試験を受けることができなくなる場合があります。科目によっては受講者を決定するための選考で出席状況（出席・遅刻・早退）は重要な要素にもなりますので**必ず全回出席するようにして下さい。**また、遅刻と早退については欠席として取り扱われますので時間を厳守し授業に臨んでください。

1.6.8　欠席について

産業理工学部においては公欠というものは存在しません。したがって、いかなる欠席も通常の欠席として取り扱います。しかしながら、忌引きをはじめ伝染病に感染し学校保健法に基づき出席停止となる場合など表1.6に記載されるようなやむを得ない事情がある場合は、学生支援課へ相談してください。

1.7　履修から単位修得までの手順

1.7.1　履修の種類

表1.3「履修の種類と履修方法」を確認のうえ、手続きを行なってください。講義担当教員が一度許可をしても状況によっては履修を取り消す場合があります。また、他学科での履修は別途手続きが必要です。（**1.7.3「履修に関する注意事項」**を参照のこと）。

表1.3　履修の種類と履修方法

履修の種類	履修の内容	授業担当教員許可
上級履修	時間割において、自分の在籍している学科を問わず、在籍年次より上の年次を対象に開講されている授業科目を履修すること。	在籍学科を問わず必要
下級履修	時間割において、自分の在籍している学科を問わず、在籍年次より下の年次を対象に開講されている授業科目を履修すること。	他学科履修であれば必要 在籍学科であれば不要 ※ただし、クラス設定、受講制限、受講条件がある場合は必要
再 履 修	一度履修して不合格となった授業科目を自分の在籍している学科を問わず、在籍年次または下の年次を対象に開講されている授業科目を履修すること。	

※産業理工学部では原則として上級履修は認めていません。

1.7.2　履修手続き（Web履修登録）

表1.4は、授業科目の履修登録と単位修得のための一連の手続きを示しています。

すべての学生は、ユニパにてその年度に履修する授業科目（前・後期分）をWeb入力して所定の期間内にWeb申請しなければなりません。なお履修手続きに際しては、予習・復習・レポート作成といったことに十分な学習時間が確保できるよう、原則として**前期後期を合わせた年間の履修科目の合計が49単位を超えて履修することはできません。**

なお、“履修できる単位の上限”が年間49単位であり、“修得できる単位の上限”が年間49単位ではありません。したがって、前期に不合格となった科目が多いからといって、後期になって科目を追加して履修することはできませんので注意してください。

1.7.3　履修に関する注意事項

①講義の第２回目が履修登録期間となります。
②履修登録期間終了後のWeb履修登録は一切できません。
③英語など一部の科目においては、入学時のテストなどにより受講できる科目や科目名が同じでも受講するクラス（**1.6.4　クラス編成**）が指定されます。
④同一時間帯に二つ以上の講義科目（集中講義を含む）を履修することはできません。同一科目名の講義を同じ学期内に二つ以上履修することもできません。
⑤一度単位を修得した科目を再度履修し、その科目の成績を変更することはできません。
⑥選考または抽選により受講者を決定する授業科目がありますのでWeb履修登録をしたにもかかわらず講義を受講できない場合があります。
⑦休学や留年により卒業が遅れて他学年の科目を履修する場合、授業科目が変更となる場合があり、読替対応となる場合があります。
⑧入学年度によっては読替対応していない科目がありますので、「**読替対応表**」を確認して履修登録を行なって下さい。
⑨受講者心得を守れない学生は履修を取り消すことがあります。

1.7.4　履修届の変更・修正

履修申請期間内であれば、履修科目の変更・修正はユニパ上で何度でも行なえます。その際は、再度Webにて申請をしてください。このとき、必ずチェックボタンを押し、エラーがないことを確認後、確定ボタンを押してください。

履修申請が終わると個人別時間割を印刷することができますので、一度出力して授業科目が正しく登録されているかを確認し、保管しておいてください。

1.7.5　履修相談

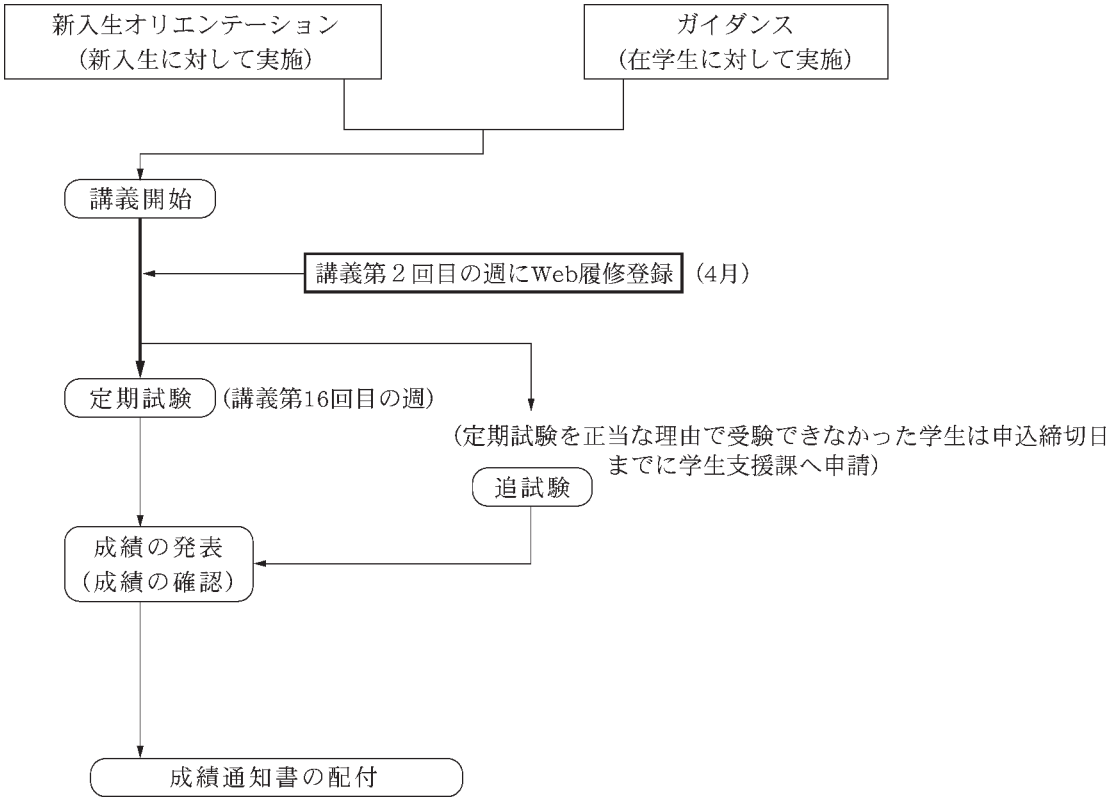
単位修得や履修計画、あるいは履修申請の手順などに関する相談には、各学科の学生支援委員や担任、学生支援課が対応します。その際、「個人別時間割表」や「成績通知書」、「シラバス」、「履修の手引」を持参してください。

1.7.6　受講者心得

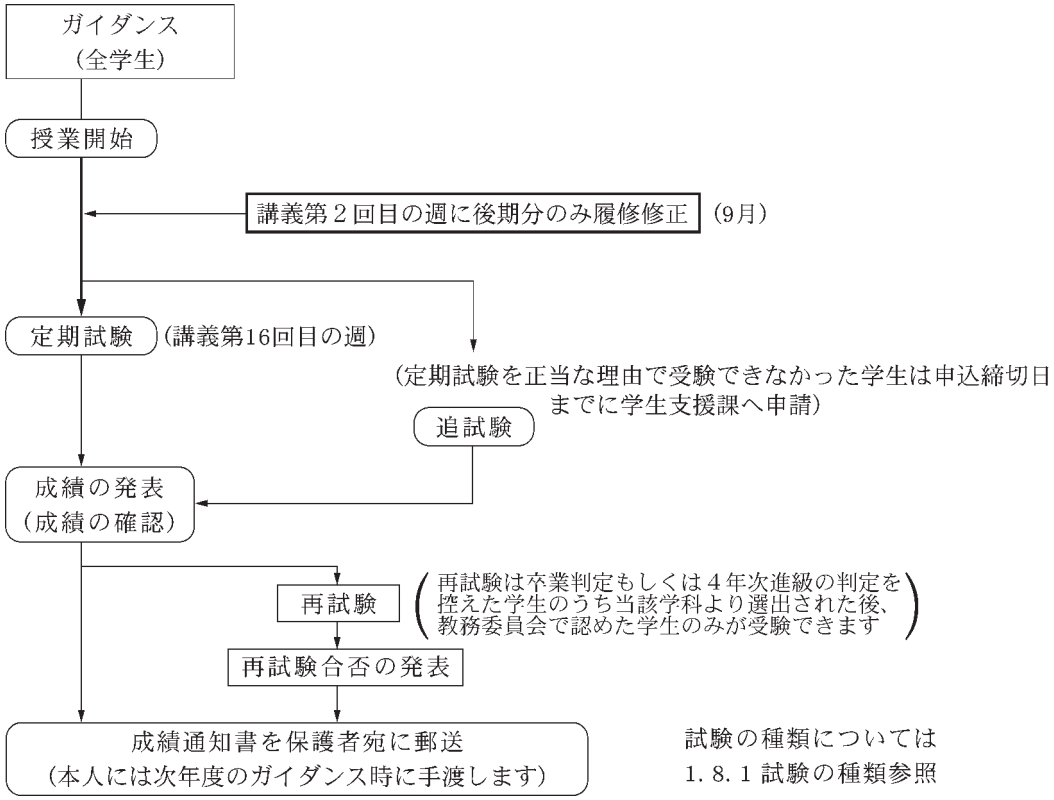
①講義を欠席・遅刻・早退しない。
②講義中に無断で教室の出入りをしない。
③講義中に飲食をしない。
④講義中に私語をしない。
⑤講義中に携帯電話や携帯ゲーム機を使用したり、漫画や雑誌などを読んだりしない。
⑥教室内で帽子やサングラスなどを着用しない。（必要な場合は事前に申し出てください。）
※上記の内容をはじめ講義中のマナーとして問題があると思われる行為や講義を放棄していると思われる行為があった場合は履修登録を取り消します。

表1.4　単位を修得するための手続きの流れ

［前期］



［後期］



試験の種類については
1. 8. 1 試験の種類参照

1.8　試験

1.8.1　試験の種類

表1.5　試験の種類と内容

試験の名称	内　　容	実施時期
定　期 試　験	学生全員を対象として各学期末に行う試験（注１）	16回目 講義
臨　時 試　験	各担当教員が必要に応じて行う試験（小テストを含む）	随　時
追試験 (1.8.5参照のこと)	定期試験を正当な理由(注２)で受験できなかったと認められた場合に行う試験	定期試験 終了後
再試験 (1.8.7参照のこと)	わずかな単位数不足のために卒業や４年次への進級ができない学生に対してのみ行う試験	各学期末

（注１）：出席や課題の提出状況、試験の受験状況等により“授業放棄”とみなされる場合があります。この場合、定期試験の受験を認めず、成績はつかず追再試験対象科目からはずされるなどの厳しい対応が行なわれる場合があるので注意してください。

（注２）：忌引、不慮の交通事故、公共交通機関の事故・故障、突発的な病気など（ただし、この場合は交通機関や病院が発行した証明書が必要です）に起因する場合。

1.8.2　定期試験

各学期末（16回目）に実施される試験であり、定期試験を実施する科目については受験しなければ成績評価が行われません。また、定期試験に替えてレポートや課題を求められる科目も同様にすべて提出しなければ成績評価が行われませんので注意してください。

1.8.3　試験期間

試験は講義の16回目に実施し、教室等の変更がある場合はユニパまたは掲示板にて発表します。

1.8.4　受験者心得

①講義の出席日数（回）が不足する学生は受験できません。

②試験を受験しなかった場合は成績の評価がつきません。

③受験者は学生証を携帯し、試験中は学生証を試験監督者の見やすいところに置いて下さい。

④不正行為は一切許されません。不正行為とみなされた場合には学則等により処分されます。

⑤20分以上遅刻すると受験できません。また、試験開始後30分間は退室できません。

⑥試験中は、物品（筆記具、消しゴム、計算器等）の貸借は認められません。スマホ・携帯電話なども使用できません。これらを机の上に出している場合には、電源のON、OFFに関わらず不正行為とみなされます。

⑦学費その他の納付金の未納者は受験しても無効となる場合があります。

⑧その他、受験態度不良もしくは試験監督者の指示に従わない学生は、受験の停止を命じられることがあります。

1.8.5　追試験制度について

定期試験を病気その他正当な理由により受験できなかった学生に対して行う試験であり、理由等を考慮したうえで認められた場合のみ受験資格が与えられます。定められた期間内に申し出て手続きを行わなければなりません。その際、科目数に応じて追試験料が必要となります。

1.8.6　追試験の申請

表1.6にあげられるやむをえない事情により定期試験を受験できなかったときは、試験実施日後すぐに学生支援課に連絡し、申請登録期間内に手続きを行なってください。その際、所定の用紙ならびに下記に掲げる提出書類を添付して届け出てください。追試験当日に追試験科目数に応じて追試験料を納めなければいけません。

表1.6　事由および提出書類

要　　件	提出書類	備　　考
本人の病気または怪我	診断書	

二親等以内の危篤または死亡	診断書または会葬礼状	※死亡の場合は最大７日間
交通機関の遅延	交通機関が発行する遅延証明書	
就職活動の面接、試験	受験した企業が発行する証明書（日時・場所等の記載されたもの）	就職活動の３・４年次のみ
勤務都合	在職証明書および勤務理由	社会人学生のみ
交通事故（２輪・４輪）	事故証明書および本学部駐車許可書	通学途中に限る
その他大学が認めるもの	追試験理由書	

※父母・養父母・配偶者・子・・・７日
　祖父母・兄弟姉妹・・・３日
　その他　　・・・１日

1.8.7　再試験制度について

修得単位数が、各学科の定める卒業要件または４年次進級の条件にわずかに足りない学生に対してのみ再試験を実施することがあります。再試験の結果、修得単位数が卒業要件を満たした場合には卒業が可能となり、４年次進級の条件を満たせば、４年次へ進級することができます。

1.8.8に再試験の受験資格と受験上の注意事項を記していますが、受験資格は学科によって異なり、教務委員会により受験資格の有無を厳密に審査します。誰もが再試験制度を利用できるわけではなく、受験したら必ず合格する制度ではありません。

受験資格が与えられた学生は、決められた日時までに手続きを行わなければなりません。その際、科目数に応じて再試験料が必要となります。

1.8.8　再試験の受験資格と受験上の注意

再試験の受験資格は次のとおりです。

①所属する学科で定める受験資格を満たしていること。

②日頃、講義に取り組む努力が顕著であること。

受験資格が与えられた学生の氏名、試験科目、試験日程、受験料納付期限などは学生支援課より連絡します。したがって、卒業要件または４年次進級の条件を満たさなかった学生は、定期試験後は特に掲示物に注意してください。

1.9　成績の評価と通知

1.9.1　成績の評価

成績の評価及び判定基準を表1.7に示します。

表1.7　成績の評価

実点評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	不受験	放棄
評価	秀	優	良	可	不可	不受	放棄
合否	合　格				不　合　格		

不受：試験を受験しなかった者の評価であり追試験の対象となる。(理由が表1.6に該当する場合)。

放棄：講義を放棄したとみなされた者の評価であり追試や再試等の受験資格がなくなる。

1.9.2　成績通知の手順と「成績通知書」の見方

◆各学期終了時に、ユニパで成績を発表します。

◆履修登録した科目の成績を一覧表にした「成績通知書」を各学期末に保護者宛に郵送します。

◆年度の初めに在学生ガイダンスなどを通じて、学生自身にも「成績通知書」を渡します。

◆成績が送付または配布された後に補習などが行われた場合は成績が変更される場合があります。

1.9.3　進級判定

2年次生は年度末に、在学期間と成績が3年次進級の条件を満たしているかどうかが判定されます。判定結果は、年度末にユニパと1号館1階の掲示板に掲示されます。また、保護者にも書面で通知されます。

3年次進級の条件を満たさず留級した学生は、所定の期日（通常年度始め）までに「卒業延期届」を学生支援課に提出しなければなりません。

3年次生は年度末に、在学期間と成績が4年次進級の条件を満たしているかどうかが判定されます。判定結果は､年度末に1号館1階の掲示板に掲示されます。また、保護者にも書面で通知されます。

4年次進級の条件を満たさず留級した学生は、所定の期日（通常年度始め）までに「卒業延期届」を学生支援課に提出しなければなりません。

1.9.4　卒業判定

4年次生は後期定期試験の後、その在学期間と成績が卒業要件を満たしているかどうかが判定され、その判定結果は3月上旬に1号館1階の掲示板に「卒業有資格者一覧表」として掲示されます。

また、ユニパ上に、判定結果が表示されます。

1.10　表彰および懲罰

1.10.1　表彰

在学中の学業成績、人格ともに優秀であり、他の学生の模範となった学生に対しては、学則の定めるところにより、卒業式において学長賞や学部長賞などが授与されます。また、学友会活動などで功労のあった学生に対しては、学友会活動功労賞が授与されます。

成績優秀な学生を対象とした、当学部独自の奨学金制度もあります。

1.10.2　懲罰

学則、学生規定その他の諸規則に違反し、本学の秩序を乱した者、または素行不良その他学生としてふさわしくない行為のあった者に対しては、譴責、謹慎、停学または退学の処分を行います。

1.11　連絡窓口

1.11.1　休学など

病気その他やむを得ない理由で３ヶ月以上就学できないときは、願い出て、その許可を得て休学することができます。休学期間は、休学を許可された日から当該学期末または当該年度末までとなります。また、**休学期間は、在学期間に算入されません。**

その他、復学、退学、再入学、除籍、復籍といった取り扱いがあります。詳しくは教員または事務窓口に相談してください。

1.11.2　学生への連絡

学生に対する公示、告示およびその他の学修上周知を要する事項は、全て「掲示」およびユニパにより通知します。常にそれらを見るように心掛けてください。

1.11.3　大学への連絡

行事予定、休講、その他講義および試験などに関する電話による問い合わせは、間違いを生じ易く、業務上も支障がありますので一切応じていません。必要のあるときは、掲示板を見るか、学生支援課の窓口で相談してください。なお、事故などの緊急時に限り、下記の連絡先を使用できます。

連絡先：産業理工学部（電話）0948-22-5655（代表）

1.11.4　事務窓口・取扱時間

事務室窓口の取扱時間帯は通常以下のようになっています。ただし、緊急の場合はこの限りではありません。

平　日　9：00〜18：00

1.12 GPA（Grade Point Average）制度について

近畿大学では、100 点満点の成績評価に対応させて、成績評価の指標として GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度を施行しています。GPA とは、100 点満点の実点を５段階の GP に置き換え、その科目の単位数と関連させて GP の平均値を算出した、最高点４点から最低点０点までの数値です（詳細は以下に説明）。

GPA 制度の意義は、GPA や GP によって自分の学修の全体的な達成度合いを簡便に測ることができる点にあります。GPA あるいは GP に基づいて、自分の弱点を把握し、履修計画や学修状況を反省し、より実効性のある勉学に取り組むことができるのです。

GPA は欧米の大学で広く採用されている評価方法であり、日本の大学のクローバル化に対応する制度です。すなわち、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職などの際に幅広く通用する国際標準の成績評価制度であり、拡大するグローバル社会において必要かつ有効な制度です。

（１）GPA値の計算方法

GPA は以下の数値と計算式で算出されます。

実点評価	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59 点以下	不受験
５段階評価	秀	優	良	可	不可	不受
GP グレード・ポイント	4	3	2	1	0	0

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{履修登録科目の単位数})\times(\text{履修登録科目の GP})\}\text{の総和}}{\text{総履修登録単位数}}$$

※GPA 算出の具体例

科目	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
単位数	1	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2
実点	83	65	82	58	92	74	80	68	90	不受	85
GP	3	1	3	0	4	2	3	1	4	0	3

$$\text{GPA} = \frac{1\times3+2\times1+1\times3+2\times0+2\times4+2\times2+2\times3+1\times1+2\times4+2\times0+2\times3}{1+2+1+2+2+2+2+1+2+2+2}$$

$$= \frac{41}{19} = 2.2\ \text{（小数第２位を四捨五入）}$$

☞　実点は当該科目の点数を表します。

☞　GPA は小数第２位を四捨五入して、表記は小数第１位までとします。
☞　GPA の最高点は４点、最低点は０点になります。
☞　GPA の計算式には、GP 対象外科目（下記一覧参照）および認定科目（実点で成績を出さない科目）は含まれません。
☞　不可になった科目または不受験の科目を再履修して単位を取得した場合でも、通算の GPA には過去の０点が算入されます。
☞　進級要件、卒業要件には GPA を適用しません。

（２）履修取り下げについて

履修登録後、学部が定めた期間に、学生本人から申し出があった科目に関してのみ履修の取り下げを認めます。ただし、取り下げ期間中の履修科目の変更や追加は認められません。詳しい手続き方法は、別途通知します。

（３）GPA制度の活用

GPA の意義は、その値を自分の履修計画と学修状況を測る指標として活用する点にあります。以下のような点に留意して、GPA 値を高めることに努めてください。

1. 履修登録科目について熟慮し、登録科目についてはしっかりと勉学をして試験において不可をとらないこと。
2. 不受験科目をなくすこと。そのために、履修放棄をする科目については「履修取り下げ期間」中に必ず「履修取り下げ」を行うこと。
3. 成績通知書の GPA 値あるいは各科目の GP 値を確認して自分の履修計画、学修状況を反省し、克服するべき課題を自覚すること。

【GP 対象外科目一覧】

	科目名	配当学年	単位数		科目名	配当学年	単位数
1	建学のこころ	１年次	1	17	教育行政学	２年次	2
2	インターンシップ	２年次	2	18	工業科教育法Ⅰ	２年次	2
3	基礎ゼミ	１年次	2	19	工業科教育法Ⅱ	２年次	2
4	科学的問題解決法	１年次	2	20	理科教育法Ⅰ	２年次	2
5	留学英語	２～４年次	2	21	理科教育法Ⅱ	２年次	2
6	海外語学研修	１～４年次	2	22	情報科教育法Ⅰ	２年次	2
7	地学概論	２年次	4	23	情報科教育法Ⅱ	２年次	2
8	職業指導（工業）	３年次	4	24	商業科教育法Ⅰ	２年次	2
9	情報と職業※1	１年次	2	25	商業科教育法Ⅱ	２年次	2
10	情報と法※1	３年次	2	26	進路指導論	３年次	2
11	情報社会と倫理※1	２年次	2	27	教育相談	３年次	2
12	職業指導（商業）	１年次	2	28	教育実践の研究	３・４年次	1
13	教職論	１年次	2	29	教育実習	４年次	2
14	特別活動の研究	１年次	2	30	比較教育学	４年次	2
15	教育心理学	２年次	2	31	教育実践演習	４年次	2
16	教育学概論	２年次	2				

※1：情報学科では GP の評価対象とする

2．授業科目一覧

2.1　教養・基礎教育部門総括表

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

生物環境化学科、電気電子工学科（エネルギー・環境コース、情報通信コース）、
建築・デザイン学科、情報学科、経営ビジネス学科

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択	備考
教養教育科目	第１群	現代社会と法	2	2•3	前	□	第１群の□から２単位以上修得すること
		暮らしの中の憲法	2	2•3	前	□	
		現代社会と倫理	2	1•2	後	□	
		哲学と人間・社会	2	2•3	前	□	
		人間のこころ	2	2•3	前	□	
		環境と社会	2	2•3	前	□	
		環境と科学	2	1•2	後	□	
		企業倫理と知的財産	2	1	前,後	□	
		建学のこころ	1	1	後	△	
		インターンシップ	2	2•3	後	△	
	第２群	国際経済入門	2	1•2	後	□	第２群の□から２単位以上修得すること
		国際社会と日本	2	1•2	後	□	
		国際化と異文化理解	2	1•2	後	□	
		日本近現代史	2	2•3	前	□	
		日本文学論	2	2•3	前	□	
		地域社会と情報	2	1•2	後	□	
		地域社会と電気技術	2	1•2	後	□	
	第３群	基礎ゼミ	2	1	前	○	
		科学的問題解決法	2	1	後	○	
		ライフデザイン	2	1	前	○	
		日本語の技法	1	1	後	○	
		論理的表現法Ⅰ	1	2	前	○	
		論理的表現法Ⅱ	1	2	後	△	
		キャリアデザイン	2	2	前	△	
		就職計画	2	3	前	△	
		情報処理Ⅰ	2	1	前	○	
		情報処理Ⅱ	2	1	後	△	
		情報処理Ⅲ	2	2	前	△	
	第４群	生涯スポーツⅠ	1	2	前	□	第４群の□から１単位以上修得すること
		生涯スポーツⅡ	1	2	後	□	
		健康とスポーツの科学	2	2・3	前	□	
		食生活と健康	2	1・2	後	□	
		視覚表現の科学	2	2・3	前	□	
		空間とデザイン	2	1・2	後	□	

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択	備考
教養教育科目	第５群	英語Ⅰ	1	1	前	○	第５群の□から４単位以上修得すること ただし、□１から２単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		英語Ⅱ	1	1	前	○	
		英語Ⅲ	1	1	後	○	
		英語Ⅳ	1	1	後	○	
		実用英語Ⅰ	1	2	前	□1	
		実用英語Ⅱ	1	2	後	□1	
		アドヴァンスト英語Ⅰ	1	3	前	□1	
		アドヴァンスト英語Ⅱ	1	3	後	□1	
		インタラクティブ英語Ⅰ	1	2	前	□1	
		インタラクティブ英語Ⅱ	1	2	後	□1	
		留学英語	2	2～4		△	
		中国語Ⅰ	1	2	前	□	
		中国語Ⅱ	1	2	後	□	
		フランス語Ⅰ	1	2	前	□	
		フランス語Ⅱ	1	2	後	□	
		スペイン語Ⅰ	1	2	前	□	
		スペイン語Ⅱ	1	2	後	□	
		海外語学研修	1	1～4		△	
		日本語Ⅰ	1	1	前	□＊	
		日本語Ⅱ	1	1	後	□＊	
		日本語Ⅲ	1	2	前	□＊	
		日本語Ⅳ	1	2	後	□＊	

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目　◇：自由科目

JABEE認定コース
電気電子工学科（応用エレクトロニクスコース）

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択	備考
教養教育科目	第１群	現代社会と法	2	2•3	前	□	第１群の□から２単位以上修得すること
		暮らしの中の憲法	2	2•3	前	□	
		現代社会と倫理	2	1•2	後	◇	
		哲学と人間・社会	2	2•3	前	◇	
		人間のこころ	2	2•3	前	◇	
		環境と社会	2	2•3	前	○	
		環境と科学	2	1•2	後	□	
		企業倫理と知的財産	2	1	前,後	○	
		建学のこころ	1	1	後	◇	
		インターンシップ	2	2•3	後	◇	
	第２群	国際経済入門	2	1•2	後	□	第２群の□から２単位以上修得すること
		国際社会と日本	2	1•2	後	□	
		国際化と異文化理解	2	1•2	後	◇	
		日本近現代史	2	2•3	前	◇	
		日本文学論	2	2•3	前	◇	
		地域社会と情報	2	1•2	後	◇	
		地域社会と電気技術	2	1•2	後	◇	
	第３群	基礎ゼミ	2	1	前	○	
		科学的問題解決法	2	1	後	○	
		ライフデザイン	2	1	前	○	
		日本語の技法	1	1	後	○	
		論理的表現法Ⅰ	1	2	前	○	
		論理的表現法Ⅱ	1	2	後	△	
		キャリアデザイン	2	2	前	△	
		就職計画	2	3	前	△	
		情報処理Ⅰ	2	1	前	○	
		情報処理Ⅱ	2	1	後	△	
		情報処理Ⅲ	2	2	前	△	
	第４群	生涯スポーツⅠ	1	2	前	◇	第４群の□から１単位以上修得すること
		生涯スポーツⅡ	1	2	後	◇	
		健康とスポーツの科学	2	2•3	前	◇	
		食生活と健康	2	1•2	後	□	
		視覚表現の科学	2	2•3	前	□	
		空間とデザイン	2	1•2	後	□	

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択	備考
教養教育科目	第５群	英語Ⅰ	1	1	前	○	第５群の□から４単位以上修得すること ただし、□１から２単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		英語Ⅱ	1	1	前	○	
		英語Ⅲ	1	1	後	○	
		英語Ⅳ	1	1	後	○	
		実用英語Ⅰ	1	2	前	□1	
		実用英語Ⅱ	1	2	後	□1	
		アドヴァンスト英語Ⅰ	1	3	前	□1	
		アドヴァンスト英語Ⅱ	1	3	後	□1	
		インタラクティブ英語Ⅰ	1	2	前	□1	
		インタラクティブ英語Ⅱ	1	2	後	□1	
		留学英語	2	2～4		◇	
		中国語Ⅰ	1	2	前	□	
		中国語Ⅱ	1	2	後	□	
		フランス語Ⅰ	1	2	前	□	
		フランス語Ⅱ	1	2	後	□	
		スペイン語Ⅰ	1	2	前	□	
		スペイン語Ⅱ	1	2	後	□	
		海外語学研修	1	1～4		◇	
		日本語Ⅰ	1	1	前	□＊	
		日本語Ⅱ	1	1	後	□＊	
		日本語Ⅲ	1	2	前	□＊	
		日本語Ⅳ	1	2	後	□＊	

2.2　生物環境化学科総括表

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択 バイオサイエンス	食品生物資源	エネルギー・環境	備考
専門科目	基礎	数学Ⅰ	2	1	前	△	△	△	
		数学Ⅱ	2	1	後	△	△	△	
		物理学Ⅰ	2	1	前	△	△	△	
		物理学Ⅱ	2	1	後	△	△	△	
	コア	生物学Ⅰ	2	1	前	○	○	○	
		生物学Ⅱ	2	1	後	□	□	□	
		物理化学Ⅰ	2	2	前	○	○	○	
		物理化学Ⅱ	2	2	後	□	□	□	
		有機化学Ⅰ	2	1	前	○	○	○	
		有機化学Ⅱ	2	1	後	□	□	□	
		無機化学Ⅰ	2	1	前	○	○	○	
		無機化学Ⅱ	2	1	後	□	□	□	
		分析化学	2	1	後	□	□	□	
		アカデミック有機化学Ⅱ	2	2	後	△	△	△	
		環境材料化学	2	2	後	△	△	□	
		生物資源利用学	2	3	前	△	□	△	
		栄養化学	2	3	後	△	△	△	
		バイオ分析化学	2	2	前	□	□	△	
		アカデミック物理化学	2	2･3	後	△	△	□	
		アカデミック有機化学Ⅰ	2	2･3	前	△	△	□	
		生物環境化学特別講義Ⅰ	2	1～4	前	△	△	△	
		生物環境化学特別講義Ⅱ	2	2･3･4	後	△	△	△	
		生理学	2	2	後	□	□	△	
		公衆衛生学	2	3	後	△	□	△	
		分光分析法	2	2	後	△	△	△	
		卒業研究	6	4	通年	○	○	○	
	実験・演習	生物環境化学基礎実験	2	1	前	○	○	○	
		生物環境化学演習	2	1	前	○	○	○	
		環境化学基礎実験	2	1	後	○	○	○	
		環境化学演習	2	1	後	○	○	○	
		生物化学基礎実験	2	2	前	○	○	○	
		生物化学演習	2	2	前	○	○	○	
		物質化学基礎実験	2	2	後	○	○	○	
		物質化学演習	2	2	後	○	○	○	
		環境化学実験	3	3	前	○	○	○	
		物質化学実験	3	3	前	○	○	○	
		生物化学実験	3	3	後	○	○	○	
		生物環境化学実験	3	3	後	○	○	○	
	展開（環境化学系）	公害防止管理	2	2	後	△	△	□	
		環境バイオテクノロジー	2	2	後	△	□	□	
		環境とバイオの統計学	2	2	前	□	△	△	
		資源エネルギー化学	2	3	後	△	△	□	
		環境生物学	2	3	前	□	△	△	
		食品衛生学	2	2	後	△	□	△	
		環境計量学	2	3	前	△	△	□	

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択			備考
						バイオサイエンス	食品生物資源	エネルギー・環境	
専門科目	展開（生物化学系）	生物化学Ⅰ	2	2	前	□	□	△	
		生物化学Ⅱ	2	2	後	△	△	△	
		分子遺伝学	2	3	前	□	△	△	
		生物有機化学	2	3	前	□	△	△	
		バイオセンシング	2	3	前	△	△	△	
		微生物学	2	2	前	△	□	△	
		微生物バイオテクノロジー	2	3	後	□	□	△	
		遺伝子工学	2	3	後	□	△	△	
		食品化学	2	3	後	△	□	△	
		食品保存学	2	3	前	△	□	△	
		栄養学	2	1	前	△	△	△	
	展開（材料化学系）	高分子合成化学	2	3	前	△	△	△	
		高分子物性	2	3	後	△	△	△	
		化学と安全	2	2	後	△	△	□	
		分子シミュレーション	2	3	前	△	△	□	
		固体化学	2	2	後	△	△	□	
		先端無機材料化学	2	3	前	△	△	△	
		先端有機材料化学	2	3	後	△	△	△	
		有機合成化学	2	3	後	△	△	△	
		生体機能分子化学	2	3	後	△	△	△	

生物環境化学科　バイオサイエンスコース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
専門科目	○	生物学Ⅰ	2	○	物理化学Ⅰ	2	○	環境化学実験	3	○	卒業研究	6	
	○	有機化学Ⅰ	2	○	生物化学基礎実験	2	○	物質化学実験	3	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	
	○	無機化学Ⅰ	2	○	生物化学演習	2	○	生物化学実験	3	△	生物環境化学特別講義Ⅱ	2	
	○	生物環境化学基礎実験	2	○	物質化学基礎実験	2	○	生物環境化学実験	3				
	○	生物環境化学演習	2	○	物質化学演習	2	□	環境生物学	2				
	○	環境化学基礎実験	2	□	物理化学Ⅱ	2	□	分子遺伝学	2				
	○	環境化学演習	2	□	バイオ分析化学	2	□	生物有機化学	2				
	□	生物学Ⅱ	2	□	生理学	2	□	微生物バイオテクノロジー	2				
	□	有機化学Ⅱ	2	□	環境とバイオの統計学	2	□	遺伝子工学	2				
	□	無機化学Ⅱ	2	□	生物化学Ⅰ	2	△	生物資源利用学	2				
	□	分析化学	2	△	アカデミック有機化学Ⅱ	2	△	栄養化学	2				
	△	数学Ⅰ	2	△	環境材料化学	2	△	アカデミック物理化学	2				
	△	数学Ⅱ	2	△	アカデミック物理化学	2	△	アカデミック有機化学Ⅰ	2				
	△	物理学Ⅰ	2	△	アカデミック有機化学Ⅰ	2	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2				
	△	物理学Ⅱ	2	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	△	生物環境化学特別講義Ⅱ	2				
	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	△	生物環境化学特別講義Ⅱ	2	△	公衆衛生学	2				
	△	栄養学	2	△	分光分析法	2	△	資源エネルギー化学	2				
				△	公害防止管理	2	△	環境計量学	2				
				△	環境バイオテクノロジー	2	△	バイオセンシング	2				
				△	食品衛生学	2	△	食品化学	2				
				△	生物化学Ⅱ	2	△	食品保存学	2				
				△	微生物学	2	△	高分子合成化学	2				
				△	化学と安全	2	△	高分子物性	2				
				△	固体化学	2	△	分子シミュレーション	2				
							△	先端無機材料化学	2				
							△	先端有機材料化学	2				
							△	有機合成化学	2				
							△	生体機能分子化学	2				

【３年次進級条件（２年次から３年次へ)】
（１）２年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ)】
（１）３年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（３）所属するコースで３年次までに開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（１）４年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（３）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（４）教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目９単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（５）教養教育科目の選択必修科目については、第１科目群から２単位以上、第２科目群から２単位以上、第４科目群から１単位以上、第５科目群から英語科目２単位以上を含む４単位以上を修得していること
（６）所属するコースで開講されている専門科目の中から必修科目42単位、選択必修科目14単位以上を含む総計70単位以上を修得していること
※　教職科目は卒業の所要単位に算入しない

生物環境化学科　食品生物資源コース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
専門科目	○	生物学Ⅰ	2	○	物理化学Ⅰ	2	○	環境化学実験	3	○	卒業研究	6	
	○	有機化学Ⅰ	2	○	生物化学基礎実験	2	○	物質化学実験	3	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	
	○	無機化学Ⅰ	2	○	生物化学演習	2	○	生物化学実験	3	△	生物環境化学特別講義Ⅱ	2	
	○	生物環境化学基礎実験	2	○	物質化学基礎実験	2	○	生物環境化学実験	3				
	○	生物環境化学演習	2	○	物質化学演習	2	□	生物資源利用学	2				
	○	環境化学基礎実験	2	□	物理化学Ⅱ	2	□	公衆衛生学	2				
	○	環境化学演習	2	□	バイオ分析化学	2	□	微生物バイオテクノロジー	2				
	□	生物学Ⅱ	2	□	生理学	2	□	食品化学	2				
	□	有機化学Ⅱ	2	□	環境バイオテクノロジー	2	□	食品保存学	2				
	□	無機化学Ⅱ	2	□	食品衛生学	2	△	栄養化学	2				
	□	分析化学	2	□	生物化学Ⅰ	2	△	アカデミック物理化学	2				
	△	数学Ⅰ	2	□	微生物学	2	△	アカデミック有機化学Ⅰ	2				
	△	数学Ⅱ	2	△	アカデミック有機化学Ⅱ	2	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2				
	△	物理学Ⅰ	2	△	環境材料化学	2	△	生物環境化学特別講義Ⅱ	2				
	△	物理学Ⅱ	2	△	アカデミック物理化学	2	△	資源エネルギー化学	2				
	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	△	アカデミック有機化学Ⅰ	2	△	環境生物学	2				
	△	栄養学	2	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	△	環境計量学	2				
				△	生物環境化学特別講義Ⅱ	2	△	分子遺伝学	2				
				△	分光分析法	2	△	生物有機化学	2				
				△	公害防止管理	2	△	バイオセンシング	2				
				△	環境とバイオの統計学	2	△	遺伝子工学	2				
				△	生物化学Ⅱ	2	△	高分子合成化学	2				
				△	化学と安全	2	△	高分子物性	2				
				△	固体化学	2	△	分子シミュレーション	2				
							△	先端無機材料化学	2				
							△	先端有機材料化学	2				
							△	有機合成化学	2				
							△	生体機能分子化学	2				

【3年次進級条件（2年次から3年次へ）】
（1）2年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【4年次進級条件（3年次から4年次へ）】
（1）3年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（3）所属するコースで3年次までに開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（1）4年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（3）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目9単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（5）教養教育科目の選択必修科目については、第1科目群から2単位以上、第2科目群から2単位以上、第4科目群から1単位以上、第5科目群から英語科目2単位以上を含む4単位以上を修得していること
（6）所属するコースで開講されている専門科目の中から必修科目42単位、選択必修科目14単位以上を含む総計70単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

生物環境化学科　エネルギー・環境コース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
専門科目	○	生物学Ⅰ	2	○	物理化学Ⅰ	2	○	環境化学実験	3	○	卒業研究	6	
	○	有機化学Ⅰ	2	○	生物化学基礎実験	2	○	物質化学実験	3	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	
	○	無機化学Ⅰ	2	○	生物化学演習	2	○	生物化学実験	3	△	生物環境化学特別講義Ⅱ	2	
	○	生物環境化学基礎実験	2	○	物質化学基礎実験	2	○	生物環境化学実験	3				
	○	生物環境化学演習	2	○	物質化学演習	2	□	アカデミック物理化学	2				
	○	環境化学基礎実験	2	□	物理化学Ⅱ	2	□	アカデミック有機化学Ⅰ	2				
	○	環境化学演習	2	□	環境材料化学	2	□	資源エネルギー化学	2				
	□	生物学Ⅱ	2	□	アカデミック物理化学	2	□	環境計量学	2				
	□	有機化学Ⅱ	2	□	アカデミック有機化学Ⅰ	2	□	分子シミュレーション	2				
	□	無機化学Ⅱ	2	□	公害防止管理	2	△	生物資源利用学	2				
	□	分析化学	2	□	環境バイオテクノロジー	2	△	栄養化学	2				
	△	数学Ⅰ	2	□	化学と安全	2	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2				
	△	数学Ⅱ	2	□	固体化学	2	△	生物環境化学特別講義Ⅱ	2				
	△	物理学Ⅰ	2	△	アカデミック有機化学Ⅱ	2	△	公衆衛生学	2				
	△	物理学Ⅱ	2	△	バイオ分析化学	2	△	環境生物学	2				
	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	△	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	△	分子遺伝学	2				
	△	栄養学	2	△	生物環境化学特別講義Ⅱ	2	△	生物有機化学	2				
				△	生理学	2	△	バイオセンシング	2				
				△	分光分析法	2	△	微生物バイオテクノロジー	2				
				△	環境とバイオの統計学	2	△	遺伝子工学	2				
				△	食品衛生学	2	△	食品化学	2				
				△	生物化学Ⅰ	2	△	食品保存学	2				
				△	生物化学Ⅱ	2	△	高分子合成化学	2				
				△	微生物学	2	△	高分子物性	2				
							△	先端無機材料化学	2				
							△	先端有機材料化学	2				
							△	有機合成化学	2				
							△	生体機能分子化学	2				

【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】
（１）２年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】
（１）３年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（３）所属するコースで３年次までに開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（１）４年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（３）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（４）教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目９単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（５）教養教育科目の選択必修科目については、第１科目群から２単位以上、第２科目群から２単位以上、第４科目群から１単位以上、第５科目群から英語科目２単位以上を含む４単位以上を修得していること
（６）所属するコースで開講されている専門科目の中から必修科目42単位、選択必修科目14単位以上を含む総計70単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

2.3　電気電子工学科総括表

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択 応用エレクトロニクス	必修・選択 エネルギー・環境	必修・選択 情報通信	備考
専門科目	基礎	基礎数学	2	1	前	○	○	○	応用エレクトロニクスコース □6：10単位以上 エネルギー・環境コース □6：12単位以上 情報通信コース □6：16単位以上
		基礎数学演習	2	1	前	○	○	○	
		電気電子数学	2	1	後	○	○	○	
		電気電子数学演習	2	1	後	○	○	○	
		応用数学Ⅰ	2	1	後	□6	□6	□6	
		応用数学Ⅱ	2	3	後	□6	□6	□6	
		初等電磁気学	2	1	前	○	○	○	
		初等信号理論	2	1	前	○	○	○	
		シミュレーション	2	1	後	○	○	○	
		コンピュータ概論	2	1	後	○	○	○	
		エレクトロニクス概論	2	1	前	○	○	○	
	電気基礎	電磁気学Ⅰ	2	1	後	○	○	○	
		電磁気学Ⅱ	2	2	前	○	○	□6	
		電気回路Ⅰ	2	1	前	○	○	○	
		電気回路Ⅰ演習	2	1	後	○	○	○	
		電気回路Ⅱ	2	1	後	○	○	○	
		電気回路Ⅲ	2	2	後	○	○	□6	
	電子工学	電子回路Ⅰ	2	2	前	○	○	○	
		電子回路Ⅰ演習	2	2	前	○	○	○	
		電子回路Ⅱ	2	2	後	○	○	□6	
		電子回路設計	2	3	前	○	○	△	
		計測工学	2	2	後	○	○	○	
		電気材料物性	2	3	前	□6	□6	△	
		半導体工学	2	3	後	□6	△	△	
		集積回路	2	3	後	○	△	□6	
	電力工学	電力システム概論	2	2	後	□6	○	△	
		電気機器	2	3	前	△	○	△	
		パワーエレクトロニクス	2	3	後	△	○	△	
		発変電工学	2	3	前	△	□6	△	
		送配電工学	2	3	後	△	□6	△	
		電気法規・施設管理	2	4	前	△	□6	△	
		エネルギー環境システム	2	3	後	○	○	△	
	計算機工学	計算機システム	2	2	前	○	○	○	
		論理回路	2	2	後	○	○	○	
		論理回路演習	2	2	後	□6	□6	□6	
		プログラミング	2	2	前	○	○	○	
		プログラミング演習	2	2	前	○	○	○	
		データ処理とプログラミング	2	2	後	○	△	○	
	情報・通信システム	電磁波工学	2	2	後	□6	□6	□6	
		無線通信工学	2	3	前	□6	△	□	
		情報通信工学	2	3	前	○	△	○	
		情報ネットワーク	2	3	後	□6	△	○	

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択			備考
						応用エレクトロニクス	エネルギー・環境	情報通信	
専門科目	応用エレクトロニクス	システムプログラミング	2	2	後	○	△	○	
		制御工学	2	3	前	○	△	□6	
		組込み制御	2	3	前	○	△	○	
		ロボティクス	2	3	後	□6	△	□6	
		情報センシング	2	3	前	○	△	□6	
		情報メディア工学	2	4	前	△	△	□6	
	実験・実習	初等理工学実験	1	1	前	○	○	○	
		初等電気工学実験	1	1	後	○	○	○	
		電気工学基礎実験Ⅰ	2	2	前	○	○	○	
		電気工学基礎実験Ⅱ	2	2	後	○	○	○	
		電気電子情報工学実験Ⅰ	2	3	前	○	○	○	
		電気電子情報工学実験Ⅱ	2	3	後	○	○	○	
		電子情報設計プロジェクト	2	3	前	○	○	○	
		電子情報工学セミナー	2	3	後	○	○	○	
		電機設計・製図	2	4	前	△	□6	△	
		卒業研究	6	4	通年	○	○	○	

JABEE認定コース
電気電子工学科　応用エレクトロニクスコース

○：必修　□：選択必修　△：選択　◇：自由

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	○	企業倫理と知的財産	2	○	環境と社会	2	○	環境と社会	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	環境と科学	2	□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2				
		◇	建学のこころ	1	□	現代社会と法	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		◇	現代社会と倫理	2	□	暮らしの中の憲法	2	◇	哲学と人間・社会	2				
					◇	現代社会と倫理	2	◇	人間のこころ	2				
					◇	哲学と人間・社会	2	◇	インターンシップ	2				
					◇	人間のこころ	2							
					◇	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	◇	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	◇	日本文学論	2				
		◇	国際化と異文化理解	2	◇	国際化と異文化理解	2							
		◇	地域社会と情報	2	◇	地域社会と情報	2							
		◇	地域社会と電気技術	2	◇	地域社会と電気技術	2							
					◇	日本近現代史	2							
					◇	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	視覚表現の科学	2	□	視覚表現の科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	食生活と健康	2	◇	健康とスポーツの科学	2				
					□	空間とデザイン	2							
					◇	生涯スポーツⅠ	1							
					◇	生涯スポーツⅡ	1							
					◇	健康とスポーツの科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	◇	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得することただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	◇	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	◇	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	◇	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		◇	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					◇	海外語学研修	1							
					◇	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
専門科目	○	基礎数学	2	○	電磁気学II	2	○	電子回路設計	2	○	卒業研究	6	□6：10単位以上修得すること
	○	基礎数学演習	2	○	電気回路III	2	○	集積回路	2	△	電気法規・施設管理	2	
	○	電気電子数学	2	○	電子回路Ⅰ	2	○	エネルギー環境システム	2	△	情報メディア工学	2	
	○	電気電子数学演習	2	○	電子回路Ⅰ演習	2	○	情報通信工学	2	△	電機設計・製図	2	
	○	初等電磁気学	2	○	電子回路II	2	○	制御工学	2				
	○	初等信号理論	2	○	計測工学	2	○	組込み制御	2				
	○	シミュレーション	2	○	計算機システム	2	○	情報センシング	2				
	○	コンピュータ概論	2	○	論理回路	2	○	電気電子情報工学実験Ⅰ	2				
	○	エレクトロニクス概論	2	○	プログラミング	2	○	電気電子情報工学実験II	2				
	○	電磁気学Ⅰ	2	○	プログラミング演習	2	○	電子情報設計プロジェクト	2				
	○	電気回路Ⅰ	2	○	データ処理とプログラミング	2	○	電子情報工学セミナー	2				
	○	電気回路Ⅰ演習	2	○	システムプログラミング	2	□6	応用数学II	2				
	○	電気回路II	2	○	電気工学基礎実験Ⅰ	2	□6	電気材料物性	2				
	○	初等理工学実験	1	○	電気工学基礎実験II	2	□6	半導体工学	2				
	○	初等電気工学実験	1	□6	電力システム概論	2	□6	無線通信工学	2				
	□6	応用数学Ⅰ	2	□6	論理回路演習	2	□6	情報ネットワーク	2				
				□6	電磁波工学	2	□6	ロボティクス	2				
							△	電気機器	2				
							△	パワーエレクトロニクス	2				
							△	発変電工学	2				
							△	送配電工学	2				

【3年次進級条件（2年次から3年次へ）】
（1） 2年間以上在学していること
（2）応用エレクトロニクスコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計75単位以上を修得していること
（3）応用エレクトロニクスコースで1年次に開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4） 2年次に開講されている専門科目のうち、『電気工学基礎実験Ⅰ』、『電気工学基礎実験II』の2科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目および自由科目は進級の所要単位に算入しない

【4年次進級条件（3年次から4年次へ）】
（1） 3年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（3）所属するコースで1年次に開講されている教養教育科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）所属するコースで2年次までに開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（5） 3年次に開講されている専門科目のうち、『電気電子情報工学実験Ⅰ』、『電気電子情報工学実験II』、『電子情報設計プロジェクト』、『電子情報工学セミナー』の4科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目および自由科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（1） 4年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（3）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）応用エレクトロニクスコースにおいては、教養教育科目の中から必修科目18単位、選択必修科目10単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（5）教養教育科目の選択必修科目については、第1科目群から2単位以上、第2科目群から2単位以上、第4科目群から1単位以上、第5科目群から英語科目2単位以上を含む4単位以上を修得していること
（6）応用エレクトロニクスコースにおいては、専門科目の中から必修科目84単位、選択必修科目10単位以上を含む総計94単位以上を修得していること
※教職科目および自由科目は卒業の所要単位に算入しない

電気電子工学科　エネルギー・環境コース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
専門科目	○	基礎数学	2	○	電磁気学II	2	○	電子回路設計	2	○	卒業研究	6	□6：12単位以上修得すること
	○	基礎数学演習	2	○	電気回路III	2	○	電気機器	2	□6	電気法規・施設管理	2	
	○	電気電子数学	2	○	電子回路Ⅰ	2	○	パワーエレクトロニクス	2	□6	電機設計・製図	2	
	○	電気電子数学演習	2	○	電子回路Ⅰ演習	2	○	エネルギー環境システム	2	△	情報メディア工学	2	
	○	初等電磁気学	2	○	電子回路II	2	○	電気電子情報工学実験Ⅰ	2				
	○	初等信号理論	2	○	計測工学	2	○	電気電子情報工学実験II	2				
	○	シミュレーション	2	○	電力システム概論	2	○	電子情報設計プロジェクト	2				
	○	コンピュータ概論	2	○	計算機システム	2	○	電子情報工学セミナー	2				
	○	エレクトロニクス概論	2	○	論理回路	2	□6	応用数学II	2				
	○	電磁気学Ⅰ	2	○	プログラミング	2	□6	電気材料物性	2				
	○	電気回路Ⅰ	2	○	プログラミング演習	2	□6	発変電工学	2				
	○	電気回路Ⅰ演習	2	○	電気工学基礎実験Ⅰ	2	□6	送配電工学	2				
	○	電気回路II	2	○	電気工学基礎実験II	2	△	半導体工学	2				
	○	初等理工学実験	1	□6	論理回路演習	2	△	集積回路	2				
	○	初等電気工学実験	1	□6	電磁波工学	2	△	無線通信工学	2				
	□6	応用数学Ⅰ	2	△	データ処理とプログラミング	2	△	情報通信工学	2				
				△	システムプログラミング	2	△	情報ネットワーク	2				
							△	制御工学	2				
							△	組込み制御	2				
							△	ロボティクス	2				
							△	情報センシング	2				

【3年次進級条件（2年次から3年次へ）】
（1）2年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
（3）所属するコースで1年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【4年次進級条件（3年次から4年次へ）】
（1）3年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（3）所属するコースで1年次に開講されている教養教育科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）所属するコースで2年次までに開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（5）3年次に開講されている専門科目のうち、『電気電子情報工学実験Ⅰ』、『電気電子情報工学実験II』、『電子情報設計プロジェクト』、『電子情報工学セミナー』の4科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（1）4年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（3）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）エネルギー・環境コースにおいては、教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目9単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（5）教養教育科目の選択必修科目については、第1科目群から2単位以上、第2科目群から2単位以上、第4科目群から1単位以上、第5科目群から英語科目2単位以上を含む4単位以上を修得していること
（6）エネルギー・環境コースにおいては、専門科目の中から必修科目76単位、選択必修科目12単位以上を含む総計88単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

電気電子工学科　情報通信コース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
専門科目	○	基礎数学	2	○	電子回路Ⅰ	2	○	情報通信工学	2	○	卒業研究	6	□6：16単位以上修得すること
	○	基礎数学演習	2	○	電子回路Ⅰ演習	2	○	情報ネットワーク	2	□6	情報メディア工学	2	
	○	電気電子数学	2	○	計測工学	2	○	組込み制御	2	△	電気法規・施設管理	2	
	○	電気電子数学演習	2	○	計算機システム	2	○	電気電子情報工学実験Ⅰ	2	△	電機設計・製図	2	
	○	初等電磁気学	2	○	論理回路	2	○	電気電子情報工学実験Ⅱ	2				
	○	初等信号理論	2	○	プログラミング	2	○	電子情報設計プロジェクト	2				
	○	シミュレーション	2	○	プログラミング演習	2	○	電子情報工学セミナー	2				
	○	コンピュータ概論	2	○	データ処理とプログラミング	2	□6	応用数学Ⅱ	2				
	○	エレクトロニクス概論	2	○	システムプログラミング	2	□6	集積回路	2				
	○	電磁気学Ⅰ	2	○	電気工学基礎実験Ⅰ	2	□6	無線通信工学	2				
	○	電気回路Ⅰ	2	○	電気工学基礎実験Ⅱ	2	□6	制御工学	2				
	○	電気回路Ⅰ演習	2	□6	電磁気学Ⅱ	2	□6	ロボティクス	2				
	○	電気回路Ⅱ	2	□6	電気回路Ⅲ	2	□6	情報センシング	2				
	○	初等理工学実験	1	□6	電子回路Ⅱ	2	△	電子回路設計	2				
	○	初等電気工学実験	1	□6	論理回路演習	2	△	電気材料物性	2				
	□6	応用数学Ⅰ	2	□6	電磁波工学	2	△	半導体工学	2				
				△	電力システム概論	2	△	電気機器	2				
							△	パワーエレクトロニクス	2				
							△	発変電工学	2				
							△	送配電工学	2				
							△	エネルギー環境システム	2				

【3年次進級条件（2年次から3年次へ）】
（1）2年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
（3）所属するコースで1年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【4年次進級条件（3年次から4年次へ）】
（1）3年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（3）所属するコースで1年次に開講されている教養教育科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）所属するコースで2年次までに開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（5）3年次に開講されている専門科目のうち、『電気電子情報工学実験Ⅰ』、『電気電子情報工学実験Ⅱ』、『電子情報設計プロジェクト』、『電子情報工学セミナー』の4科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（1）4年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（3）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）情報通信コースにおいては、教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目9単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（5）教養教育科目の選択必修科目については、第1科目群から2単位以上、第2科目群から2単位以上、第4科目群から1単位以上、第5科目群から英語科目2単位以上を含む4単位以上を修得していること
（6）情報通信コースにおいては、専門科目の中から必修科目70単位、選択必修科目16単位以上を含む総計86単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

2.4　建築・デザイン学科総括表

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択 建築工学	必修・選択 建築・デザイン	備考
専門科目	基礎	数学及び演習	3	1	前	△	△	建築工学コース □1：3単位以上 □2：4単位以上 □3：10単位以上 建築・デザインコース □4：4単位以上
		物理学	2	1	後	△	△	
	構造	静定構造力学Ⅰ及び演習	3	1	前	○	○	
		静定構造力学Ⅱ及び演習	3	1	後	○	△	
		不静定構造力学及び演習	3	2	前	○	△	
		建築と構造	2	1	前	○	○	
		鉄筋コンクリート構造	2	2	後	○	△	
		鋼構造	2	3	前	○	△	
		構造設計及び演習	3	3	後	□1	△	
	生産	建築材料	2	1	前	○	○	
		施工法Ⅰ	2	2	前	○	○	
		施工法Ⅱ	2	2	後	○	△	
		施工管理及び演習	3	3	前	□1	△	
	環境	環境概論	2	2	前	○	○	
		建築と環境	2	2	後	□2	△	
		都市と環境	2	3	前	□2	△	
		建築設備の基礎	2	2	後	○	○	
		建築設備の計画	2	3	前	□2	△	
		設備設計及び演習	3	3	後	□1	△	
	計画	環境とデザイン	2	1	前	□3	□4	
		近現代建築論	2	1	後	□3	□4	
		住まいの計画	2	2	前	□3	□4	
		地域施設の計画	2	2	後	□3	□4	
		建築計画	2	3	前	□3	□4	
		空間造形	2	3	前	□3	□4	
		都市計画	2	3	後	□3	△	
	造形・表現	基礎造形	3	1	前	△	△	
		造形演習	3	1	後	△	△	
		デザイン企画論	2	2	後	△	△	
		インテリアデザイン論	2	2	前	△	△	
		インテリアデザイン演習	3	3	後	△	△	
		画像設計演習	3	2	後	△	△	
		視覚表現演習	3	3	前	△	△	
		建築メディア論	2	3	後	△	△	
		プレゼンテーション演習	3	3	前	△	△	
	設計	建築・デザイン演習Ⅰ	3	1	前	○	○	
		建築・デザイン演習Ⅱ	3	1	後	○	○	
		建築設計Ⅰ	3	2	前	○	○	
		建築設計Ⅱ	3	2	後	○	△	
		建築設計Ⅲ	3	3	前	○	△	
		建築設計Ⅳ	3	3	後	□1	△	
		ＣＡＤトレーニング	2	2	前	△	△	
	共通	建築工学実験	2	2	後	○	△	
		建築法規	2	3	後	○	○	
		建築技術者倫理	2	3	前	△	△	
		プロジェクト研究	3	3	後	○	○	
		卒業研究	6	4	通年	○	○	

建築・デザイン学科　建築工学コース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
	科目名		単位数	科目名		単位数	科目名		単位数	科目名		単位数	
専門科目	○	静定構造力学Ⅰ及び演習	3	○	不静定構造力学及び演習	3	○	鋼構造	2	○	卒業研究	6	□1：2単位以上
	○	静定構造力学Ⅱ及び演習	3	○	鉄筋コンクリート構造	2	○	プロジェクト研究	3				□2：4単位以上
	○	建築と構造	2	○	施工法Ⅰ	2	○	建築設計Ⅲ	3				□3：10単位以上
	○	建築材料	2	○	施工法Ⅱ	2	○	建築法規	2				
	○	建築・デザイン演習Ⅰ	3	○	環境概論	2	□1	施工管理及び演習	3				
	○	建築・デザイン演習Ⅱ	3	○	建築設備の基礎	2	□1	建築設計Ⅳ	3				
	□3	環境とデザイン	2	○	建築設計Ⅰ	3	□1	設備設計及び演習	3				
	□3	近現代建築論	2	○	建築設計Ⅱ	3	□1	構造設計及び演習	3				
	△	数学及び演習	3	○	建築工学実験	2	□2	都市と環境	2				
	△	物理学	2	□2	建築と環境	2	□2	建築設備の計画	2				
	△	基礎造形	3	□3	住まいの計画	2	□3	建築計画	2				
	△	造形演習	3	□3	地域施設の計画	2	□3	空間造形	2				
				△	デザイン企画論	2	□3	都市計画	2				
				△	インテリアデザイン論	2	△	インテリアデザイン演習	3				
				△	画像設計演習	3	△	視覚表現演習	3				
				△	ＣＡＤトレーニング	2	△	建築メディア論	2				
							△	プレゼンテーション演習	3				
							△	建築技術者倫理	2				

【3年次進級条件（2年次から3年次へ）】
（1） 2年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
（3） 1年次に開講されている専門科目のうち、『建築・デザイン演習Ⅰ』、『建築・デザイン演習Ⅱ』、『静定構造力学Ⅰ及び演習』、『建築と構造』の4科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【4年次進級条件（3年次から4年次へ）】
（1） 3年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（3）所属するコースで2年次までに開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）教養教育科目の英語科目における必修／選択必修科目の中から4単位以上を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（1） 4年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（3）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目9単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（5）教養教育科目の選択必修科目については、第1科目群から2単位以上、第2科目群から2単位以上、第4科目群から1単位以上、第5科目群から英語科目2単位以上を含む4単位以上を修得していること
（6）建築工学コースにおいては、専門科目の中から必修科目53単位、選択必修科目17単位以上を含む総計80単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

建築・デザイン学科　建築・デザインコース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
専門科目	○	静定構造力学Ⅰ及び演習	3	○	施工法Ⅰ	2	○	建築法規	2	○	卒業研究	6	□4：4単位以上修得すること
	○	建築と構造	2	○	環境概論	2	○	プロジェクト研究	3				
	○	建築材料	2	○	建築設備の基礎	2	□4	建築計画	2				
	○	建築・デザイン演習Ⅰ	3	○	建築設計Ⅰ	3	□4	空間造形	2				
	○	建築・デザイン演習Ⅱ	3	□4	住まいの計画	2	△	鋼構造	2				
	△	数学及び演習	3	□4	地域施設の計画	2	△	構造設計及び演習	3				
	△	物理学	2	△	不静定構造力学及び演習	3	△	施工管理及び演習	3				
	△	静定構造力学Ⅱ及び演習	3	△	鉄筋コンクリート構造	2	△	都市と環境	2				
	□4	環境とデザイン	2	△	施工法Ⅱ	2	△	建築設備の計画	2				
	□4	近現代建築論	2	△	建築と環境	2	△	設備設計及び演習	3				
	△	基礎造形	3	△	デザイン企画論	2	△	都市計画	2				
	△	造形演習	3	△	インテリアデザイン論	2	△	インテリアデザイン演習	3				
				△	画像設計演習	3	△	視覚表現演習	3				
				△	建築設計Ⅱ	3	△	建築メディア論	2				
				△	ＣＡＤトレーニング	2	△	プレゼンテーション演習	3				
				△	建築工学実験	2	△	建築設計Ⅲ	3				
							△	建築設計Ⅳ	3				
							△	建築技術者倫理	2				

【3年次進級条件（2年次から3年次へ）】
（1） 2年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
（3） 1年次に開講されている専門科目のうち、『建築・デザイン演習Ⅰ』、『建築・デザイン演習Ⅱ』、『静定構造力学Ⅰ及び演習』、『建築と構造』の4科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【4年次進級条件（3年次から4年次へ）】
（1） 3年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（3）所属するコースで2年次までに開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）教養教育科目の英語科目における必修／選択必修科目の中から4単位以上を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（1） 4年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（3）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目9単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（5）教養教育科目の選択必修科目については、第1科目群から2単位以上、第2科目群から2単位以上、第4科目群から1単位以上、第5科目群から英語科目2単位以上を含む4単位以上を修得していること
（6）建築・デザインコースにおいては、専門科目の中から必修科目33単位、選択必修科目4単位以上を含む総計70単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

2.5　情報学科総括表

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択 情報エンジニアリング	必修・選択 メディア情報	必修・選択 データサイエンス	備考
専門科目	数学	数学	2	1	前	△	△	△	メディア情報コース□から6単位以上修得すること
		数学演習	2	1	前	△	△	△	
		情報数学	2	1	後	△	△	△	
		情報数学演習	2	1	後	△	△	△	
		応用数学	2	2	前	△	△	△	
		確率論	2	2	前	△	△	○	
		多変量解析	2	2	後	△	△	○	
	基礎・理論	コンピュータ概論Ⅰ	2	1	前	○	○	○	
		コンピュータ概論Ⅱ	2	1	後	○	○	○	
		ネットワークと通信の理論	2	2	前	△	△	△	
		情報と符号の理論	2	2	後	△	△	△	
		計算の複雑さ	2	3	前	△	△	△	
		暗号とセキュリティの理論	2	3	後	△	△	△	
	マネジメント・資格支援	情報システム概論	2	1	後	○	□	△	
		プロジェクト管理	2	2	後	○	□	△	
		プロフェッショナルデザイン	2	2	後	△	□	△	
	情報と社会	情報と職業	2	1	前	△	□	△	
		情報社会と倫理	2	1	後	△	□	△	
		情報と法	2	3	前	△	□	△	
	プログラミング	プログラミングⅠ	2	1	前	○	○	○	
		プログラミングⅡ	2	1	後	○	△	△	
		データ構造とアルゴリズム	2	2	前	○	△	△	
		データ構造とアルゴリズム演習	2	2	前	○	△	△	
		ソフトウェア工学	2	2	前	○	△	△	
		オブジェクト指向プログラミング	2	2	前	○	△	△	
		オブジェクト指向プログラミング演習	2	2	前	○	△	△	
		アドバンスドプログラミング	4	2	後	○	△	△	
		ソフトウェア分析・設計	2	3	前	○	△	△	
		ソフトウェア開発・展開	2	3	前	○	△	△	
		ソフトウェア開発演習	4	3	後	○	△	△	
	ネットワーク	コンピュータネットワーク	2	2	前	○	○	○	
		インターネット工学	2	3	前	○	△	△	
		インターネット工学演習	2	3	前	△	△	△	
		ネットワークセキュリティ	2	3	後	△	△	△	
		ネットワークセキュリティ演習	4	3	後	△	△	△	
	コンテンツ系	コンピュータ音楽	2	1	前	△	△	△	
		マルチメディア	2	1	後	△	○	△	
		Webコンテンツ企画設計	2	2	後	△	△	△	
		Webコンテンツ制作	2	2	後	△	△	△	
		画像処理	2	3	前	△	○	△	
		映像表現	2	3	前	△	△	△	
		ゲームとシナリオのデザイン	2	3	前	△	△	△	
		コンピュータグラフィックス	2	3	後	△	△	△	
		プロダクションワーク	2	3	後	△	○	△	

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択			備考
						情報エンジニアリング	メディア情報	データサイエンス	
専門科目	統計ソフトウェア・可視化	統計ソフトウェアⅠ	2	2	前	△	△	△	
		統計ソフトウェアⅡ	2	2	後	△	△	△	
		データマイニングと可視化Ⅰ	2	3	前	△	△	△	
		データマイニングと可視化Ⅱ	2	3	後	△	△	△	
	情報の知的処理	シミュレーション	2	2	前	△	△	△	
		知識工学	2	2	後	△	△	△	
		知識工学演習	2	2	後	△	△	△	
		データベース	2	2	後	○	△	○	
		データベース演習	2	2	後	○	△	○	
		データサイエンス	2	3	後	△	△	○	
		データ分析演習	2	3	後	△	△	○	
	関連	情報学概論	2	2	前	○	○	○	
		情報学序論	2	2	後	○	○	○	
		情報学プロジェクトⅠ	2	3	前	○	○	○	
		情報学プロジェクトⅡ	2	3	後	○	○	○	
		卒業研究	6	4	通年	○	○	○	

情報学科　情報エンジニアリングコース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	1				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
	科目名		単位数	科目名		単位数	科目名		単位数	科目名		単位数	
専門科目	○	コンピュータ概論Ⅰ	2	○	データ構造とアルゴリズム	2	○	ソフトウェア分析・設計	2	○	卒業研究	6	
	○	コンピュータ概論Ⅱ	2	○	データ構造とアルゴリズム演習	2	○	ソフトウェア開発・展開	2				
	○	情報システム概論	2	○	ソフトウェア工学	2	○	ソフトウェア開発演習	4				
	○	プログラミングⅠ	2	○	オブジェクト指向プログラミング	2	○	インターネット工学	2				
	○	プログラミングⅡ	2	○	オブジェクト指向プログラミング演習	2	○	情報学プロジェクトⅠ	2				
	△	数学	2	○	アドバンスドプログラミング	4	○	情報学プロジェクトⅡ	2				
	△	数学演習	2	○	コンピュータネットワーク	2	△	計算の複雑さ	2				
	△	情報数学	2	○	プロジェクト管理	2	△	暗号とセキュリティの理論	2				
	△	情報数学演習	2	○	データベース	2	△	情報と法	2				
	△	情報と職業	2	○	データベース演習	2	△	インターネット工学演習	2				
	△	情報社会と倫理	2	○	情報学概論	2	△	ネットワークセキュリティ	2				
	△	コンピュータ音楽	2	○	情報学序論	2	△	ネットワークセキュリティ演習	4				
	△	マルチメディア	2	△	応用数学	2	△	画像処理	2				
				△	確率論	2	△	映像表現	2				
				△	多変量解析	2	△	ゲームとシナリオのデザイン	2				
				△	ネットワークと通信の理論	2	△	コンピュータグラフィックス	2				
				△	情報と符号の理論	2	△	プロダクションワーク	2				
				△	プロフェッショナルデザイン	2	△	データマイニングと可視化Ⅰ	2				
				△	Webコンテンツ企画設計	2	△	データマイニングと可視化Ⅱ	2				
				△	Webコンテンツ制作	2	△	データサイエンス	2				
				△	統計ソフトウェアⅠ	2	△	データ分析演習	2				
				△	統計ソフトウェアⅡ	2							
				△	シミュレーション	2							
				△	知識工学	2							
				△	知識工学演習	2							

【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】
（１）２年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
（３）所属するコースで１年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（４）１年次に開講されている教養教育科目のうち、『基礎ゼミ』、『科学的問題解決法』の２科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】
（１）３年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（３）所属するコースで２年次までに開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（４）３年次に開講されている専門科目のうち、『情報学プロジェクトⅠ』、『情報学プロジェクトⅡ』の２科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（１）４年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（３）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（４）教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目９単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（５）教養教育科目の選択必修科目については、第１科目群から２単位以上、第２科目群から２単位以上、第４科目群から１単位以上、第５科目群から英語科目２単位以上を含む４単位以上を修得していること
（６）情報エンジニアリングコースにおいては、専門科目の中から必修科目56単位を含む総計70単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

情報学科　メディア情報コース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
	科目名		単位数	科目名		単位数	科目名		単位数	科目名		単位数	
専門科目	○	コンピュータ概論Ⅰ	2	○	コンピュータネットワーク	2	○	画像処理	2	○	卒業研究	6	□から6単位以上修得すること
	○	コンピュータ概論Ⅱ	2	○	情報学概論	2	○	プロダクションワーク	2				
	○	プログラミングⅠ	2	○	情報学序論	2	○	情報学プロジェクトⅠ	2				
	○	マルチメディア	2	□	プロジェクト管理	2	○	情報学プロジェクトⅡ	2				
	□	情報システム概論	2	□	プロフェッショナルデザイン	2	□	情報と法	2				
	□	情報と職業	2	△	応用数学	2	△	計算の複雑さ	2				
	□	情報社会と倫理	2	△	確率論	2	△	暗号とセキュリティの理論	2				
	△	数学	2	△	多変量解析	2	△	ソフトウェア分析・設計	2				
	△	数学演習	2	△	ネットワークと通信の理論	2	△	ソフトウェア開発・展開	2				
	△	情報数学	2	△	情報と符号の理論	2	△	ソフトウェア開発演習	4				
	△	情報数学演習	2	△	データ構造とアルゴリズム	2	△	インターネット工学	2				
	△	プログラミングⅡ	2	△	データ構造とアルゴリズム演習	2	△	インターネット工学演習	2				
	△	コンピュータ音楽	2	△	ソフトウェア工学	2	△	ネットワークセキュリティ	2				
				△	オブジェクト指向プログラミング	2	△	ネットワークセキュリティ演習	4				
				△	オブジェクト指向プログラミング演習	2	△	映像表現	2				
				△	アドバンスドプログラミング	4	△	ゲームとシナリオのデザイン	2				
				△	Webコンテンツ企画設計	2	△	コンピュータグラフィックス	2				
				△	Webコンテンツ制作	2	△	データマイニングと可視化Ⅰ	2				
				△	統計ソフトウェアⅠ	2	△	データマイニングと可視化Ⅱ	2				
				△	統計ソフトウェアⅡ	2	△	データサイエンス	2				
				△	シミュレーション	2	△	データ分析演習	2				
				△	知識工学	2							
				△	知識工学演習	2							
				△	データベース	2							
				△	データベース演習	2							

【3年次進級条件（2年次から3年次へ）】
（1）2年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
（3）所属するコースで1年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）1年次に開講されている教養教育科目のうち、『基礎ゼミ』、『科学的問題解決法』の2科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【4年次進級条件（3年次から4年次へ）】
（1）3年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（3）所属するコースで2年次までに開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）3年次に開講されている専門科目のうち、『情報学プロジェクトⅠ』、『情報学プロジェクトⅡ』の2科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（1）4年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（3）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目9単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（5）教養教育科目の選択必修科目については、第1科目群から2単位以上、第2科目群から2単位以上、第4科目群から1単位以上、第5科目群から英語科目2単位以上を含む4単位以上を修得していること
（6）メディア情報コースにおいては、専門科目の中から必修科目28単位、選択必修科目6単位以上を含む総計70単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

情報学科　データサイエンスコース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
専門科目	○	コンピュータ概論Ⅰ	2	○	確率論	2	○	データサイエンス	2	○	卒業研究	6	
	○	コンピュータ概論Ⅱ	2	○	多変量解析	2	○	データ分析演習	2				
	○	プログラミングⅠ	2	○	コンピュータネットワーク	2	○	情報学プロジェクトⅠ	2				
	△	数学	2	○	データベース	2	○	情報学プロジェクトⅡ	2				
	△	数学演習	2	○	データベース演習	2	△	計算の複雑さ	2				
	△	情報数学	2	○	情報学概論	2	△	暗号とセキュリティの理論	2				
	△	情報数学演習	2	○	情報学序論	2	△	情報と法	2				
	△	情報システム概論	2	△	応用数学	2	△	ソフトウェア分析・設計	2				
	△	情報と職業	2	△	ネットワークと通信の理論	2	△	ソフトウェア開発・展開	2				
	△	情報社会と倫理	2	△	情報と符号の理論	2	△	ソフトウェア開発演習	4				
	△	プログラミングⅡ	2	△	プロジェクト管理	2	△	インターネット工学	2				
	△	コンピュータ音楽	2	△	プロフェッショナルデザイン	2	△	インターネット工学演習	2				
	△	マルチメディア	2	△	データ構造とアルゴリズム	2	△	ネットワークセキュリティ	2				
				△	データ構造とアルゴリズム演習	2	△	ネットワークセキュリティ演習	4				
				△	ソフトウェア工学	2	△	画像処理	2				
				△	オブジェクト指向プログラミング	2	△	映像表現	2				
				△	オブジェクト指向プログラミング演習	2	△	ゲームとシナリオのデザイン	2				
				△	アドバンスドプログラミング	4	△	コンピュータグラフィックス	2				
				△	Webコンテンツ企画設計	2	△	プロダクションワーク	2				
				△	Webコンテンツ制作	2	△	データマイニングと可視化Ⅰ	2				
				△	統計ソフトウェアⅠ	2	△	データマイニングと可視化Ⅱ	2				
				△	統計ソフトウェアⅡ	2							
				△	シミュレーション	2							
				△	知識工学	2							
				△	知識工学演習	2							

【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】
（１）２年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
（３）所属するコースで１年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（４）１年次に開講されている教養教育科目のうち、『基礎ゼミ』、『科学的問題解決法』の２科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】
（１）３年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（３）所属するコースで２年次までに開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（４）３年次に開講されている専門科目のうち、『情報学プロジェクトⅠ』、『情報学プロジェクトⅡ』の２科目のいずれの単位も修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（１）４年間以上在学していること
（２）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（３）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（４）教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目９単位以上を含む総計28単位以上修得していること
（５）教養教育科目の選択必修科目については、第１科目群から２単位以上、第２科目群から２単位以上、第４科目群から１単位以上、第５科目群から英語科目２単位以上を含む４単位以上を修得していること
（６）データサイエンスコースにおいては、専門科目の中から必修科目34単位を含む総計70単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

2.6　経営ビジネス学科総括表

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択 経営マネジメント	必修・選択 グローバル経営	備考
専門科目	基礎	経営ビジネス学入門	2	1	前	○	○	□から6単位以上修得すること
		基礎経営学	2	1	前	○	○	
		基礎経済学	2	1	前	○	○	
		基礎流通論	2	1	前	○	○	
		基礎簿記Ⅰ	2	1	前	○	○	
		地域マネジメント基礎論	2	1	後	○	○	
		ビジネス英語基礎	2	1	後	△	□	
		基礎情報システム論	2	1	後	△	△	
		基礎人間工学	2	1	前	□	△	
	経営学・商学	経営管理論	2	1	後	□	□	
		経営戦略論	2	2	前	□	□	
		人的資源管理論	2	3	前	△	△	
		企業論	2	2	後	△	△	
		マーケティング論	2	1	後	○	○	
		流通システム論	2	2	後	△	△	
		データ分析	2	1	前	△	△	
		会社法	2	2	前	△	△	
		組織論	2	3	後	△	△	
		広告論	2	2	前	△	△	
		消費者行動論	2	3	前	△	△	
		マーケティングリサーチ	2	3	後	△	△	
	会計・財務	経営財務論	2	3	前	△	△	
		基礎簿記Ⅱ	2	1	後	□	□	
		会計学	2	2	前	□	△	
		財務諸表論Ⅰ	2	2	後	□	△	
		財務諸表論Ⅱ	2	3	前	△	△	
		原価管理	2	2	前	△	△	
		経営分析	2	3	後	△	△	
		税務会計	2	3	前	△	△	
		税法Ⅰ	2	2	後	△	△	
		税法Ⅱ	2	3	前	△	△	
		管理会計論	2	2	後	△	△	
	社会・工学	社会調査論	2	2	後	□	□	
		システムの基礎	2	1	前	△	△	
		人間工学	2	2	前	△	△	
		NPOマネジメント論	2	3	前	△	△	
		地域ビジネス論	2	2	前	□	△	
		地域経済論	2	3	後	△	△	
		スポーツマネジメント	2	2	後	△	△	
		都市経営論	2	3	前	△	△	

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択		備考
						経営マネジメント	グローバル経営	
専門科目	グローバル	グローバル経営論	2	3	前	□	□	
		グローバル経済論	2	3	前	△	□	
		国際環境政策論	2	3	後	△	△	
		比較経営論	2	2	後	□	□	
		アジア社会文化論	2	2	後	△	△	
		グローバル・スタディ	2	3	後	△	△	
		スポーツ社会学	2	3	前	△	△	
		スポーツ文化論	2	2	前	△	△	
		アジア企業論	2	2	前	△	△	
	コミュニケーション	外書講読	2	1	後	△	△	
		ビジネス英語	2	2	前	□	□	
		英語コミュニケーションⅠ	2	2	後	△	△	
		英語コミュニケーションⅡ	2	3	前	△	△	
		中国語コミュニケーションⅠ	2	2	後	△	□	
		中国語コミュニケーションⅡ	2	3	前	△	△	
		韓国語会話	2	2	前	△	□	
		韓国語コミュニケーションⅠ	2	2	後	△	△	
		韓国語コミュニケーションⅡ	2	3	前	△	△	
	演習	フィールドワーク	4	3	後	△	△	
		マネジメントゲーム	2	3	後	△	△	
		会計処理演習	2	3	後	△	△	
		特別講義Ⅰ	2	1	後	△	△	
		特別講義Ⅱ	2	2	前	△	△	
		特別講義Ⅲ	2	2	後	△	△	
		特別講義Ⅳ	2	3	前	△	△	
	ゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	2	前	○	○	
		プレゼミナールⅡ	2	2	後	○	○	
		ゼミナールⅠ	2	3	前	○	○	
		ゼミナールⅡ	2	3	後	○	○	
		卒業研究	6	4	通年	○	○	

経営ビジネス学科　経営マネジメントコース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
専門科目	○	経営ビジネス学入門	2	○	プレゼミナールⅠ	2	○	ゼミナールⅠ	2	○	卒業研究	6	□から6単位以上修得すること
	○	基礎経営学	2	○	プレゼミナールⅡ	2	○	ゼミナールⅡ	2				
	○	基礎経済学	2	□	経営戦略論	2	□	グローバル経営論	2				
	○	基礎流通論	2	□	会計学	2	△	人的資源管理論	2				
	○	基礎簿記Ⅰ	2	□	財務諸表論Ⅰ	2	△	組織論	2				
	○	地域マネジメント基礎論	2	□	社会調査論	2	△	消費者行動論	2				
	○	マーケティング論	2	□	地域ビジネス論	2	△	マーケティングリサーチ	2				
	□	基礎人間工学	2	□	比較経営論	2	△	経営財務論	2				
	□	経営管理論	2	□	ビジネス英語	2	△	財務諸表論Ⅱ	2				
	□	基礎簿記Ⅱ	2	△	企業論	2	△	経営分析	2				
	△	ビジネス英語基礎	2	△	流通システム論	2	△	税務会計	2				
	△	基礎情報システム論	2	△	会社法	2	△	税法Ⅱ	2				
	△	データ分析	2	△	広告論	2	△	NPOマネジメント論	2				
	△	システムの基礎	2	△	原価管理	2	△	地域経済論	2				
	△	外書講読	2	△	税法Ⅰ	2	△	都市経営論	2				
	△	特別講義Ⅰ	2	△	管理会計論	2	△	グローバル経済論	2				
				△	人間工学	2	△	国際環境政策論	2				
				△	スポーツマネジメント	2	△	グローバル・スタディ	2				
				△	アジア社会文化論	2	△	スポーツ社会学	2				
				△	スポーツ文化論	2	△	英語コミュニケーションⅡ	2				
				△	アジア企業論	2	△	中国語コミュニケーションⅡ	2				
				△	英語コミュニケーションⅠ	2	△	韓国語コミュニケーションⅡ	2				
				△	中国語コミュニケーションⅠ	2	△	フィールドワーク	4				
				△	韓国語会話	2	△	マネジメントゲーム	2				
				△	韓国語コミュニケーションⅠ	2	△	会計処理演習	2				
				△	特別講義Ⅱ	2	△	特別講義Ⅳ	2				
				△	特別講義Ⅲ	2							

【3年次進級条件（2年次から3年次へ）】
（1） 2年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
（3） 1年次に開講されている教養教育科目のうち、『基礎ゼミ』、『科学的問題解決法』、『ライフデザイン』、『日本語の技法』、『情報処理Ⅰ』の5科目のいずれの単位も修得していること
（4）所属するコースで1年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【4年次進級条件（3年次から4年次へ）】
（1） 3年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（3）所属するコースで3年次までに開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）所属するコースで3年次までに開講されている専門科目における選択必修科目の中から6単位以上を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（1） 4年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（3）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目9単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（5）教養教育科目の選択必修科目については、第1科目群から2単位以上、第2科目群から2単位以上、第4科目群から1単位以上、第5科目群から英語科目2単位以上を含む4単位以上を修得していること
（6）経営マネジメントコースにおいては、専門科目の中から必修科目28単位、選択必修科目6単位以上を含む総計70単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

経営ビジネス学科　グローバル経営コース

○：必修　□：選択必修　△：選択

		1年			2年			3年			4年			備考
			科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
教養教育科目	第1群	□	企業倫理と知的財産	2	□	現代社会と倫理	2	□	現代社会と法	2				第1群の□から2単位以上修得すること
		□	現代社会と倫理	2	□	環境と科学	2	□	暮らしの中の憲法	2				
		□	環境と科学	2	□	現代社会と法	2	□	哲学と人間・社会	2				
		△	建学のこころ	1	□	暮らしの中の憲法	2	□	人間のこころ	2				
					□	哲学と人間・社会	2	□	環境と社会	2				
					□	人間のこころ	2	△	インターンシップ	2				
					□	環境と社会	2							
					△	インターンシップ	2							
	第2群	□	国際経済入門	2	□	国際経済入門	2	□	日本近現代史	2				第2群の□から2単位以上修得すること
		□	国際社会と日本	2	□	国際社会と日本	2	□	日本文学論	2				
		□	国際化と異文化理解	2	□	国際化と異文化理解	2							
		□	地域社会と情報	2	□	地域社会と情報	2							
		□	地域社会と電気技術	2	□	地域社会と電気技術	2							
					□	日本近現代史	2							
					□	日本文学論	2							
	第3群	○	基礎ゼミ	2	○	論理的表現法Ⅰ	1	△	就職計画	2				
		○	科学的問題解決法	2	△	論理的表現法Ⅱ	1							
		○	ライフデザイン	2	△	キャリアデザイン	2							
		○	日本語の技法	1	△	情報処理Ⅲ	2							
		○	情報処理Ⅰ	2										
		△	情報処理Ⅱ	2										
	第4群	□	食生活と健康	2	□	生涯スポーツⅠ	1	□	健康とスポーツの科学	2				第4群の□から1単位以上修得すること
		□	空間とデザイン	2	□	生涯スポーツⅡ	1	□	視覚表現の科学	2				
					□	食生活と健康	2							
					□	空間とデザイン	2							
					□	健康とスポーツの科学	2							
					□	視覚表現の科学	2							
	第5群	○	英語Ⅰ	1	□1	実用英語Ⅰ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1	第5群の□から4単位以上修得すること ただし、□1から2単位以上を含めること □＊は外国人留学生のみ履修できる
		○	英語Ⅱ	1	□1	実用英語Ⅱ	1	□1	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	△	留学英語	2	
		○	英語Ⅲ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅰ	1	△	海外語学研修	1				
		○	英語Ⅳ	1	□1	インタラクティブ英語Ⅱ	1	△	留学英語	2				
		□＊	日本語Ⅰ	1	□	中国語Ⅰ	1							
		□＊	日本語Ⅱ	1	□	中国語Ⅱ	1							
		△	海外語学研修	1	□	フランス語Ⅰ	1							
					□	フランス語Ⅱ	1							
					□	スペイン語Ⅰ	1							
					□	スペイン語Ⅱ	1							
					□＊	日本語Ⅲ	1							
					□＊	日本語Ⅳ	1							
					△	海外語学研修	1							
					△	留学英語	2							

	1年			2年			3年			4年			備考
		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数	
専門科目	○	経営ビジネス学入門	2	○	プレゼミナールⅠ	2	○	ゼミナールⅠ	2	○	卒業研究	6	□から6単位以上修得すること
	○	基礎経営学	2	○	プレゼミナールⅡ	2	○	ゼミナールⅡ	2				
	○	基礎経済学	2	□	経営戦略論	2	□	グローバル経営論	2				
	○	基礎流通論	2	□	社会調査論	2	□	グローバル経済論	2				
	○	基礎簿記Ⅰ	2	□	比較経営論	2	△	人的資源管理論	2				
	○	地域マネジメント基礎論	2	□	ビジネス英語	2	△	組織論	2				
	○	マーケティング論	2	□	中国語コミュニケーションⅠ	2	△	消費者行動論	2				
	□	ビジネス英語基礎	2	□	韓国語会話	2	△	マーケティングリサーチ	2				
	□	経営管理論	2	△	企業論	2	△	経営財務論	2				
	□	基礎簿記Ⅱ	2	△	流通システム論	2	△	財務諸表論Ⅱ	2				
	△	基礎情報システム論	2	△	会社法	2	△	経営分析	2				
	△	基礎人間工学	2	△	広告論	2	△	税務会計	2				
	△	データ分析	2	△	会計学	2	△	税法Ⅱ	2				
	△	システムの基礎	2	△	財務諸表論Ⅰ	2	△	NPOマネジメント論	2				
	△	外書講読	2	△	原価管理	2	△	地域経済論	2				
	△	特別講義Ⅰ	2	△	税法Ⅰ	2	△	都市経営論	2				
				△	管理会計論	2	△	国際環境政策論	2				
				△	人間工学	2	△	グローバル・スタディ	2				
				△	地域ビジネス論	2	△	スポーツ社会学	2				
				△	スポーツマネジメント	2	△	英語コミュニケーションⅡ	2				
				△	アジア社会文化論	2	△	中国語コミュニケーションⅡ	2				
				△	スポーツ文化論	2	△	韓国語コミュニケーションⅡ	2				
				△	アジア企業論	2	△	フィールドワーク	4				
				△	英語コミュニケーションⅠ	2	△	マネジメントゲーム	2				
				△	韓国語コミュニケーションⅠ	2	△	会計処理演習	2				
				△	特別講義Ⅱ	2	△	特別講義Ⅳ	2				
				△	特別講義Ⅲ	2							

【3年次進級条件（2年次から3年次へ）】
（1）2年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
（3）1年次に開講されている教養教育科目のうち、『基礎ゼミ』、『科学的問題解決法』、『ライフデザイン』、『日本語の技法』、『情報処理Ⅰ』の5科目のいずれの単位も修得していること
（4）所属するコースで1年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【4年次進級条件（3年次から4年次へ）】
（1）3年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
（3）所属するコースで3年次までに開講されている教養教育および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）所属するコースで3年次までに開講されている専門科目における選択必修科目の中から6単位以上を修得していること
※教職科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
（1）4年間以上在学していること
（2）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
（3）所属するコースで開講されている教養教育科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
（4）教養教育科目の中から必修科目14単位、選択必修科目9単位以上を含む総計28単位以上を修得していること
（5）教養教育科目の選択必修科目については、第1科目群から2単位以上、第2科目群から2単位以上、第4科目群から1単位以上、第5科目群から英語科目2単位以上を含む4単位以上を修得していること
（6）グローバル経営コースにおいては、専門科目の中から必修科目28単位、選択必修科目6単位以上を含む総計70単位以上を修得していること
※教職科目は卒業の所要単位に算入しない

2.7 インターンシップ

インターンシップについて

インターンシップとは、自分の専攻や将来のキャリアに関連して就業体験することをいいます。在学中に一定の期間、企業や官公庁に出向いて実際の業務に携わる実地研修を行い、就業体験をします。企業体験を通じて専攻分野と将来の職業に対する興味が高まるだけでなく、自らの職業観と社会観を確立させるのに有効です。もちろん、４年次での職業選択や就職活動にも大いに役立ちます。インターンシップ制度は日本のほとんどの大学で実施されています。産業理工学部では積極的にインターンシップ制度の導入を検討してきたこともあって、平成14年度から実施しています。インターンシップは大学と様々な分野の企業・官公庁が連携して行うものですが、まだ学生である皆さんを受け入れる事は受入先の大きな負担になります。このため、インターンシップに参加できるのは、厳しい基準を満たした学生に限られます。

インターンシップの受講を希望する全ての学生は、まず２年次および３年次前期に「インターンシップ」のWeb履修登録を行い、その後、当学部で行われるインターンシップ事前学習を通じて、実地研修に最低限必要な事項を学習し、さらに各学科で実地研修へ進むための選抜を受けます。選抜基準には、各教科の成績だけでなく、コミュニケーション能力やチャレンジ精神、主体性、誠実性、協調性、責任感、礼儀など人格面や専攻分野の実技能力も重視されます。また、パソコンで報告書などの文書を迅速かつ正確に作成する能力も要求されます。事前学習後の選抜によって選ばれた学生は、夏季休暇中に企業・官公庁で実際の業務に携わる実地研修（10日間程度）を受けます。その後、後期になってから開催される各学科主催の報告会において、体験した業務の研修内容などについて、報告してもらいます。事前学習・実地研修・報告の３点を総合的に評価し、所定の成績を収めた人には単位（インターンシップ２単位）が認定されます。なお、学科によっては体験レポート等の提出も必要です。

インターンシップは２年次、３年次に配置されています。他の科目と異なり、２年次でインターンシップを履修済みの学生が、３年次においてもインターンシップに挑戦することもできます。

インターンシップ科目の履修や実施要領についてはユニパおよび掲示板をご確認下さい。

不明な点は３号館１階キャリア支援室（就職係）まで問い合わせて下さい。

インターンシップ（単位認定型）の主なスケジュール

○ 4月上旬　**就職ガイダンス：インターンシップ説明会（２・３年生対象）**

・インターンシップを希望する学生は説明会に必ず出席して下さい。

・インターンシップ申込関係書類を配布します。

・インターンシップ登録申込書を期限までに提出して下さい。

提出先：３号館１階**キャリア支援室（就職係）**

※履修期間中に後期「インターンシップ」の履修登録を行って下さい。（後期には追加修正ができません。）

↓

○ 4月中旬　**事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ**

・全ての事前学習への参加が必須となります。

・資料配布（受入企業情報を開示）

5月下旬　・希望調査を実施します。

↓

○ 6月上旬　**研修学生の決定**

・希望調査に基づき研修希望先とのマッチングを実施し、研修学生をインターンシップオフィスで決定します。（事前学習出席状況も考慮し総合的に審査します。）

↓

○ 6月下旬　**研修先決定**

・研修先を本人へ連絡後、企業への提出書類を交付します。

・提出書類を記入後、**キャリア支援室（就職係）へ提出して下さい。**

↓

○ 7月中旬　**キャリア支援室（就職係）から受入企業へ必要書類を郵送します。**

・「インターンシップ実習簿」を配布します。

↓

○ 夏休み　**インターンシップ研修期間（10日間程度）**

・研修期間中は毎日必ず各自で実習簿を記入して下さい。

↓

○ 9月中旬　**インターンシップ実習簿をキャリア支援室（就職係）へ提出して下さい。**

履修登録の修正…インターンシップの研修を行わなかった場合は修正期間中にユニパより履修削除を行って下さい。

↓

○ 後期　**研修生報告会**（各学科にて行われます。日程などの案内は掲示されます。）

※上記以外に非単位認定型のインターンシップも実施されております。

3．教職課程

3.1　教職課程の目的

教職課程とは、本学部卒業後、高等学校の教育職員を希望する学生のために、教員免許状を取得させることを目的としています。免許状の種類に応じた資格条件をみたした学生には、大学による一括申請の後、福岡県教育委員会から教員免許状が授与されます。

教職課程科目は、１年次から４年次まで体系的に編成されていますので、必ず１年次から順に履修してください。卒業要件に示された単位の修得とは別に、多数の教職や教科に関する科目を履修しなければならないため、強い学習意欲とこれにふさわしい人間的、知的資質が必要となります。(教職課程の受講のためには、履修登録・受講料その他が必要です)。

なお、卒業所要単位における教職課程科目の単位の扱い方については、各学科の規定に従ってください。

3.2　教員免許状の種類

本学部で取得できる免許状の種類や教科を表3.1に示します。

学部での１種免許状取得者が大学院に在籍し、教職科目として認定された所定の単位「24単位」を修得した場合、専修免許状が取得できます。(表3.2参照)。詳細は大学院研究科長および学生支援課の指導に従ってください。

表3.1　本学部で取得できる免許状の種類および教科

学　科	教員免許状の種類および教科	本書での略称
生物環境化学科	高等学校教諭　１種免許状　理科 高等学校教諭　１種免許状　工業	高校理科 高校工業
電気電子工学科	高等学校教諭　１種免許状　情報 高等学校教諭　１種免許状　工業	高校情報 高校工業
建築・デザイン学科	高等学校教諭　１種免許状　工業	高校工業
情報学科	高等学校教諭　１種免許状　情報 高等学校教諭　１種免許状　工業	高校情報 高校工業
経営ビジネス学科	高等学校教諭　１種免許状　商業	高校商業

表3.2　本学部大学院産業理工学研究科で取得できる専修免許状の種類および教科

専　攻	教員免許状の種類および教科
産業理工学専攻	高等学校教諭　専修免許状　工業

3.3　受講手続き

教職課程の受講に関する説明は、オリエンテーションで行いますが、受講希望学生は本章の説明を各自熟読してください。

⑴　教職課程の受講登録

「教職課程履修受講申込書」を学生支援課で受け取り、申請してください。

毎年、Web履修申請にて登録を行なって下さい。

⑵　教職課程の受講料

教職課程を受講するにあたっては、教職課程の受講料を毎年度納入するとともに、教育実習費、教員免許申請用単位取得証明書の発行に要する費用が必要となります。

「教職課程履修受講申込書」及び、「教職課程受講料用紙」を学生支援課で受け取り、教職課程受講料の証紙を購入し学生支援課にて手続きを行ってください。

3.4　授業科目

教職課程では教員免許状取得に必要な以下（表3.3）の科目を開講しています。なお、教職課程科目とは、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の２つを含みます。

表3.3　教職課程における授業科目の構成

授業科目	内　　容
教科に関する科目	取得を希望する免許科目に応じて、修得しなければならない専門分野に関する科目（表3.6～表3.10参照）
教職に関する科目	免許教科の種類に関係なく共通して、修得しなければならない教育理論や教育指導法などに関する科目（表3.11参照）

3.5　所要資格と修得単位数

高等学校１種免許状を取得するためには､表3.4に示すような基礎資格と所定の単位数を修得することが必要です。なお、これは教育職員免許法に基づいて定めた本学部の規定によるものです。

表3.4　免許状取得に必要な基礎資格と最低取得単位数

基礎資格	最低取得単位数		
	教養教育科　目	教科に関する科目	教職に関する科　目
学士の学位を有すること	28単位	36単位	23単位

3.6　教職課程で履修しなければならない必修科目

教育職員免許法施行規則第66条の６に従って、次の諸科目が教職課程の学生には必修となります。

表3.5教職課程の必修「教養・基礎教育部門」（全学科共通）

＜教職必修科目＞
「暮らしの中の憲法」
「生涯スポーツⅠ」「生涯スポーツⅡ」

＜教職必修科目＞
「情報処理Ⅰ」
「インタラクティブ英語Ⅰ」 「インタラクティブ英語Ⅱ」

3.7　教科に関する科目とその履修方法

⑴　開講されている科目

教科に関する科目として各学科で開講されている科目は、表3.6～3.11の通りです。

⑵　履修方法

卒業に必要な必修科目とともに、教職必修科目と教職選択科目の単位数を合計して36単位以上修得することが必要です。

履修すべき教科に関する科目は、免許状の種類によって異なります。

なお、各表の最下段にある◆印の科目は、専門科目としては開講されていないが、免許状取得に必要な教科に関する科目として、特別に設けられたものです。

表3.6(a)　生物環境化学科　教科に関する科目　　◎：卒業必修科目　○：教職必修科目　△：教職選択科目

	科目名	単位	取得できる免許状の種類 高校理科	配当年次	備考
専門科目	物理学 I	2	○	1	
	物理学 II	2	○	1	
	物理化学 II	2	○	2	
	分子シミュレーション	2	△	3	
	固体化学	2	△	2	
	無機化学 II	2	○	1	
	有機化学 II	2	○	1	
	環境材料化学	2	△	2	
	アカデミック有機化学 II	2	△	2	
	生物有機化学	2	△	3	
	環境生物学	2	△	3	
	生物学 I	2	◎	1	
	生物学 II	2	○	1	
	生物化学 I	2	△	2	
	生物化学 II	2	△	2	
	微生物学	2	△	2	
	微生物バイオテクノロジー	2	△	3	
	生物化学基礎実験	2	◎	2	
	環境化学基礎実験	2	◎	1	
	生物環境化学基礎実験	2	◎	1	
	物質化学基礎実験	2	◎	2	
◆	地学概論	4	○	2	

◎印の卒業必修＋○印の教職必修＋△印の教職選択＝36単位以上修得のこと。

表3.6(b)　生物環境化学科　教科に関する科目　　◎：卒業必修科目　○：教職必修科目　△：教職選択科目

	科目名	単位	取得できる免許状の種類 高校工業	配当年次	備考
専門科目	物理化学 I	2	◎	2	
	無機化学 I	2	◎	1	
	分析化学	2	○	1	
	有機化学 I	2	◎	1	
	高分子合成化学	2	△	3	
	高分子物性	2	△	3	
	食品衛生学	2	△	2	
	資源エネルギー化学	2	△	3	
	有機合成化学	2	△	3	
	先端有機材料化学	2	△	3	
	生体機能分子化学	2	△	3	
	分光分析法	2	△	2	
	化学と安全	2	△	2	
	先端無機材料化学	2	△	3	
	公害防止管理	2	△	2	
	環境バイオテクノロジー	2	△	2	
	バイオセンシング	2	△	3	
	遺伝子工学	2	△	3	
	食品化学	2	△	3	
	環境化学実験	3	◎	3	
	生物化学実験	3	◎	3	
	物質化学実験	3	◎	3	
	生物環境化学実験	3	◎	3	
◆	職業指導	4	○	3	集中講義

◎印の卒業必修＋○印の教職必修＋△印の教職選択＝36単位以上修得のこと。
●「生物環境化学科」－高校理科と高校工業の免許状を２つとも取得可能です。

表3.7ⓐ　電気電子工学科　教科に関する科目　　◎：卒業必修科目　○：教職必修科目　△：教職選択科目

	科目名	単位	取得できる免許状の種類 高校情報	配当年次	備考
専門科目	コンピュータ概論	2	◎	1	
	論理回路	2	◎	2	
	論理回路演習	2	△	2	
	システムプログラム	2	○	2	
	プログラミング	2	◎	2	
	プログラミング演習	2	◎	2	
	制御工学	2	△	3	
	ロボティクス	2	○	3	
	データ処理とプログラミング	2	○	2	
	計算機システム	2	◎	2	
	組込み制御	2	△	3	
	情報センシング	2	△	3	
	情報通信工学	2	○	3	
	情報ネットワーク	2	○	3	
	情報メディア工学	2	○	4	
	シミュレーション	2	◎	1	
◆	情報社会と倫理	2	○	1	
◆	情報と法	2	○	3	
◆	情報と職業	2	○	1	

◎印の卒業必修＋○印の教職必修＋△印の教職選択＝36単位以上修得のこと。
○印と△印は、コースによってその卒業必修科目（○）、選択必修科目（□）となることがある。
●「電気電子工学科」－高校工業と高校情報の免許状２つとも取得可能です。

表3.7(b)　電気電子工学科　教科に関する科目　　◎：卒業必修科目　○：教職必修科目　△：教職選択科目

	科目名	単位	取得できる免許状の種類 高校工業	配当年次	備考
専門科目	電磁気学 I	2	◎	1	
	電磁気学 II	2	△	2	
	電気回路 I	2	◎	1	
	電気回路演習 I	2	◎	1	
	電気回路 II	2	◎	1	
	電気回路 III	2	△	2	
	電子回路 I	2	◎	2	
	電子回路 I 演習	2	◎	2	
	電子回路 II	2	△	2	
	電子回路設計	2	△	3	
	エレクトロニクス概論	2	◎	1	
	計測工学	2	◎	2	
	集積回路	2	△	3	
	電磁波工学	2	△	2	
	無線通信工学	2	△	4	
	電気材料物性	2	△	3	
	半導体工学	2	△	3	
	発変電工学	2	△	3	
	送配電工学	2	△	3	
	電気機器	2	△	3	
	パワーエレクトロニクス	2	△	3	
	電力システム概論	2	△	2	
	電気法規・施設管理	2	△	4	
	電機設計・製図	2	△	4	
	エネルギー環境システム	2	△	3	
	電気工学基礎実験 I	2	◎	2	
	電気工学基礎実験 II	2	◎	2	
	電気電子情報工学実験 I	2	◎	3	
	電気電子情報工学実験 II	2	◎	3	
	電子情報設計プロジェクト	2	△	3	
◆	職業指導	4	○	3	集中講義

◎印の卒業必修＋○印の教職必修＋△印の教職選択＝36単位以上修得のこと。
○印と△印は、コースによってその卒業必修科目（○）、選択必修科目（□）となることがある。
●「電気電子工学科」－高校工業と高校情報の免許状２つとも取得可能です。

表3.8(a)　建築・デザイン学科　教科に関する科目　◎：卒業必修科目　○：教職必修科目　△：教職選択科目

	科目名	単位	取得できる免許状の種類	配当年次	備考
			高校工業		
専門科目	静定構造力学Ⅰ及び演習	3	◎	1	
	静定構造力学Ⅱ及び演習	3	△	1	
	不静定構造力学及び演習	3	△	2	
	建築と構造	2	◎	1	
	鉄筋コンクリート構造	2	△	2	
	建築材料	2	◎	1	
	施工法Ⅰ	2	◎	2	
	環境概論	2	◎	2	
	建築と環境	2	△	2	
	建築設備の基礎	2	◎	2	
	環境とデザイン	2	○	1	
	近現代建築論	2	△	1	
	住まいの計画	2	△	2	
	建築計画	2	△	3	
	都市計画	2	△	3	
	インテリアデザイン演習	3	△	3	
	視覚表現演習	3	△	3	
	プレゼンテーション演習	3	△	3	
	建築・デザイン演習Ⅰ	3	◎	1	
	建築・デザイン演習Ⅱ	3	◎	1	
	建築設計Ⅰ	3	◎	2	
	ＣＡＤトレーニング	2	△	2	
	建築工学実験	2	△	2	
	建築法規	2	◎	3	
◆	職業指導	4	○	3	集中講義

◎印の卒業必修＋○印の教職必修＋△印の教職選択＝36単位以上修得のこと。

表3.9(a)　情報学科　教科に関する科目　　◎：卒業必修科目　○：教職必修科目　△：教職選択科目

	科目名	単位	取得できる免許状の種類 高校情報	配当年次	備考
専門科目	情報社会と倫理	2	○	1	
	情報と法	2	○	3	
	情報学概論	2	◎	2	
	ソフトウェア工学	2	○	2	
	ソフトウェア分析・設計	2	△	3	
	ソフトウェア開発・展開	2	△	3	
	ソフトウェア開発演習	4	△	3	
	データ構造とアルゴリズム	2	○	2	
	データ構造とアルゴリズム演習	2	○	2	
	プログラミングI	2	◎	1	
	プログラミングII	2	△	1	
	オブジェクト指向プログラミング	2	△	2	
	オブジェクト指向プログラミング演習	2	△	2	
	データベース	2	○	2	
	データベース演習	2	○	2	
	情報システム概論	2	○	1	
	コンピュータネットワーク	2	◎	2	
	インターネット工学	2	○	3	
	ネットワークセキュリティ	2	○	3	
	ネットワークと通信の理論	2	△	2	
	インターネット工学演習	2	○	3	
	ネットワークセキュリティ演習	4	△	3	
	コンピュータグラフィックス	2	△	3	
	Webコンテンツ制作	2	△	2	
	画像処理	2	△	3	
	映像表現	2	△	3	
	コンピュータ音楽	2	△	1	
	マルチメディア	2	△	1	
	シミュレーション	2	△	2	
	情報と職業	2	○	1	

◎印の卒業必修＋○印の教職必修＋△印の教職選択＝36単位以上修得のこと。
●「情報学科」－高校工業と高校情報の免許状を２つとも取得可能です。

表3.9(b)　情報学科　教科に関する科目　　◎：卒業必修科目　○：教職必修科目　△：教職選択科目

	科目名	単位	取得できる免許状の種類 高校工業	配当年次	備考
専門科目	コンピュータ概論I	2	◎	1	
	コンピュータ概論II	2	◎	1	
	応用数学	2	△	2	
	情報数学	2	△	1	
	情報数学演習	2	△	1	
	統計ソフトウェアI	2	△	2	
	統計ソフトウェアII	2	△	2	
	計算の複雑さ	2	△	3	
	多変量解析	2	△	2	
	アドバンスドプログラミング	4	△	2	
	知識工学	2	△	2	
	知識工学演習	2	△	2	
	データマイニングと可視化I	2	△	3	
	データマイニングと可視化II	2	△	3	
	プロジェクト管理	2	△	2	
	Webコンテンツ制作	2	△	2	
	プロダクションワーク	2	△	3	
	データサイエンス	2	△	3	
	データ分析演習	2	△	3	
	情報学プロジェクトI	2	◎	3	
	情報学プロジェクトII	2	◎	3	
◆	職業指導	4	○	3	

◎印の卒業必修＋○印の教職必修＋△印の教職選択＝36単位以上修得のこと。

表3.10(a)　経営ビジネス学科　教科に関する科目　　◎：卒業必修科目　○：教職必修科目　△：教職選択科目

	科目名	単位	取得できる免許状の種類	配当年次	備考
			高校商業		
専門科目	基礎経済学	2	◎	1	
	基礎経営学	2	◎	1	
	地域経済論	2	△	3	
	財務諸表論 I	2	△	2	
	財務諸表論 II	2	△	3	
	経営分析	2	△	3	
	企業論	2	△	2	
	経営戦略論	2	○	2	
	経営管理論	2	○	1	
	基礎流通論	2	◎	1	
	マーケティング論	2	◎	1	
	流通システム論	2	△	2	
	ビジネス英語基礎	2	○	1	
	ビジネス英語	2	△	2	
	会社法	2	△	2	
	税法 I	2	△	2	
	税法 II	2	△	3	
	基礎簿記 I	2	◎	1	
	基礎簿記 II	2	△	1	
	会計学	2	△	2	
	原価管理	2	△	2	
	税務会計	2	△	3	
	会計処理演習	2	△	3	
	基礎情報システム論	2	◎	1	
	システムの基礎	2	○	1	
◆	職業指導（商業）		○		集中講義

◎印の卒業必修＋○印の教職必修＋△印の教職選択＝36単位以上修得のこと。

表3.11　教職に関する開講科目　　○：教職必修科目　△：教職選択科目

授業科目	単位数	免許状の種類						配当年次	備考
		〈高校理科〉	生物環境化学	〈高校工業〉	生環化、電気建・デ、情報	〈高校情報〉	電気、情報	〈高校商業〉	経営ビジネス		
教職論	2	○		○		○		○		1年	教育実習参加の必修科目
特別活動の研究	2	○		○		○		○		1年	
教育心理学	2	○		○		○		○		1年	教育実習参加の必修科目
教育学概論	2	○		○		○		○		2年	同上
教育行政学	2	○		○		○		○		2年	同上
工業科教育法Ⅰ	2	－		○		－		－		2年	同上
工業科教育法Ⅱ	2	－		○		－		－		2年	同上
理科教育法Ⅰ	2	○		－		－		－		2年	同上
理科教育法Ⅱ	2	○		－		－				2年	同上
情報科教育法Ⅰ	2	－		－		○		－		2年	同上
情報科教育法Ⅱ	2	－		－		○		－		2年	同上
商業科教育法Ⅰ	2	－		－		－		○		2年	同上
商業科教育法Ⅱ	2	－		－		－		○		2年	同上
進路指導論	2	○		○		○		○		3年	
教育相談	2	○		○		○		○		3年	
教育実践の研究	1	○		○		○		○		3～4年	教育実習参加の必修科目
教育実習	2	○		○		○		○		4年	期間は2週間
比較教育学	2	△		△		△		△		4年	
教職実践演習（高等学校）	2	○		○		○		○		4年	

3.8　教職に関する科目とその履修方法

⑴　開講されている科目

教職に関する科目として開講されている科目は、表3.11の通りです。

⑵　履修方法

表3.11に示す教職に関する科目は、上級履修と他学科履修はできません。

高校工業免許の場合、「教育実践の研究」「教育実習」は原則履修とするが、教育職員免許法附則11項により当分の間それと同数の単位分（3単位分）の教科に関する科目の単位修得をもって、これに替えることができます。

3.9　教育実習について

教職課程で学んだ専門知識に基づいて、学校教育の場で教育実践の基礎的訓練を行うことを目的として、教育実習を行います。

⑴　教育実習の参加資格

教育実習（必修）に参加するためには、下記の①②の条件を満たしていることが必要です。

①教育実習の実施年度（4年次）までに「教職論」、「教育心理学」、「教育学概論」、「教育行政学」、「該当する教科教育法Ⅰ、Ⅱ」の単位を修得していること。

②「教育実習ガイダンス」（第3年次4月に行う）に出席し、「教育実践の研究」を受講中であること。なお、この「教育実践の研究」は、3年次後期から4年次前期にかけて開講し（集中講義）、合計して1単位分となるので、3年次・4年次ともに必ず履修すること。

また、4年次後期の「教職実践演習（高等学校）」を必ず履修すること。

⑵　教育実習の概要

広義の教育実習は、次の表3.12の３つから成ります。

表3.12　教育実習の概要

	内　　容	場　所
1.実習事前講義	教育実習の方法や実習に際しての心得、諸注意等に関する講義	本　校
2.実習校実習	高等学校の教育活動全般について観察・参加・実習を行う 各校の実情に即した指導計画の編成	実習校
3.反省会	実習中の諸問題についての討議、および教育実習全体のまとめ	本　校

教育実習の成績は実習校の校長と指導教師の採点を主とし、ガイダンス、事前講義、実習関係の提出物、反省会などを含めて総合的に評価します。

※　教育実習校は、原則として各学生の出身校に依頼するので、母校の恩師との親しい関係を保っておいてください。

⑶　教育実習の時期と期間

実習は通常５月から10月頃までの期間、実習予定校の指示に従って、２週間行います。

⑷　教育実習校の依頼

教育実習は原則として各学生の出身校で行います。（これを「母校実習」と呼びます）。

学内で行われる「教育実習ガイダンス」（第３年次４月に行う）に基づき、第３年次のゴールデンウィークまたは夏季休暇中に各自母校に実習依頼の交渉を行ってください。

［教育実習校の依頼に関する注意事項］

①交渉に入るまでに「教育実習実施要領（「教育実習ガイダンス」で配布）を熟読し、本学の教育内容の概要をよく理解しておきましょう。

②依頼の交渉にあたっては、教育実習生の受け入れがその学校にとって大きな負担であることを十分にわきまえ、謙虚で丁寧な態度で相談してください。

③特定の教員との話し合いだけではなく、必ず校長まで話を通し、担当教員や日程などが職員会議で正式に審議された後に内諾をえることが大切です。

④交渉の結果、内諾がえられた後に大学から正式の依頼状を実習校宛に郵送します。

⑤第４年次４月の時点で実習参加資格（「3.9教育実習について⑴教育実習の参加資格」を参照）を満たせなかった者、やむをえない正当な理由で実習参加を断念する者は、その旨を学生支援課に連絡し、依頼済みの実習校に対して「実習取消の連絡」を必ず責任を持って行ってください。

なお、第４年次４月に教育実習の参加資格を満たした実習参加者氏名を発表します。

⑸　教育実習の心得

教育実習に参加するにあたっての全般的な心得と実習開始前および期間中の心得を下記に示します。

［全般的心得］

①学校の教育活動は成長過程にある生徒の人格形成を目指して行われるものです。従って、生徒の人格の尊重、生徒に対する愛情、そして教育に対する熱意が非常に大切となります。

②教職課程の履修については様々な動機があるにしても、教育実習を単に教育職員免許状取得のための一過程であるとか、「とれるものならとっておこう」という安易な考え方でとらえることは慎まなければなりません。それは教育実習が教育のまねごとや授業の練習ではなく、まさに真実の教育活動そのものだからです。たとえ実際には教職に就かない場合も、実習にあたっては、教師になろうとする者のもつべき心構えや態度をわきまえ、責任を自覚して自己に対して厳しくあるべきです。

③教育の実際についてほとんど未経験である教育実習生が、わずか２週間の実習で教育活動のあらゆる領域を経験することは非常に困難です。したがって担当教員の指導助言を謙虚に受け、実習校の教育方針、教育計画に従って実習活動をすすめなければなりません。

④実習校での服装、および実習校の校長や教職員に対する礼儀・言葉遣い・動作は大学生にふさわしいものとしてください。また、生徒に対しては教師とし

ての自信と誠意のある態度で接することが望まれます。

⑤実習期間中の健康維持、くれぐれも注意してください。

［実習開始前の心得］

①母校実習開始前までに、本学において「教育実践の研究」の講義を行います。これに欠席したり書類の交付を受けないものは実習を受けることはできません。

②実習校を必ず訪問し通勤所要時間を確かめ、次の事項について打ち合わせておきます。

・実習期間中の勤務時間、教科書の準備
・上履き、弁当などの要否
・その他準備を必要とするもの

③やむを得ない理由で指定された期日に出勤できなくなったときは、事前に実習校にその理由を申し出て了解を得てください。それと同時に、学生支援課担当者に報告してください。実習校の特定の教員との個人折衝によって実習期日を変更したり、実習を中途放棄することは許されません。

［実習期間中の心得］

教育実習期間中は、実習校の校長、副校長、教頭、教務主任、指導教員等の指導を謙虚に受け、学校の教育目標・方針や指導目標などを理解し、服務規程等に従うとともに、**［近畿大学学生としての自覚と誇り］**を持って良識ある行動、態度、熱意、意欲を示してください。

教育実習期間中に服務に問題がある場合は、中途であっても実習の中止を命ずることがあります。

(a)　勤務

①教育実習期間中は、教員の服務に準じます。

②出校したら直ちに、「教育実習生出席簿」に押印します。

③教育実習生は、実習校の教職員の指示に従ってください。

④病気その他やむをえない事情により欠席、遅刻、早退する場合は、必ず事前に指導教員に連絡し、欠席届けを提出してください。

民間企業等の就職活動（面接等）による欠席は、認められません。

⑤出校後の無断外出は禁止されます。外出が必要な場合は必ず指導教員の許可を得てください。

⑥下校の際は、指導教員に届け出、承認を得てください。

⑦実習生控室の整理、整頓を心がけてください。

⑧校内の備品、教材・教具、図書、帳簿等を使用するときは、係の教職員の許可を受け、その管理には責任を持ち、使用後は所定の位置に返却し、係の教職員の承認を得てください。

⑨「教育実習日誌」は、毎日下校前に必ず指導教員へ提出し指導を受けてください。

⑩服装、言動等については、常に生徒の基本的生活習慣の模範となるように心がけてください。

⑪生徒との私的交際や生徒随伴、無断家庭訪問や家庭への連絡は行なってはなりません。

⑫いかなる場合でも、生徒に対する暴力行為、体罰、いじめ、精神的・身体的な苦痛、いやがらせ、無視等は禁止されます。

問題が生じた場合は、直ちに指導教員等に連絡・届出し指導を受けてください。

実習校にあっては、実習期間中、校長・副校長・教頭・教務主任・教育実習係教員、指導教員（教科担当教員、学級担任）、学年主任、特別活動係教員、部活動顧問、生徒指導主事、事務長など、多くの教職員の方が携わられます。可能な限り、学校の組織を早く認識・理解し、充実した教育実習を行なってください。

(b)　教科指導

①教育実習期間中を前期・中期・後期に分け、それぞれを「観察」「参加」「実習」の形態になるように、緻密な計画を立ててください。

「観察」生徒の実態や教師の指導などを客観的に観察して、学校教育を総合的に認識・理解することに心がけてください。（模範授業の観察）

「参加」指導教員の下に多用な教育活動に積極的に参加し、教師として求められる知識や技術、熱意、態度を修得する実践的な活動をしてください。（実習授業の実践）

「実習」教科の学習指導を中心に、学習指導案を作成し授業を行い、最終的には査定のための研究授業（多数の教員が参観）などにより実習評価を受けます。

②授業実習にあたっては、「教科書を教える」のではなく、**「教科書で教える」**ように、教材研究に万全を期し、持てる力（知識、技能、意欲、関心、表現、判断など）を発揮してください。
③公正で明朗な指導を心がけてください。
④教材研究や授業において、理解していない不明な箇所がある場合は、指導教員などに指導を受け、明確にするように心がけてください。
⑤器具、機器や薬品などの取り扱いには十分に配慮し、安全の確保に努めてください。
⑥授業実践後は、指導教員や他の実習生などの評価を謙虚に受け、その後の工夫改善に生かすよう努力してください。

教科学習指導に偏ることなく、学級活動、特別活動、部活動などにも積極的に参加し、実習の目的や意義を、生きている生徒を通して体験の中で直接的に吟味、検証してください。

また、その視座を学生の受動的視点から、教師としての能動的視点に転換し、自己の適正、能力を見直す絶好の機会としてください。

⑹　教育実習終了後の諸手続

①帰学後直ちに教育実習簿、その他実習校で指示された書類を学生支援課に提出してください。
②教育実習簿は、実習終了時に学生に手渡される場合と、後日郵送される場合があります。
③実習簿は、教育実習の評価後に、学生支援課から各学生に返却します。
④実習校の校長および指導教員に、必ず礼状を郵送してください。

3.10　その他、教職課程に関する履修上の注意事項

⑴　学生への伝達方法

学生に対する公示、告示およびその他の履修上周知を要する事項は、すべて「掲示」によって通知します。常に掲示板を見るように心がけてください。

⑵　提出期限を守ること

諸手続の申し込み期限や各種提出物の提出期限を守ってください。

⑶　出席について

学年のはじめに行なわれるガイダンスには必ず出席してください。

また、３年生末の12月～１月と４年生５月に行われる「教育実践の研究」（集中講義）も必ず出席してください。欠席した場合は教育実習に行くことができなくなります。

4．転学部および転学科、大学院進学

１年間以上在学し、第１学年次の必要単位を修得または修得見込みの者で他学部への転学部または産業理工学部内の他学科への転学科を希望する者は、所定の「転学部・転学科願」用紙に第一保証人連署の上で転学部、転学科希望先の事務部に願い出れば、在学中の成績ならびに選考試験などの結果により許可される場合があります。選考試験は、受験資格や試験内容などを定めた転学部・転学科試験要項に基づいて実施されます。

出願受付けは毎年１回２月頃ですが、その転学部・転学科試験要項については１月下旬に説明会が行われますので、希望者は必ず説明会に出席して下さい。説明会に欠席した場合は出願が受け付けられない場合がありますので、説明会開催に関する掲示に注意して下さい。

本学部を卒業し、さらに進学を希望する者には近畿大学ならびに他大学の大学院への道が開かれています。

大学院には修士課程(博士前期課程)、さらに博士課程（博士後期課程）があります。修士課程は専門分野における研究能力または高度の専門性を有する職業などに必要な能力を養い、博士後期課程では研究者として独立することを目的とします。修業年限はそれぞれ２年と３年です。本学部に基礎を置く産業理工学研究科にも、平成27年に専攻分野に博士後期課程が設置されました。なお、近畿大学の大学院に進学を希望する場合には、在学中の成績が優秀な者には学内推薦や学費免除の制度がありますので、各専攻幹事の教員に相談して下さい。

5．進路対策講座等および卒業後の進路

5.1　進路対策および資格取得対策講座

本学では、大学教育の成果を社会的活動の領域に反映させ、学生が社会的、経済的に自立できることを支援するために進路対策および下記の資格取得対策講座を開講しています。当講座では、雇用情勢をはじめとして社会･経済的情勢の変化を学生に伝えるとともに、学生に求められている様々な資格の取得に必要な知識等について講義や演習を実施します。当講座には以下の科目があります。

表5.1.1　開講予定の講座の内容

資格講座名	開講予定	対象学科	案内方法	種類
日商簿記３級	４月	全学科	経営ビジネス学科で受付（有料）	公的
マイクロソフト　オフィススペシャリスト	授業（情報処理Ⅰ・Ⅱ）	全学科	授業中	民間
ITパスポート	授業（情報処理Ⅲ）とe-Learning	全学科	授業中	国家
CGクリエーター検定	プロジェクト研究（一部）	建築・デザイン学科	授業中	公的
WEBデザイナー検定	プロジェクト研究（一部）	建築・デザイン学科	授業中	公的
基本情報技術者	授業（プロフェッショナルデザイン）	情報学科	授業中／掲示	国家
公務員試験対策講座	６月（３年生） ２月（２年生）	全学科	就職係で受付（有料）	国家
宅地建物取引士	５月	全学科	就職係で受付（有料）	国家
二級建築士	後期（３年生以上）	建築・デザイン学科	就職係で受付（有料）	国家
色彩検定	プロジェクト研究（一部）	建築・デザイン学科	授業中	公的
電気主任技術者	ホームルーム	電気電子工学科	ホームルームで説明	国家
電気工事士	ホームルーム	電気電子工学科	ホームルームで説明	国家
公害防止管理者	授業（公害防止管理）	生物環境化学科	授業中	国家
バイオ技術者(中級、上級)	授業（生物環境化学特別講義Ⅱ）	全学科	授業中	民間
危険物取扱者（甲種）	授業（化学と安全）	生物環境化学科	授業中	国家
環境計量士	授業（環境計量学）	生物環境化学科	授業中	国家
技術士一次	生物環境化学特別講義Ⅰ	生物環境化学科	授業中	国家
TOEIC	授業（TOEIC英語）	全学科	授業中	民間

【挑戦してみたい　その他の資格】
- ファイナンシャルプランナー
- 販売士　（公的資格）
- 日本漢字能力検定　（公的資格）
- カラーコーディネーター　（公的資格）
- インテリアコーディネーター
- 環境社会検定（eco検定）
- 商業施設士補

5.2　就職

⑴　豊かな未来を求めて

１年生に入学された皆さんは大学生としての心構えと同時に、社会情勢、国際情勢等を見極めしっかりした履修計画をもとに学業に専念し、豊かな教養と専門的な知識や学力・技術を身につけることが重要になるでしょう。輝かしい人生を歩けるよう、大学４年間の中でしっかり学んでください。また、皆さんは自分にふさわしいキャリアプランを持たなければなりません。そのためには職業選びは最も重要な要素です。先

ず、就職への第一段階として**１年次開講の「建学のこころ（１単位）」、「ライフデザイン（２単位）」、２年次開講「キャリアデザイン（２単位）」、３年次開講の「就職計画（２単位）」を必ず受講してください。また、就職係が３・４年次に実施する就職支援講座には積極的に出席して下さい。**

⑵　３年生・４年生への指導

平成９年１月に就職協定が廃止され、新たに就職協定に代わるものとして企業側の「新規学卒採用・選考に関する企業の倫理憲章」並びに大学側の「平成９年度大学および高等専門学校卒業予定者に係る就職事務についての申し合わせ」に基づき、採用活動・大学の就職指導が実施されるようになりました。このような就職協定の廃止にともなう就職活動の「早期化」「長期化」「多様化」「流動化」の中、３年生への就職指導は４年生の活動日程と連動した計画で実施します。主な指導内容は「人生と職業」「就職戦線をとりまく社会情勢」「就職の心得」「４年生の就職活動報告」「職業適性検査」「就職模擬試験」「就職活動の進め方」「業種・業界研究」「インターネットを利用した企業情報の収集」などがあり、学生が効果的な就職活動を進めるため下記の要領で実践的な指導も行います。

①進路希望の登録と個人面談

３年次前期にユニパより進路希望登録（Web登録）を済ませ、９月頃配布される就職（進路）登録カードを３号館１階キャリア支援室（就職係）まで提出して下さい。

就職（進路）登録カードに記された希望進路・就職意識等をもとにした学生との個人面談を実施します。

②就職支援講座の実施

次のような就職支援講座を適宜開催しています。

・自己分析講座
・エントリーシート・履歴書講座
・筆記試験対策
・マナー講座
・模擬面接、グループディスカッション対策
・学内企業説明会

他に就職に関する個別相談も受け付けております。

II

附属施設利用の手引

［II－1］図　　書　　館
［II－2］電算機センター

［II-1］図書館

●開館時間

通常

月～金	9：00～19：00
土曜日	9：00～13：00
振替授業日	9：00～17：00

冬期・春期休暇　全学休講時

月～金	9：00～17：00（土曜日は通常どおり）

夏期休暇

月～金	9：00～16：00

●休館日

・日曜日　祝日　創立記念日（11月５日）
・夏期・冬期休暇中の一定期間
・夏期休暇中の土曜日
※開館時間の変更や臨時の休館はその都度、掲示やホームページでお知らせしています。
★図書館ホームページ
http://www.lib.fuk.kindai.ac.jp

●利用上の心得と注意

・学生証は常に携帯してください。
・館内では静粛にしてください。
・館内での飲食や喫煙、携帯電話は使用できません。
・館内ではルールを守り職員の指示に従ってください。

●貸出

貸出には学生証が必要です

貸出条件

貸出冊数：10冊まで	貸出期間：15日以内

・貸出期間を超えて利用したい時は２回まで更新できます（最大45日）。
貸出期間内に①②どちらからの方法で更新手続きを行ってください。
①＊Myライブラリーから自分で更新する。
②図書館カウンターで貸出資料と学生証を提示する。
※その資料に予約があったり貸出期間が超過している場合、このサービスは利用できません。
・新聞、学術雑誌、ブラウジング雑誌の最新号、“禁帯出”や“館内”ラベルがあるものは貸出できません。

●返却

・直接カウンターで返却するか返却ボックスに投函してください。
・閉館後は自動ドア脇の“閉館後図書返却口”で返却できます。
※直接書架や“館内閲覧図書返却台”に返しても返却にはなりません。ご注意ください。
・ペナルティ
返却が遅れた場合はその日数だけ貸出を停止します。この間新たな貸出や貸出の更新はできません。

●館内利用

・館内の資料は全て自由に閲覧できます（開架式）。

◆資料検索

２階カウンター前と１階に検索用パソコンを設置しています。
★ホームページトップ→資料検索→OPAC検索へタイトルなどのキーワードを入力して検索します。
※検索結果が貸出中の場合は＊Myライブラリーから予約できます。
※該当する資料がない場合は＊Myライブラリーからリクエストできます。

・CDやDVD等の視聴覚資料の視聴ができます。
・ゼミ室（３部屋）…３名以上で利用できます。
※利用したい場合はカウンターで申し込んでください。
・地域資料室（筑豊地区関連の資料を中心に集めています。）…閲覧自由

●コピーサービス

・図書館の所蔵資料のみコピーできます。
※それ以外のものをコピーした場合は没収します。返金もできません。

料金（１枚）

モノクロ：10円	カラー：50円

●相互利用

・必要な資料が図書館にない場合は他大学の図書館やその資料を利用できます。
※料金は本人負担です。

申請方法

紹介状の発行	図書館に来館してください
文献複写・借用	＊Myライブラリーから申請できます

●授業・就職支援

図書館の入口左手にシラバス掲載参考文献・就職関係・資格関係図書のコーナーがあります。
ぜひ、有効に活用してください。

・シラバス掲載参考文献
　シラバスに掲載されている講義ごとの指定参考書
・就職関係
　SPIやエントリーシートなどの就職試験に必要な最新の対策本や問題集
・資格関係
　産業理工学部で取得できる資格試験の問題集

生物環境化学科	技術士（環境部門）・公害防止管理者・環境計量士・上級バイオ技術者・中級バイオ技術者・危険物取扱者等
電気電子工学科	技術士（電気電子部門）・電気主任技術者・電気工事士等
建築・デザイン学科	建築士・色彩検定　等
情報学科	基本情報技術者・応用情報技術者　等
経営ビジネス学科	簿記・税理士・販売士・宅地建物取引主任者　等
その他	TOEIC・語学関連資格・秘書検定・ITパスポート　等

＊Myライブラリーとは

利用者個人ごとの図書館情報ページです。
自宅など、図書館以外のパソコンやスマホからも利用できます。
利用に際しては、ログイン名（ID）とパスワードが必要です。

＊Myライブラリーでできること
ホームページトップ→Myライブラリー→ログイン画面にアクセス　ID・パスワードを入力
□貸出：貸出状況・貸出履歴の確認
（返却期限・貸出冊数と回数）
貸出期間の更新
（予約がない場合２回まで）
□相互利用
（有料）：図書の借用
文献複写（論文や図書の一部）
□リクエスト：所蔵していない資料の購入
□予約：資料検索の結果が“貸出中”の場合

〔Ⅱ－２〕電算機センター

１．概要

４号館（図書館・電算棟）の３階全体を「産業理工学部電算機センター」と呼びます。コンピュータ実習や卒業研究などのために、本学部および大学院産業理工学研究科学生なら誰でも利用することが出来ます。利用に際してはログイン名（ID）とパスワードが必要です。

２．教室

室　　名	収容人数	備　考
ターミナル室１	48名	主に講義で利用
ターミナル室２		
ターミナル室３		
ターミナル室４	20名	少人数用
オープンターミナル室	48名	講義は行わない
リモートターミナル室	－	雑誌の閲覧

どの部屋も講義が行われていない場合は自由に利用できます。

３．利用時間

室　　名	平日（月～金）	土曜日
ターミナル室１	9：00～17：00	利用不可
ターミナル室２		
ターミナル室３		
ターミナル室４		
オープンターミナル室	9：00～20：00	不定期
リモートターミナル室	9：00～17：00	利用不可

※講義が行われている場合はこの限りではありません。

休暇中の利用については、そのつどホームページ上に掲示します。

4．ログイン名とパスワードの入手方法

①講義で利用する場合：最初の講義時に担当教員よりロングン名とパスワードが配布されます。

②講義を受けていない場合：管理室に申し出て受け取ってください。この時、**学生証を掲示**する必要があります。

5．パスワードの取り扱いについて

パスワードは銀行のキャッシュカードの暗証番号のようなものです。他人には絶対に知られてはいけません。被害を受けることがあります。パスワードは変更する事ができます。方法については電算機センターのホームページを参照してください。

パスワードを忘れた場合は、**学生証を持って**管理室まで問い合わせてください。

6．17時以降（土曜日は13時以降）の利用について

この時間帯は**電算機センター補助員**（学部学生で、胸に名札を付けています）がオープンターミナル室に２名いますので、質問などがある場合は、補助員に相談してください。適切に対応してもらえます。

7．ネットワークの利用について

電算機センターのシステムはインターネットに接続されていますので、世界中の人たちと電子的な情報伝達､情報交換が行えます｡センターでは出来る限りオープンな環境を学生のみなさんに提供したいと考えておりますが、それは学生のみなさんが正しい利用をすることが前提となります。注意事項を守って利用してください。

また、電子メール等の利用方法は、必修の授業科目「情報処理Ｉ」で指導します。欠席しないようにしてください。

8．ネットワーク利用上の注意事項

①個人やグループまたは組織に対する悪意の中傷や一方的な非難をしない。

②プライバシーに関する興味本位の話題提供をしない。

③音楽ファイル等の著作物をダウンロードするのは違法行為です。

④その他、悪用と思われるような行為をしない。

⑤ネットワーク利用を安易に考えてはいけません。はなはだしい場合は、刑事事件として罰せられます。

9．電算機センターに関する情報の入手について

電算機センターの説明は全てホームページに掲載されます。また、利用方法等や新しく導入された機能や、システムの停止案内等もホームページに掲載します。

http://www.ed.fuk.kindai.ac.jp

10．電算機センター使用上の注意

下記事項に違反した場合は、一定期間利用を禁止します。

⑴　飲食物・傘の持ち込み禁止

センター内には飲食物および傘を持ち込むことは出来ません。傘はセンター入り口にある傘立てに入れて下さい。

⑵　プリンター用紙を無駄遣いしない

レーザープリンター用紙はセンターが供給しますが、ランニングコストが非常に高いので無駄な出力は控えてください。無駄遣いが目立つ場合は課金制になる可能性があります。

⑶　室内整頓

各自の出したゴミは必ずゴミ箱に入れてください。不要になったプリンター用紙は丸めずにプリンター横に用意された用紙入れに入れてください。

⑷　操作手順を守る

各装置は正しい手順に従って操作してください。もし､壊した場合は弁償してもらう場合があります。

⑸　雑誌や資料の貸し出し

雑誌や資料を借り受ける場合は、管理室で貸出簿に記入してください。

⑹　装置の異常発見

各種の装置を使用中に異常と思われる事態が発生した場合には、直ちに担当教員か管理室に連絡してください。

⑺　違法ダウンロード行為の禁止

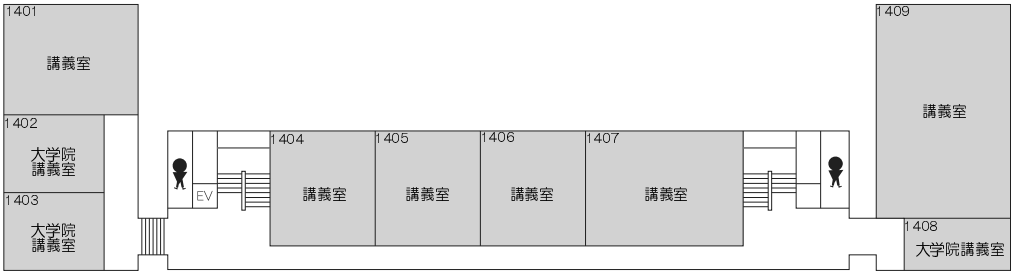
著作物などをP2P（Winny，Share，Lime Wire，Cabos）等を用いてダウンロードすることは違法行為です｡センター内の通信は全て記録されています。

III

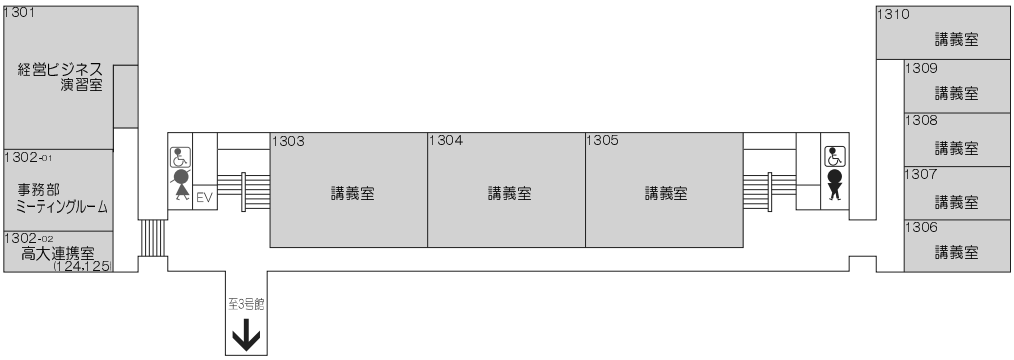
配　置　図

1号館

4F

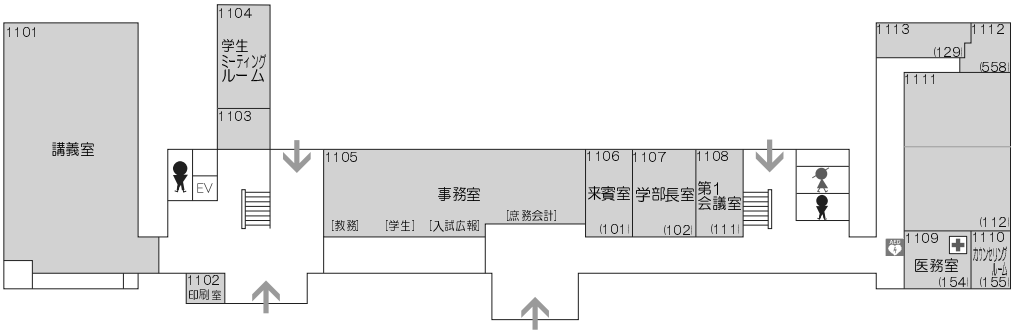


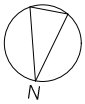
3F



2F

1F

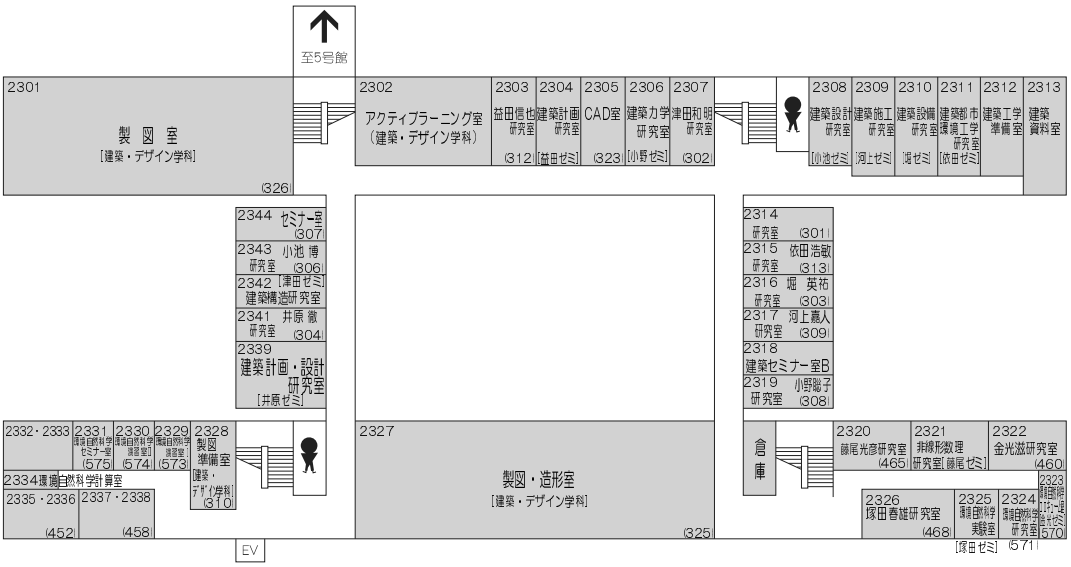




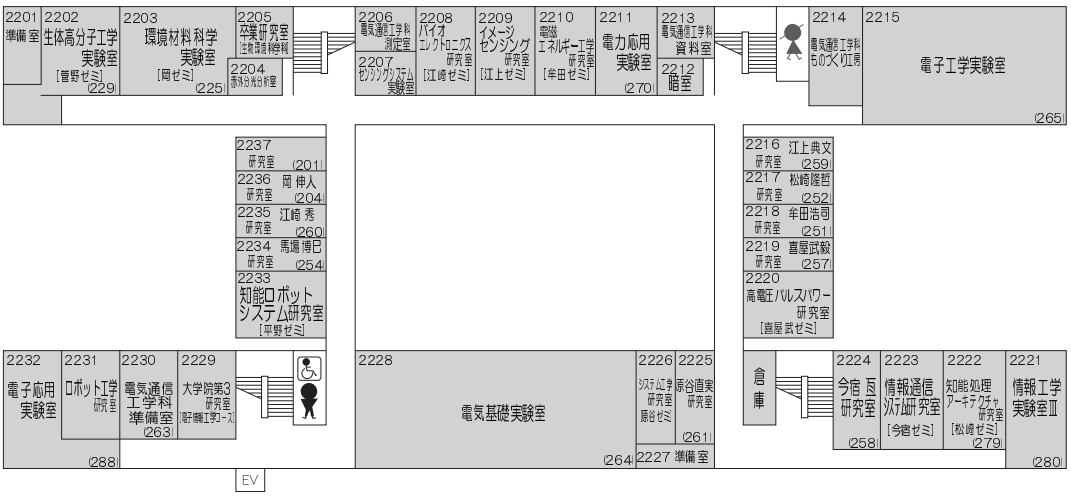
KINDAI UNIVERSITY
Faculty of Humanity-Oriented Science and Engineering

2号館

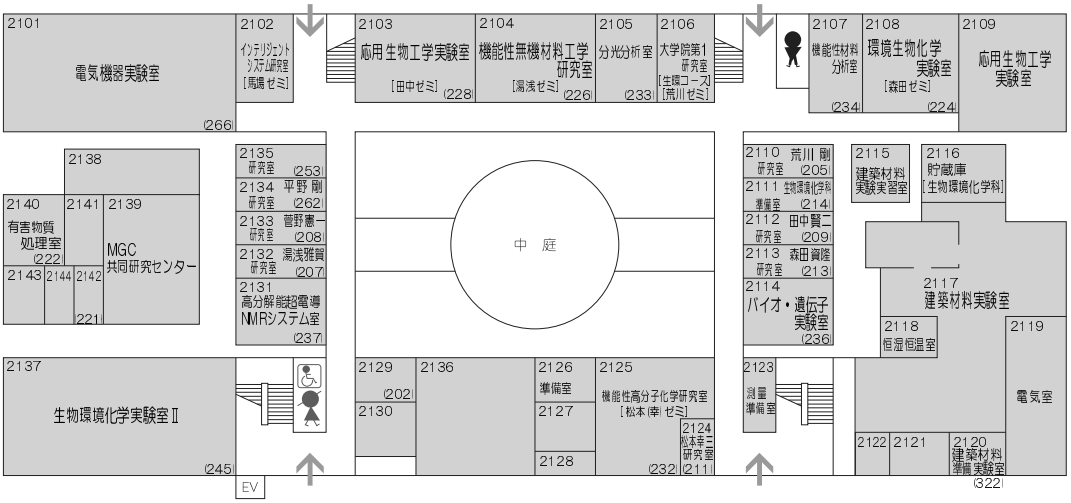
3F


至5号館
2301 製図室 [建築・デザイン学科] (326)
2302 アクティブラーニング室（建築・デザイン学科）
2303 益田信也研究室 (312)
2304 建築計画研究室 [益田ゼミ]
2305 CAD室 (323)
2306 建築力学研究室 [小野ゼミ]
2307 津田和明研究室 (302)
2308 建築設計研究室 [小池ゼミ]
2309 建築施工研究室 [河上ゼミ]
2310 建築設備研究室 [鴻ゼミ]
2311 建築都市環境工学研究室 [依田ゼミ]
2312 建築工学準備室
2313 建築資料室
2344 セミナー室 (307)
2343 小池博研究室 (306)
2342 [津田ゼミ] 建築構造研究室
2341 井原徹研究室 (304)
2339 建築計画・設計研究室 [井原ゼミ]
2314 研究室 (301)
2315 依田浩敏研究室 (313)
2316 堀英祐研究室 (303)
2317 河上義人研究室 (309)
2318 建築セミナー室B
2319 小野聡子研究室 (308)
2332・2333
2331 環境工学セミナー室 (575)
2330 環境工学実験室 (574)
2329 環境工学実験室 (573)
2328 製図準備室 [建築・デザイン学科] (310)
2334 環境自然科学計算室
2335・2336 (452)
2337・2338 (458)
2327 製図・造形室 [建築・デザイン学科] (325)
倉庫
2320 藤尾光彦研究室 (465)
2321 非線形数理研究室 [藤尾ゼミ]
2322 金光滋研究室 (460)
2326 塚田春雄研究室 (468)
2325 環境自然科学実験室
2324 環境自然科学研究室 (570)
2323 [塚田ゼミ] (571)
EV

2F

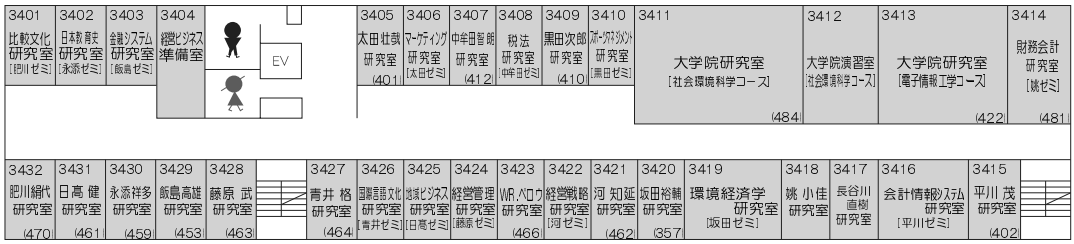

2201 準備室
2202 生体高分子工学実験室 [菅野ゼミ] (229)
2203 環境材料科学実験室 [岡ゼミ] (225)
2205 卒業研究室 [生物環境科学科]
2204 赤外分光分析室
2206 電気通信工学科 測定室
2207 センシングシステム実験室
2208 バイオエレクトロニクス研究室 [江崎ゼミ]
2209 イメージセンシング研究室 [江上ゼミ]
2210 電磁エネルギー工学研究室 [牟田ゼミ]
2211 電力応用実験室 (270)
2213 電気通信工学科資料室
2212 暗室
2214 電気通信工学科5のくくり工房
2215 電子工学実験室 (265)
2237 研究室 (201)
2236 岡伸人研究室 (204)
2235 江崎秀研究室 (260)
2234 馬場博巳研究室 (254)
2233 知能ロボットシステム研究室 [平野ゼミ]
2216 江上典文研究室 (259)
2217 松崎隆哲研究室 (252)
2218 牟田浩司研究室 (251)
2219 喜屋武毅研究室 (257)
2220 高電圧パルスパワー研究室 [喜屋武ゼミ]
2232 電子応用実験室 (288)
2231 ロボット工学研究室
2230 電気通信工学科準備室 (263)
2229 大学院第3研究室 [電子・機械工学コース]
2228 電気基礎実験室 (264)
2226 システム工学研究室 [原谷ゼミ]
2225 原谷直実研究室 (261)
2227 準備室
倉庫
2224 今宿亙研究室 (258)
2223 情報通信システム研究室 [今宿ゼミ]
2222 知能処理アーキテクチャ研究室 [松崎ゼミ] (279)
2221 情報工学実験室Ⅲ (280)
EV

1F


2101 電気機器実験室 (266)
2102 インテリジェントシステム研究室 [馬場ゼミ]
2103 応用生物工学実験室 [田中ゼミ] (228)
2104 機能性無機材料工学研究室 [湯浅ゼミ] (226)
2105 分光分析室 (233)
2106 大学院第1研究室 [生環コース] [荒川ゼミ]
2107 機能性材料分析室 (234)
2108 環境生物化学実験室 [森田ゼミ] (224)
2109 応用生物工学実験室
2138
2140 有害物質処理室 (222)
2141
2139 MGC共同研究センター
2143
2144
2142
(221)
2135 研究室 (253)
2134 平野剛研究室 (262)
2133 曽野慶一研究室 (208)
2132 湯浅雅賀研究室 (207)
2131 高分解能超電導NMRシステム室 (237)
中庭
2110 荒川剛研究室 (205)
2111 生物環境化学科準備室 (214)
2112 田中賢二研究室 (209)
2113 森田資隆研究室 (213)
2114 バイオ・遺伝子実験室 (236)
2115 建築材料実験実習室
2116 貯蔵庫 [生物環境化学科]
2117 建築材料実験室
2118 恒温恒湿室
2119 電気室
2137 生物環境化学実験室Ⅱ (245)
2129 (202)
2130
2136
2126 準備室
2127
2128
2125 機能性高分子化学研究室 [松本(幸)ゼミ] (232)
2124 松本幸二研究室 (211)
2123 測量準備室
2122
2121
2120 建築材料準備実験室 (322)
EV
N

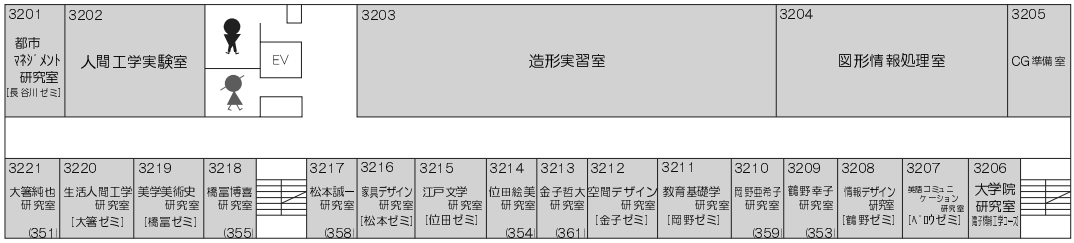
3号館

4F

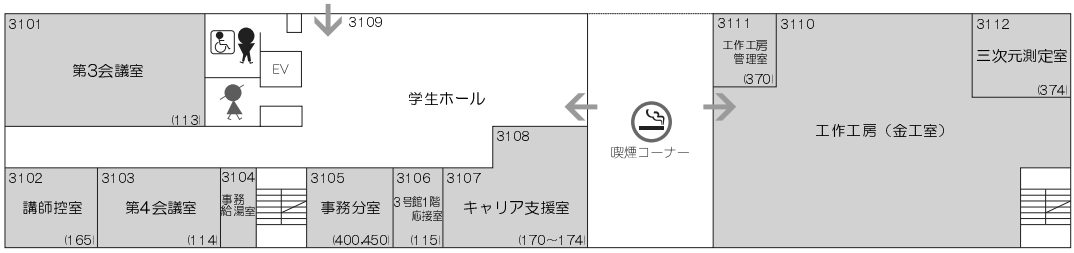


3F

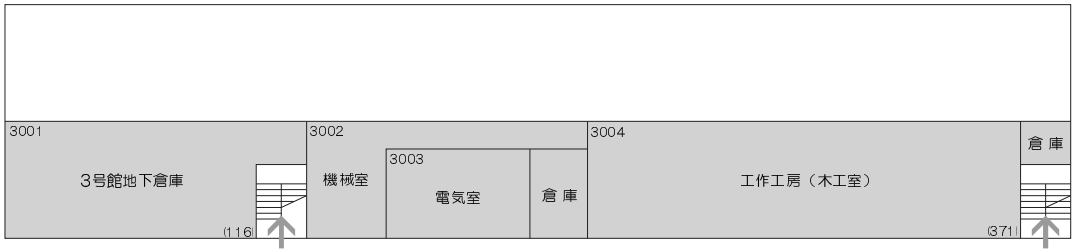
2F



1F



B1

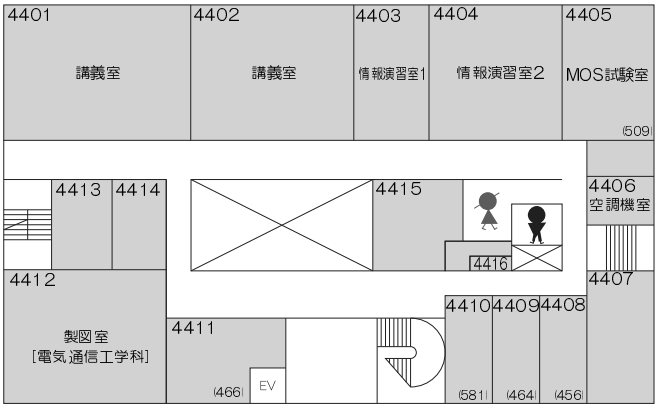


N

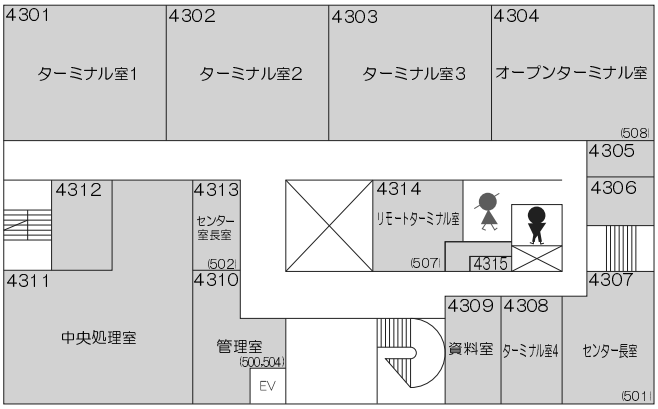
KINDAI UNIVERSITY
Faculty of Humanity-Oriented Science and Engineering

４号館

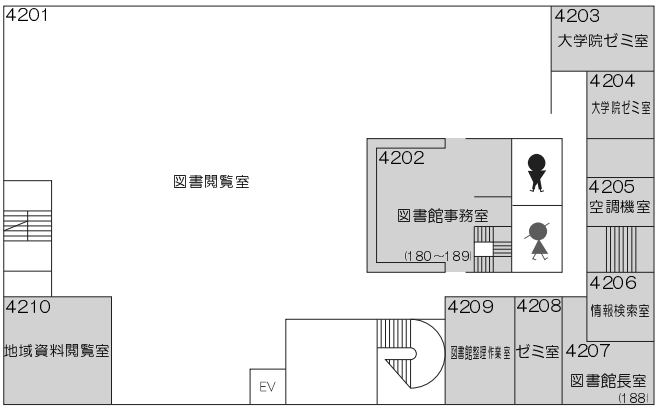
4F



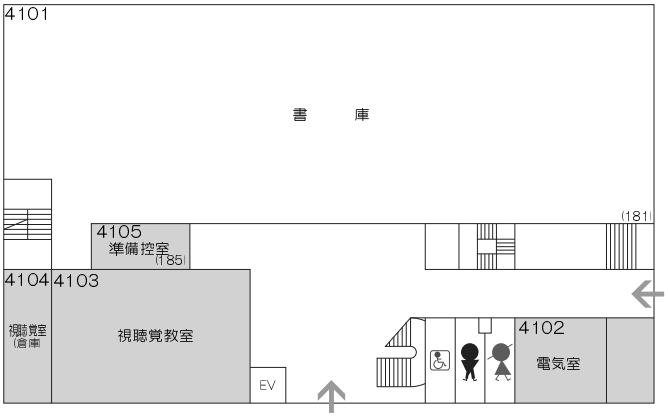
3F

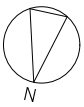


2F



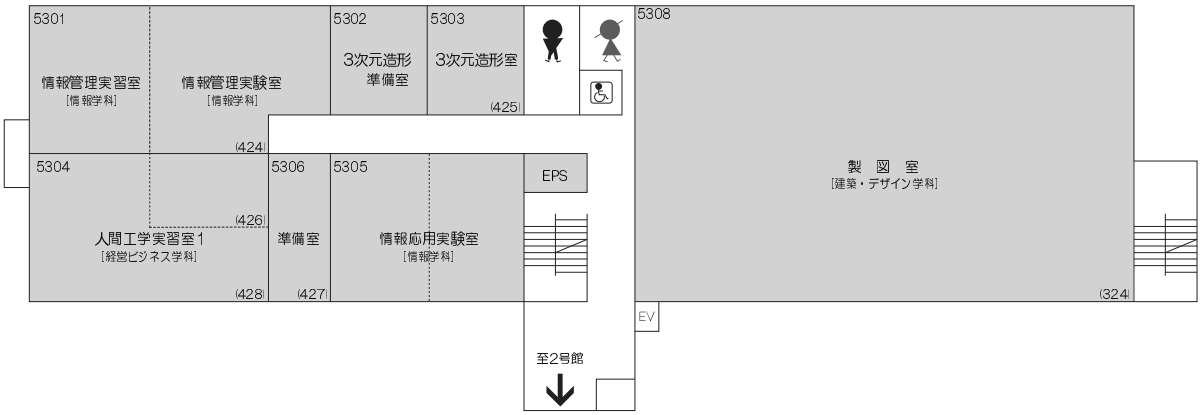
1F



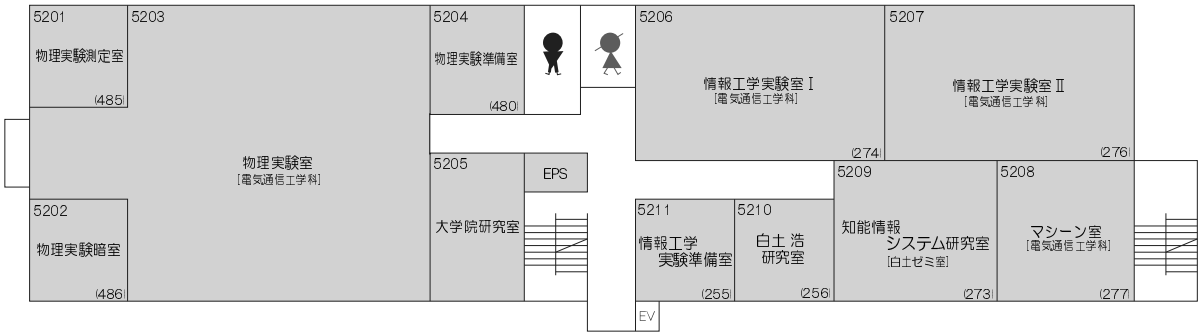


5号館

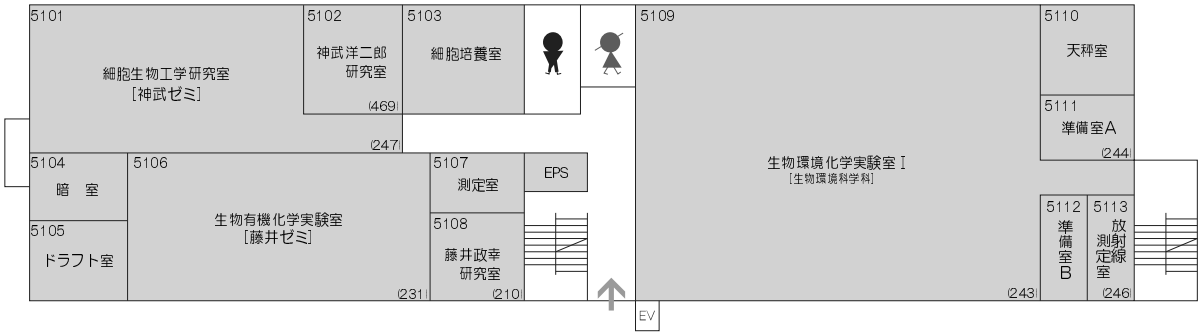
3F



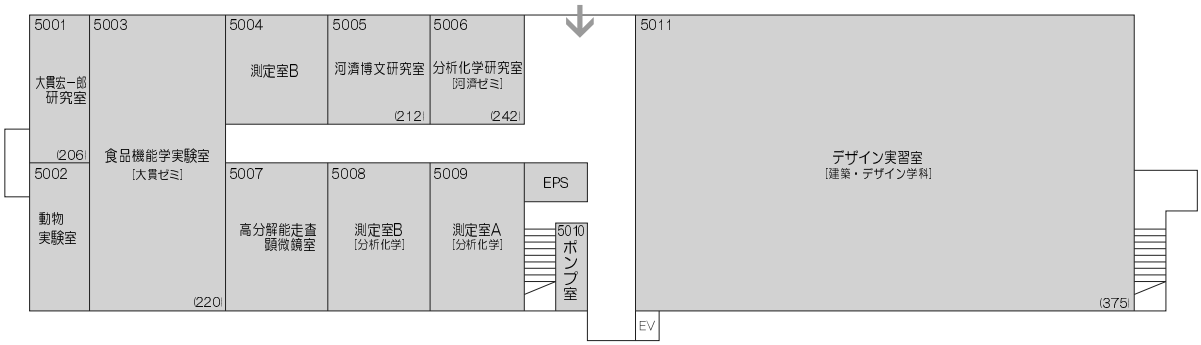
2F

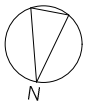


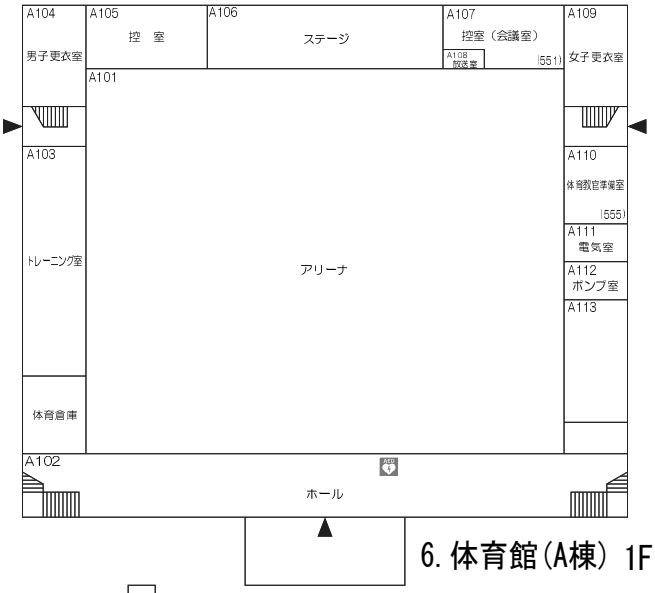
1F



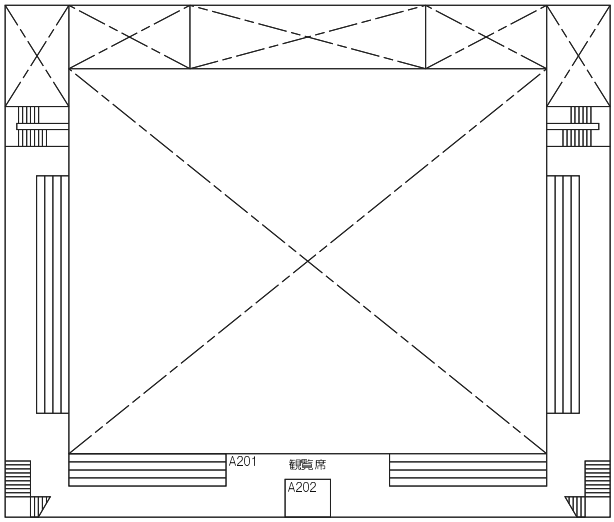
G1F





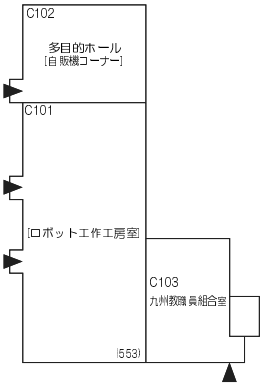


6. 体育館(A棟) 1F

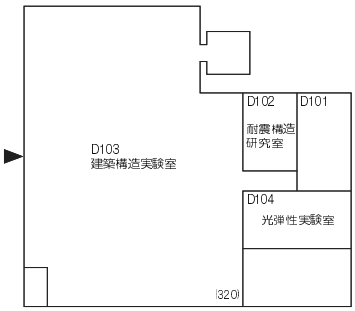


2F

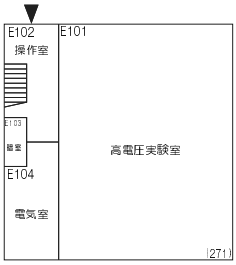
7. トレーニングセンター（B棟）



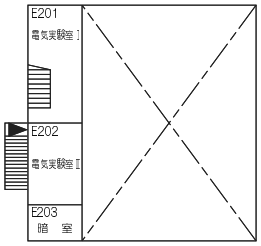
38. 多目的ホール・ロボット工作工房（C棟）



11. 構造実験室（D棟）

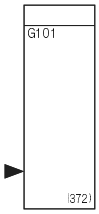


9. 高電圧実験室（E棟）1F

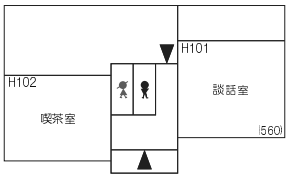


2F

8. 塗装実習室（F棟）



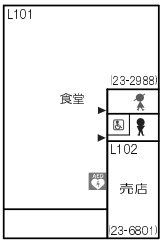
28. （G棟）



39. ログハウス
［バウヒュッテ］（H棟）

14. 守衛室（I棟）

32. 環境実験室（J棟）



40. 食堂・売店（L棟）

サークル棟群（K棟群）

26.弓道場（的場）　25.弓道場（射場）

K123 的場
K124 弓道場(射場)

24.倉庫

K140 倉　庫

30.第２クラブハウス

K128 第2研修室
K129 サッカー
K130 ラグビー
K131 学友会

19. 剣道場

K125 剣道場
剣道場(更衣室)

20.陶器研究会部室

K132 陶器研究会部室

16.第１クラブハウス

2F
K214 生物環境科学研究会
K213 弓　道
K212 テニス
K211 陸上競技
K210 美術部
K209 HAC
K208 空　室
K207 アイスホッケー
K206 ハンドボール
K205 環境ボランティア
K204 硬式テニス
K203 空　室
K202 さんりこ楽団
K201 フットサル

1F
K122 道 場(倉庫)
K121 団体執行部会議室 (554)
K120 学友会
K119 体育会
K118 学術文化会 (561)
K117 吹奏楽
K116 準硬式野球
K115 軽音楽

18. 倉庫

K126 倉　庫

23.第3クラブハウス

1F
K133 ボランティア総務
K134 防犯ボランティア
K135 コピー室
K136 柏の森祭実行委員会 (556)
K137 学生健保共済会 (562)
K138 第1研修室

2F
K216 本　部
K217 楽器庫
K218 吹奏楽部音楽練習場

17. 柔道場

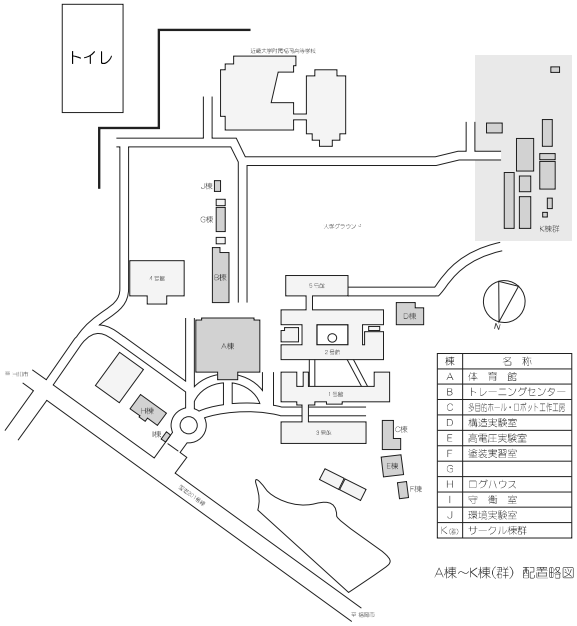
K127 柔道場

22.クラブハウス（浴室）

K139 浴　室

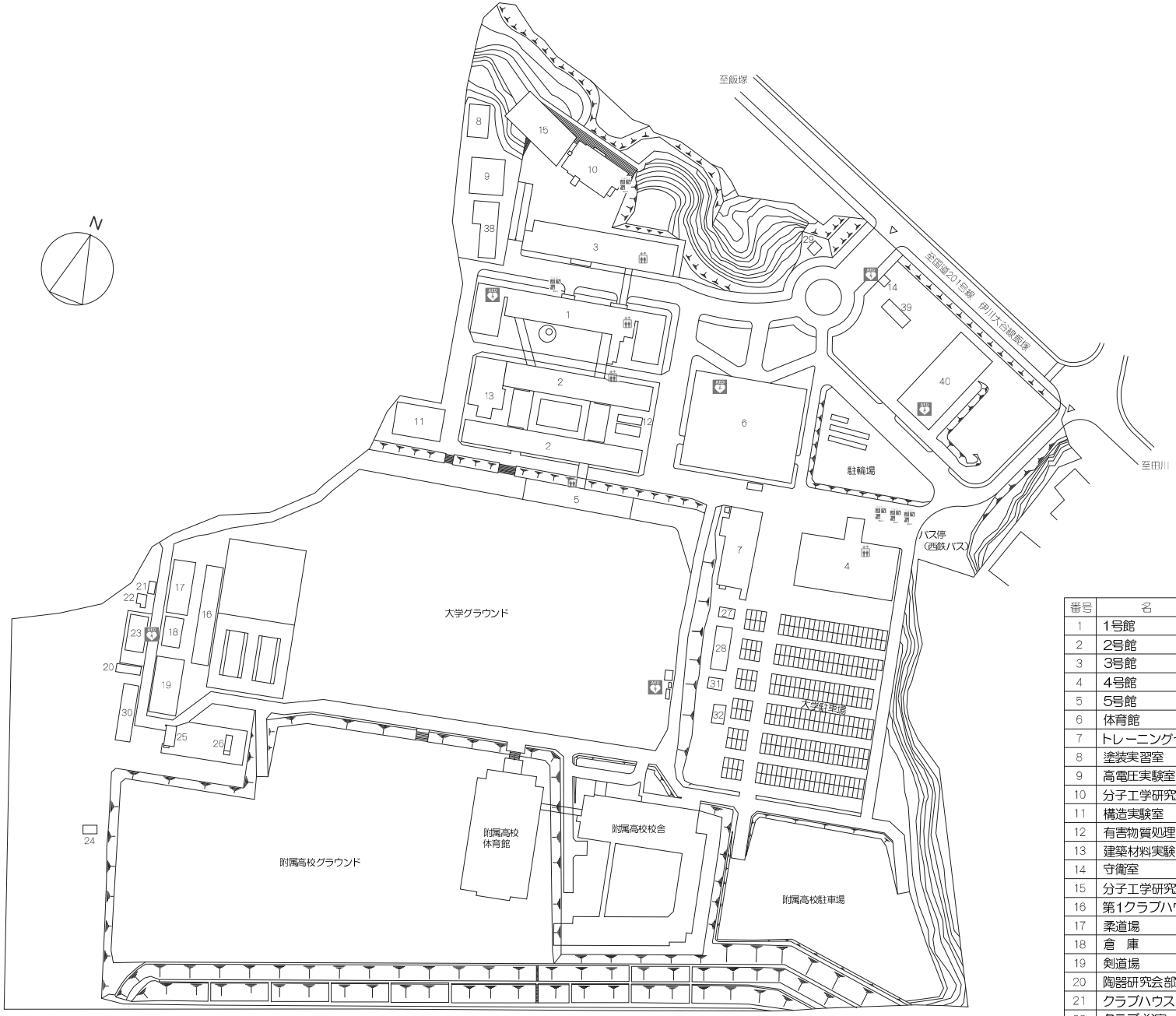
21. クラブハウス（トイレ）

トイレ



棟	名　称
A	体　育　館
B	トレーニングセンター
C	多目的ホール・ロボット工作工房
D	構造実験室
E	高電圧実験室
F	塗装実習室
G	
H	ログハウス
I	守　衛　室
J	環境実験室
K(群)	サークル棟群

A棟～K棟(群)　配置略図



番号	名　　称	番号	名　　称
1	1号館	23	第3クラブハウス
2	2号館	24	倉庫
3	3号館	25	弓道場（射場）
4	4号館	26	弓道場（的場）
5	5号館	27	温　室
6	体育館	28	G 棟
7	トレーニングセンター	29	
8	塗装実習室	30	第2クラブハウス
9	高電圧実験室	31	清掃業者控室
10	分子工学研究室（B棟）	32	環境実験室
11	構造実験室	33	
12	有害物質処理室	34	
13	建築材料実験室	35	
14	守衛室	36	
15	分子工学研究室（A棟）	37	
16	第1クラブハウス	38	多目的ホール・ロボット工作工房
17	柔道場	39	ログハウス（ベーカリー）
18	倉　庫	40	食堂・売店
19	剣道場		
20	陶器研究会部室		
21	クラブハウス トイレ		まごころ駐車場（5ヶ所）
22	クラブ 浴室		AED設置箇所（6ヶ所）

近畿大学産業理工学部　配置図

履修の手引（平成28年度）

編　集　産業理工学部 教務委員会
発　行　近畿大学　産業理工学部
印　刷　よしみ工産株式会社